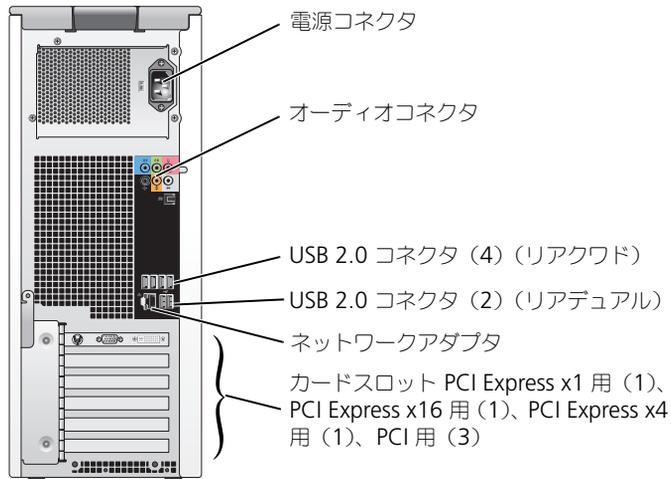
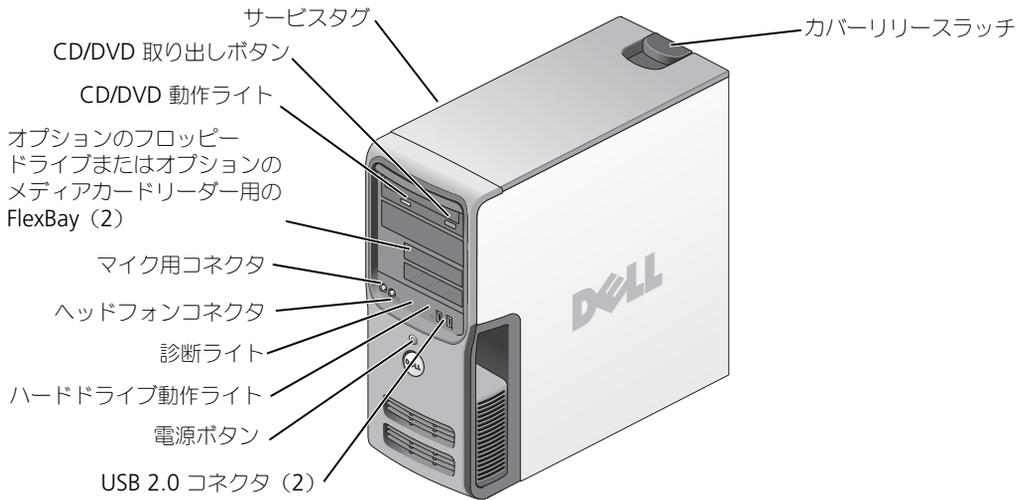


Dell™ Dimension™ 9200

オーナーズマニュアル



モデル DCTA

メモ、注意、警告



メモ: コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。



注意: ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。



警告: 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

Dell™ n シリーズコンピュータをご購入いただいた場合、このマニュアルの Microsoft® Windows® オペレーティングシステムについての説明は適用されません。

この文書の情報は、事前の通知なく変更されることがあります。

© 2006 すべての著作権は Dell Inc. にあります。

Dell Inc. の書面による許可のない複製は、いかなる形態においても厳重に禁じられています。

本書に使用されている商標：Dell、DELL のロゴ、Inspiron、Dell Precision、Dimension、OptiPlex、Latitude、PowerEdge、PowerVault、PowerApp、PowerConnect、XPS、DellNet、Dell TravelLite、Dell OpenManage、および StrikeZone は Dell Inc. の商標です。Core は Intel Corporation の商標です。Intel、Pentium、Intel SpeedStep、Celeron、および Viiv は Intel Corporation の登録商標です。Microsoft、Windows、および Outlook は Microsoft Corporation の登録商標です。EMC は EMC Corporation の登録商標です。Bluetooth のワードマークは Bluetooth SIG, Inc. が所有しており、Dell Inc. はライセンスに基づきこのマークを使用しています。

本書では、上記記載以外の商標や会社名が使用されている場合があります。これらの商標や会社名は、一切 Dell Inc. に帰属するものではありません。

モデル DCTA

2006 年 10 月

P/N WH349

Rev. A02

目次

情報の検索方法	9
1 コンピュータのセットアップと使い方	13
コンピュータの正面図	13
コンピュータの背面図	15
背面パネルコネクタ	16
モニターの接続	17
2 台の VGA コネクタ付きモニターの接続	17
VGA コネクタ付きモニターと DVI コネクタ付きモニターの接続	18
テレビ (TV) の接続	18
画面設定の変更	19
プリンタのセットアップ	20
プリンタケーブル	20
USB プリンタの接続	20
インターネットへの接続	21
インターネット接続のセットアップ	21
ホームネットワークおよびオフィスネットワークのセットアップ	22
ネットワークアダプタへの接続	22
ネットワークセットアップウィザード	23
新しいコンピュータへの情報の転送	23
オペレーティングシステム CD を使用してファイルと設定の 転送ウィザードを実行する場合	24
オペレーティングシステム CD を使用せずにファイルと設定の 転送ウィザードを実行する場合	25
CD および DVD の再生	26
CD または DVD の再生	26
ボリュームの調整	27
画像の調整	27
CD および DVD をコピーするには	28
CD または DVD のコピーの仕方	28
空の CD および DVD の使い方	28
便利なヒント	29
メディアカードリーダー (オプション) の使い方	30
IEEE 1394 (オプション)	31

電力の管理	31
概要	31
スタンバイモード	31
休止状態モード	32
電源オプションのプロパティ	32
コンピュータのクリーニング	33
コンピュータ、キーボード、および モニターのクリーニング	33
マウスのクリーニング	34
フロッピードライブのクリーニング	34
CD および DVD のクリーニング	34
2 性能の最適化	35
ハイパースレッディング	35
RAID 構成について	35
RAID レベル 0 構成	35
RAID レベル 1 構成	36
コンピュータを RAID に構成する	37
Intel® RAID Option ROM ユーティリティの使い方	38
Intel® Application Accelerator の使い方	39
Dell DataSafe (オプション)	42
Intel® Viiv™ テクノロジ (オプション)	43
Intel® Viiv™ クイックレジュームテクノロジ (QRT) の使い方	43
セットアップユーティリティで QRT 機能を有効にする手順	43
オペレーティングシステムで QRT 機能を有効にする手順	43
3 問題の解決	45
トラブルシューティングのヒント	45
バッテリーの問題	45
ドライブの問題	46
CD および DVD ドライブの問題	46
ハードドライブの問題	47
E-メール、モデム、およびインターネットの問題	47
エラーメッセージ	48
メディアカードリーダーの問題	49
キーボードの問題	50

フリーズおよびソフトウェアの問題	50
コンピュータが起動しない	50
コンピュータが応答しない	50
プログラムが応答しない	51
プログラムが繰り返しクラッシュする	51
プログラムが以前の Windows オペレーティングシステム向けに 設計されている	51
画面が青色（ブルースクリーン）になった	51
その他のソフトウェアの問題	52
メモリの問題	52
マウスの問題	53
ネットワークの問題	54
電源の問題	54
プリンタの問題	55
スキャナーの問題	56
サウンドおよびスピーカーの問題	57
スピーカーから音が出ない場合	57
ヘッドフォンから音が出ない場合	57
ビデオとモニターの問題	58
画面に何も表示されない	58
画面が見づらい	58
4 トラブルシューティングツール	59
診断ライト	59
Dell Diagnostics（診断）プログラム	62
Dell Diagnostics（診断）プログラムのメインメニュー	62
ドライバ	63
ドライバとは？	63
ドライバの識別	63
ドライバの再インストール	64
ソフトウェアとハードウェアの非互換性の解決	65
お使いのオペレーティングシステムの復元	65
Microsoft Windows XP システムの復元の使い方	65
Symantec の Dell PC リストアの使い方	67

5	部品の取り外しと取り付け	69
	作業を開始する前に	69
	奨励するツール	69
	コンピュータの電源を切る	69
	コンピュータ内部の作業を始める前に	70
	コンピュータカバーの取り外し	70
	コンピュータ内部	72
	システム基盤コンポーネント	73
	メモリ	74
	メモリの概要	74
	メモリの取り付け	75
	メモリの取り外し	77
	カード	78
	PCI カード	78
	PCI Express カード	82
	ドライブパネル	91
	ドライブパネルの取り外し	91
	ドライブベイカバーの取り外し	92
	ドライブベイカバーの取り付け	92
	ドライブパネルの取り付け	93
	ドライブ	94
	一般的な取り付けガイドライン	94
	ハードドライブ	94
	ハードドライブの取り外し	95
	ハードドライブの取り付け	96
	2 台目のハードドライブの追加	97
	フロッピードライブ	99
	フロッピードライブの取り外し	99
	フロッピードライブの取り付け	100
	メディアカードリーダー	102
	メディアカードリーダーの取り外し	102
	メディアカードリーダーの取り付け	104
	CD/DVD ドライブ	106
	CD/DVD ドライブの取り外し	106
	CD/DVD ドライブの取り付け	107
	バッテリー	109
	バッテリーの取り付け	109
	コンピュータカバーの取り付け	110

6 付録	111
仕様	111
セットアップユーティリティ	115
概要	115
セットアップユーティリティの起動	115
セットアップオプション	116
Boot Sequence	120
忘れたパスワードの消去	121
CMOS 設定のリセット	122
デルテクニカルサポート規定（アメリカ合衆国のみ）	122
「デルがインストールまたは取り付けを行った」ソフトウェアと 周辺機器の定義	123
「サードパーティ」のソフトウェアと周辺機器の定義	123
FCC の通達（アメリカ合衆国のみ）	123
FCC クラス B	123
デルへのお問い合わせ	124
用語集	125
索引	137

情報の検索方法

-  **メモ**：一部の機能やメディアはオプションなので、出荷時にコンピュータに搭載されていない場合があります。特定の国では使用できない機能やメディアもあります。
-  **メモ**：このオーナーズマニュアルは support.jp.dell.com から PDF ファイルとしてダウンロードできます。
-  **メモ**：追加の情報がコンピュータに同梱されている場合があります。

何をお探しですか？

- コンピュータの診断プログラム
- コンピュータのドライバ
- デバイスのマニュアル
- DSS（デスクトップシステムソフトウェア）

こちらをご覧ください

『Drivers and Utilities CD』（『Resource CD』）

メモ：『Drivers and Utilities CD』はオプションなので、出荷時にすべてのコンピュータに付属しているわけではありません。

マニュアルおよびドライバは、本コンピュータにすでにインストールされています。この CD は、ドライバの再インストール（63 ページの「ドライバ」を参照）、Dell Diagnostics（診断）プログラムの実行（62 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照）、またはマニュアルにアクセスするときに使用します。

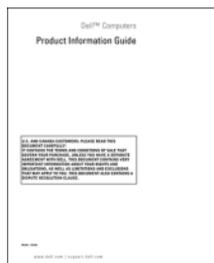


CD 内に **Readme** ファイルが含まれている場合があります。この **Readme** ファイルでは、コンピュータの技術的変更に関する最新のアップデートや、技術者または専門知識をお持ちのユーザーを対象とした高度な技術資料を参照できます。

メモ：ドライバおよびマニュアルのアップデート版は、support.jp.dell.com で入手できます。

- 安全にお使いいただくための注意
- 認可機関の情報
- 作業姿勢に関する情報
- エンドユーザライセンス契約

Dell™ 製品情報ガイド



何をお探しですか？

- サービスタグとエクスプレスサービスコード
- Microsoft® Windows® Product Key (プロダクトキー) ラベル

こちらをご覧ください

サービスタグおよび Microsoft Windows Product Key (プロダクトキー)

これらのラベルはお使いのコンピュータに貼られています。

- サービスタグは、**support.jp.dell.com** をご参照の際に、またはサポートへのお問い合わせの際に、コンピュータの識別に使用します。



- エクスプレスサービスコードを利用すると、サポートに直接電話で問い合わせることができます。

- 技術情報 — トラブルシューティングのヒント、技術者による論説、およびよくあるお問い合わせ (FAQ)
- サービスと保証 — お問い合わせ先、保証、および修理に関する情報
- サービスおよびサポート — サービス契約
- 参照資料 — コンピュータのマニュアル、コンピュータの設定の詳細、製品の仕様、およびホワイトペーパー
- ダウンロード — 認定されたドライバ、パッチ、およびソフトウェアのアップデート
- デスクトップシステムソフトウェア (DSS) — お使いのコンピュータでオペレーティングシステムを再インストールする場合は、DSS ユーティリティも再インストールする必要があります。DSS は、お使いのコンピュータとオペレーティングシステムを自動的に検知し、構成に合わせて適切なアップデートをインストールします。具体的には、オペレーティングシステムに加えて、Dell™ 3.5 インチ USB フロッピードライブ、Intel® プロセッサ、オプティカルドライブ、および USB デバイスのサポートに関する重要なアップデートを提供します。DSS はお使いの Dell コンピュータが正しく動作するために必要なものです。

デルサポートサイト — support.jp.dell.com

メモ：適切なサポートサイトを表示するには、お住まいの地域または業務部門を選択します。

ノートブックシステムソフトウェアは、**support.jp.dell.com** にてダウンロードできます。
メモ： support.jp.dell.com のユーザーインタフェースは、選択の仕方によって異なります。

- Windows XP の基本情報
- プログラムとファイルの操作方法
- デスクトップのカスタマイズ方法

Windows ヘルプとサポートセンター

- 1 **スタート** → **ヘルプとサポート** とクリックします。
- 2 問題に関連する用語やフレーズを検索ボックスに入力して、矢印アイコンをクリックします。
- 3 問題に関連するトピックをクリックします。
- 4 画面の指示に従います。

何をお探ですか？

- オペレーティングシステムの再インストール方法

こちらをご覧ください

オペレーティングシステム CD

メモ：『オペレーティングシステム CD』はオプションなので、出荷時にお使いのコンピュータに必ずしも付属しているわけではありません。

オペレーティングシステムは、本コンピュータにすでにインストールされています。オペレーティングシステムの再インストールについては、65 ページの「お使いのオペレーティングシステムの復元」を参照してください。



オペレーティングシステムを再インストールした後、『Drivers and Utilities CD』を使用して、コンピュータに付属しているデバイス用のドライバを再インストールします。

オペレーティングシステムの Product key (プロダクトキー) ラベルは、コンピュータに貼付されています。

メモ：注文されたオペレーティングシステムによって、CDの色が違います。

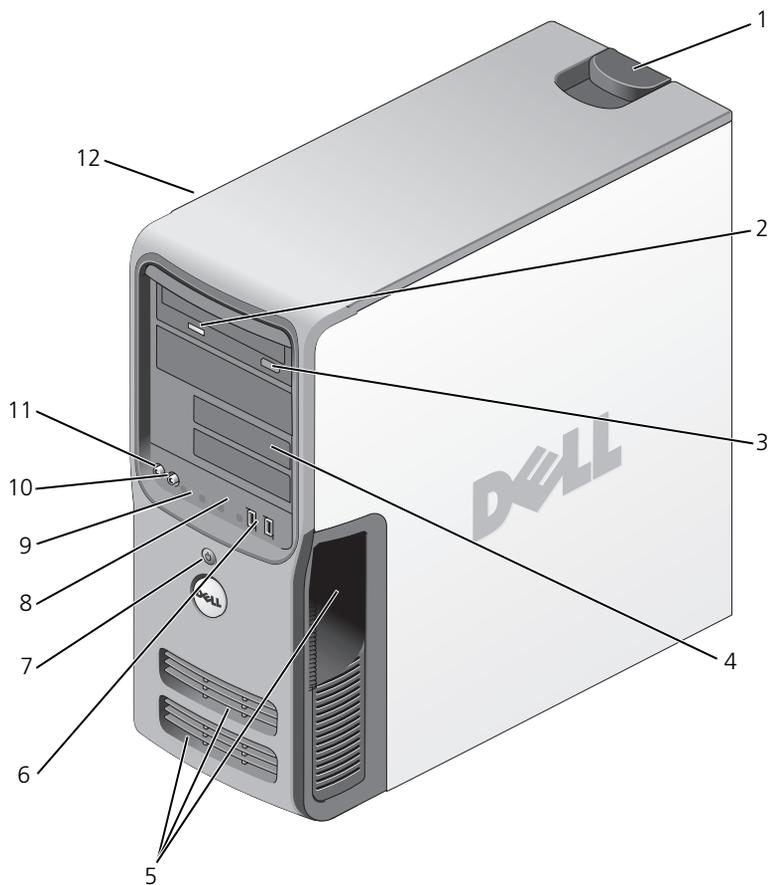
-
- Linux の使い方
 - Dell Precision™ 製品および Linux オペレーティングシステムのユーザーによる E-メールディスカッション
 - Linux と Dell Precision コンピュータに関する追加情報

Dell がサポートする Linux サイト

- linux.dell.com
- lists.us.dell.com/mailman/listinfo/linux-precision

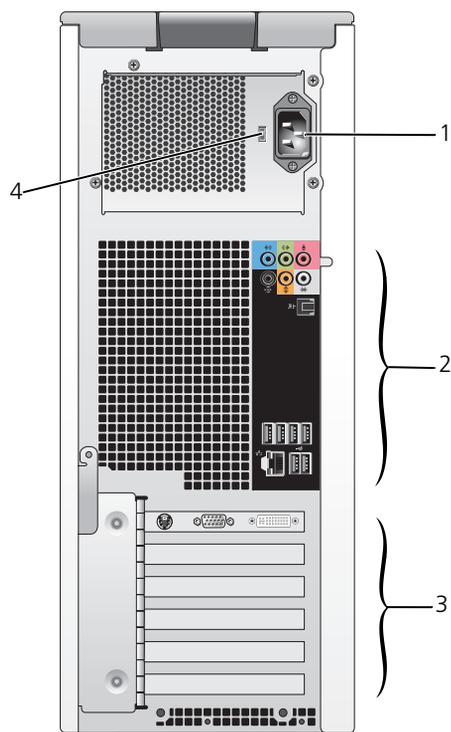
コンピュータのセットアップと使い方

コンピュータの正面図



1	カバーリリースラッチ	このラッチは、カバーの取り外しに使用します（70 ページの「コンピュータカバーの取り外し」を参照）。
2	CD/DVD 動作ライト	CD または DVD ドライブのライトは、コンピュータが CD または DVD ドライブからデータを読み書きする際に点灯します。
3	CD/DVD 取り出しボタン	この取り出しボタンを押して、CD または DVD ドライブからディスクを取り出します。
4	FlexBay ドライブ（2）	オプションのフロッピードライブまたはオプションのメディアカードリーダーを装着できます。メディアカードリーダーの使い方の詳細に関しては、30 ページの「メディアカードリーダー（オプション）の使い方」を参照してください。
5	通気孔	十分な冷却効果を得るために、通気孔を塞がないようにしてください。  注意： すべての通気孔とその付近にある物の間に、少なくとも 5 cm のスペースがあることを確認してください。  注意： 通気孔部分は常に清潔でほこりがないようにし、システムに十分な通気を確保してください。システムが水によって損傷するのを避けるため、通気孔部分をクリーニングする際は乾いた布だけを使用してください。
6	USB 2.0 コネクタ（2）	前面の USB コネクタは、フラッシュメモリーキー、カメラ、起動可能な USB デバイスなど、ときどき接続するデバイスに使用してください。USB デバイスからの起動の詳細に関しては、116 ページの「セットアップオプション」を参照してください。 メモ： プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用することをお勧めします。
7	電源ボタン	電源ボタンを押してコンピュータの電源をオンにします。  注意： データの損失を防ぐため、電源ボタンを押してコンピュータの電源を切らないでください。電源ボタンを押す代わりに、オペレーティングシステムのシャットダウンを実行してください。
8	ハードドライブ動作ライト	ハードドライブライトは、コンピュータがハードドライブからデータを読み書きしている場合に点灯します。このライトは、CD プレーヤーなどのデバイスが動作中にも点灯します。
9	診断ライト（4）	一連の診断ライトは、コンピュータの問題を解決するのに役立ちます（59 ページの「診断ライト」を参照）。
10	ヘッドフォンコネクタ	ヘッドフォンコネクタを使用して、ヘッドフォンおよびほとんどの種類のスピーカーを取り付けることができます
11	マイク用コネクタ	マイクコネクタにパーソナルコンピュータ用マイクを接続して、音声や音楽をサウンドまたはテレフォニープログラムに入力します。
12	サービスタグ	サービスタグは、デルサポートサイトをご参照の際、またはサポートへのお問い合わせの際に、コンピュータの識別に使用します。

コンピュータの背面図



1	電源コネクタ	電源ケーブルを差し込みます。
2	背面 I/O コネクタ	USB、ネットワーク、S/PDIF、およびオーディオの各デバイスをそれぞれ該当するコネクタに接続します（16 ページの「背面パネルコネクタ」を参照）。
3	カードスロット（6）	取り付けられたすべての PCI または PCI Express カード用のアクセスコネクタです。
4	電源切り替えスイッチ	手動で AC 入力電源を選択します（115 ボルトまたは 230 ボルト）。

背面パネルコネクタ



1	リンク保全ライト	<ul style="list-style-type: none"> ● 緑色 — 10 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 ● 橙色 — 100 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 ● 黄色 — 1000 Mbps (1 Gbps) ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 ● オフ — コンピュータは物理的なネットワーク接続を検出していません。
2	ネットワークアダプタコネクタ	<p>➡ 注意: モデムケーブルをネットワークコネクタに接続しないでください。ネットワークアダプタコネクタは、ネットワークまたはブロードバンドデバイスにコンピュータを接続するために使用します。ネットワークケーブルの一方の端をネットワークジャックやネットワークまたはブロードバンドデバイスに接続し、ネットワークケーブルのもう一方の端をコンピュータのネットワークアダプタコネクタに接続します。カチッと収まったらネットワークケーブルはしっかりと接続されています。</p> <p>コンピュータにネットワークコネクタカードを追加した状態で、複数のネットワーク接続（別個のイントラネット、エクストラネットなど）を設定する場合は、そのカードとコンピュータの背面にコネクタを使用してください。</p> <p>メモ: カテゴリ 5 のケーブルを使用して、ネットワークを接続することをお勧めします。カテゴリ 3 のケーブルを使用する必要がある場合、ネットワーク速度を 10 Mbps にして動作の信頼性を確保します。</p>
3	ネットワーク動作ライト	<p>黄色のライトは、コンピュータがネットワークデータを送信、または受信している時に点滅します。ネットワークトラフィックが多い場合、このライトが「点灯」の状態に見えることがあります。</p>
4	USB 2.0 コネクタ (2) (リアデュアル)	<p>背面のリアデュアル USB コネクタは、プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスに使用します。</p> <p>メモ: ジョイスティックやカメラ、または起動可能な USB デバイスなど、時々接続するデバイスには、前面 USB コネクタを使用します。</p>
5	USB 2.0 コネクタ (4) (リアクワッド)	<p>背面のリアクワッド USB コネクタは、プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスに使用します。</p> <p>メモ: ジョイスティックやカメラ、または起動可能な USB デバイスなど、時々接続するデバイスには、前面 USB コネクタを使用します。</p>
6	サウンドサウンドコネクタ	<p>サラウンドサウンドコネクタ (黒色) を使用して、マルチチャンネル対応スピーカーを取り付けます。</p> <p>サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。</p>

7	ライン入力コネクタ	ライン入力コネクタ（青色）には、カセットプレーヤー、CD プレーヤー、VCR（ビデオカセットレコーダー）などの録音 / 再生デバイスを接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。
8	ライン出力 / ヘッドフォンコネクタ	ライン出力コネクタ（緑色）を使って、ヘッドフォンおよび内蔵アンプの付いたほとんどのスピーカーを接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。
9	マイク用コネクタ	マイクコネクタ（ピンク色）にパーソナルコンピュータ用マイクを接続し、音声や音楽をサウンドまたはテレフォニープログラムに入力します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。
10	センター / サブウーハー LFE コネクタ	センター / サブウーハーコネクタ（橙色）は、センタースピーカーまたは 1 つのサブウーハーを接続するために使用します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。 メモ： デジタルサラウンドサウンドオーディオ機構にある LFE（低周波エフェクト）オーディオチャンネルは、80 Hz 以下の低周波情報のみを伝達します。LFE チャンネルはサブウーハーを駆動し、極めて低い低音域拡張を提供します。サブウーハーを使用しないシステムの場合は、サラウンドサウンドのセットアップで LFE の情報をメインスピーカーに切り替えることができます。
11	サイドサラウンドサウンドコネクタ	サイドサラウンドサウンドコネクタ（灰色）を使用して、マルチチャンネル対応スピーカーを接続します。サイドサラウンド出力により、7.1 スピーカー付きのコンピュータに高度なサラウンドオーディオが提供されます。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。
12	S/PDIF コネクタ	S/PDIF コネクタは、アナログオーディオ変換処理を行わずにデジタルオーディオを送信する場合に使用します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。

モニターの接続

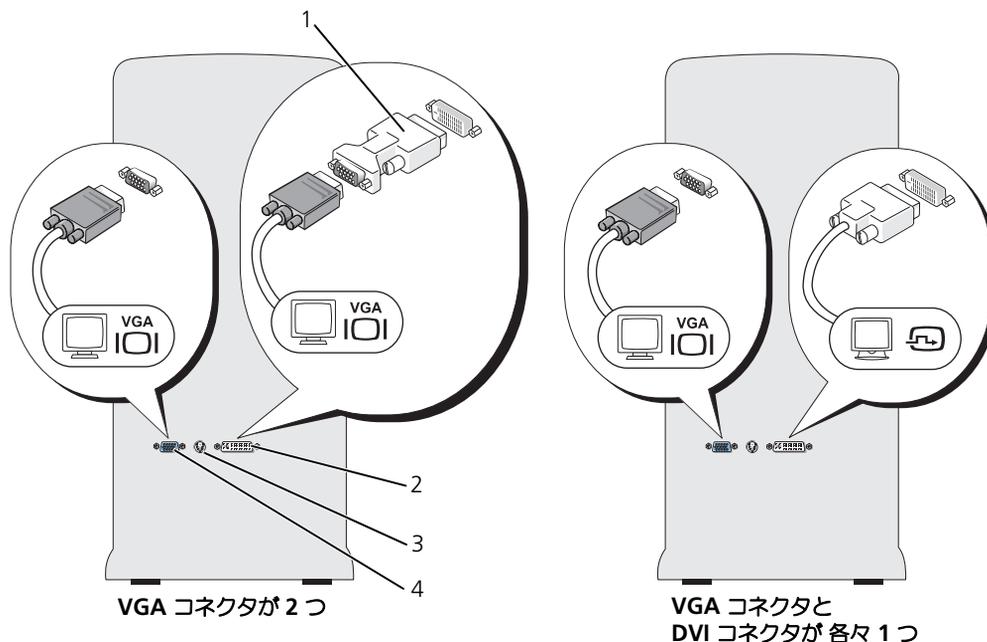
 **警告：**この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。

 **メモ：**お使いのコンピュータは、1 つの VGA と 1 つの DVI コネクタをサポートしています。VGA コネクタ付きのモニターを 2 台接続する場合、オプションの DVI-to-VGA アダプタを使用する必要があります。2 台のフラットパネルモニターを接続する場合、少なくとも 1 台に VGA コネクタがある必要があります。TV を接続する場合、TV に加えて接続できるモニターは 1 台のみです（VGA または DVI）。

デュアルモニターに対応しているグラフィックスカードをご購入された場合、以下の手順に従ってモニターを接続して有効にします。この手順では、2 台の VGA コネクタ付きモニター、1 台の VGA コネクタ付きモニターと 1 台の DVI コネクタ付きモニター、または TV の接続方法について説明します。

2 台の VGA コネクタ付きモニターの接続

- 1 69 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って操作してください。
- 2 片方のモニターをコンピュータ背面の（青色の）VGA コネクタに接続します。
- 3 もう片方のモニターをオプションの DVI-to-VGA アダプタに接続して、アダプタをコンピュータ背面の（白色の）DVI コネクタに接続します。



- 1 オプションの DVI-to-VGA アダプタ 2 DVI コネクタ (白色) 3 TV 出力コネクタ
4 VGA コネクタ (青色)

VGA コネクタ付きモニターと DVI コネクタ付きモニターの接続

- 1 69 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って操作してください。
- 2 1 台目のモニターの VGA コネクタをコンピュータ背面の (青色の) VGA コネクタに接続します。
- 3 2 台目のモニターの DVI コネクタをコンピュータ背面の (白色の) DVI コネクタに接続します。

テレビ (TV) の接続

メモ：ご使用の TV に付属のマニュアルを参照して、TV が正しく設定され、接続されていることを確認してください。

メモ：TV をコンピュータに接続するには S ビデオケーブルが必要です。S ビデオケーブルがない場合、ほとんどの家電製品店で購入することができます。お使いのコンピュータには、S ビデオケーブルは付属していません。

- 1 69 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って操作してください。
- 2 S ビデオケーブルの一端をコンピュータ背面のテレビ出力コネクタに接続します。
- 3 S ビデオケーブルのもう片方の端を、テレビの S ビデオ入力コネクタに接続します。
- 4 VGA または DVI モニターを接続します (17 ページの「モニターの接続」を参照)。

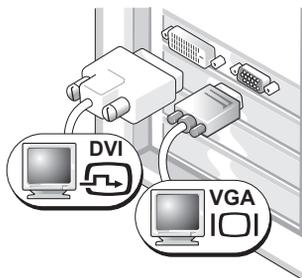
画面設定の変更

- 1 モニターまたは TV を接続したら、コンピュータの電源をオンにします。
Microsoft® Windows® デスクトップがプライマリモニターに表示されます。
- 2 画面設定で、クローンモードまたは拡張デスクトップモードを有効にします。
 - クローンモードでは、両方のモニターに同じ画像が表示されます。
 - 拡張デスクトップモードでは、1 つの画面から別の画面にオブジェクトをドラッグして、表示できるスペースを 2 倍にすることができます。

お使いのグラフィックスカードの画面設定を変更するには、ヘルプとサポートセンターのユーザズガイドを参照してください（スタート ボタン、ヘルプとサポート、ユーザズガイドおよびシステムガイド、デバイスガイド とクリックして、お使いのグラフィックスカードのガイドをクリックします）。

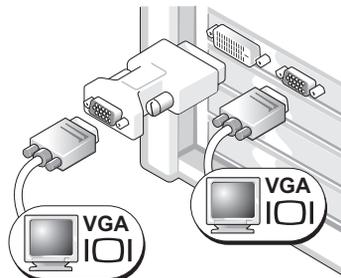
DVI コネクタおよび VGA コネクタが 1 つずつ付いたデュアルモニター対応カードの場合

DVI コネクタと VGA コネクタが 各々 1 つ



コンピュータを 1 台もしくは 2 台のモニターに接続するには、該当するコネクタを使用します。

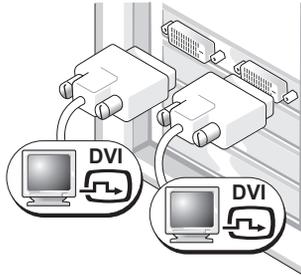
VGA コネクタ 2 つ、そのうち 1 つに VGA アダプタを装着



コンピュータを 2 台の VGA モニターに接続するには、DVI-to-VGA アダプタを使用します。

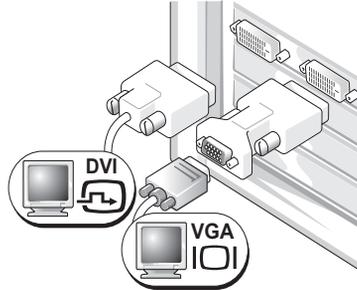
2つのDVIコネクタが付いたデュアルモニター対応カードの場合

DVI コネクタが2つ



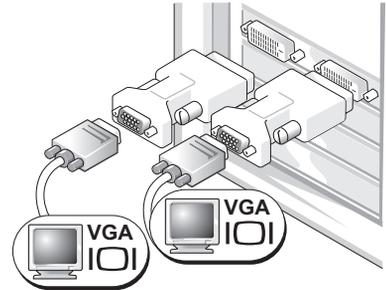
1台または2台のDVIモニターをコンピュータに接続する場合は、DVIコネクタを使用します。

2つのDVIコネクタと1つのDVI-to-VGAアダプタ:



1台のVGAモニターをコンピュータのDVIコネクタの1つに接続する場合は、DVI-to-VGAアダプタを使用します。

2つのDVIコネクタと2つのDVI-to-VGAアダプタ:



2台のVGAモニターをコンピュータのDVIコネクタに接続する場合は、DVI-to-VGAアダプタを2つ使用します。

プリンタのセットアップ

注意: オペレーティングシステムのセットアップを完了してから、プリンタをコンピュータに接続してください。以下の手順を含むセットアップ情報については、プリンタに付属のマニュアルを参照してください。

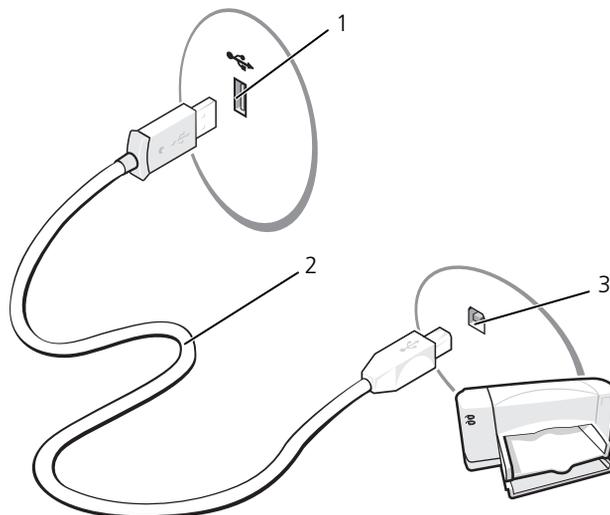
- アップデートされたドライバの入手とインストール
- プリンタのコンピュータへの接続
- 給紙およびトナー、またはインクカートリッジの取り付け
- プリンタの製造元からのテクニカルサポート

プリンタケーブル

お使いのプリンタは、USB ケーブルを使用してコンピュータに接続します。プリンタにはプリンタケーブルが付属されていない場合があります。ケーブルを別に購入する際は、プリンタと互換性があることを確認してください。コンピュータと一緒にプリンタケーブルを購入された場合は、ケーブルはコンピュータの箱に同梱されています。

USB プリンタの接続

- メモ:** USB デバイスは、コンピュータに電源が入っている状態でも、接続することができます。
- 1 オペレーティングシステムをまだセットアップしていない場合は、セットアップを完了します。
 - 2 必要であれば、プリンタドライバをインストールします（プリンタに付属のマニュアルを参照）。
 - 3 コンピュータとプリンタの適切な USB コネクタに、USB プリンタケーブルを接続します。コネクタは決まった方向にだけ差し込めるようになっています。



1 コンピュータの USB コネクタ 2 USB プリンタケーブル 3 プリンタの USB コネクタ

インターネットへの接続

メモ: ISP および ISP が提供するオプションは国によって異なります。

インターネットに接続するには、モデムまたはネットワーク接続、および AOL や MSN などの ISP（インターネットサービスプロバイダ）が必要です。ISP は、1 つまたは複数の以下のインターネット接続オプションを提供します。

- 電話回線を経由してインターネットにアクセスできるダイヤルアップ接続。ダイヤルアップ接続は、DSL やケーブルモデム接続に比べて速度がかなり遅くなります。
- 既存の電話回線を経由して高速のインターネットアクセスを提供する DSL 接続。DSL 接続では、インターネットにアクセスしながら同時に同じ回線で電話を使用することができます。
- 既存のケーブルテレビ回線を経由して高速のインターネットアクセスを提供するケーブルモデム接続。

メモ: ダイヤルアップ接続を使用する場合は、アドインの PCI モデム拡張カードが必要です。

ダイヤルアップ接続をお使いの場合は、インターネット接続をセットアップする前に、コンピュータのモデムコネクタおよび壁の電話コンセントに電話線を接続します。DSL またはケーブルモデム接続をお使いの場合、セットアップ手順についてはご利用の ISP にお問い合わせください。

インターネット接続のセットアップ

AOL または MSN 接続をセットアップするには、次の手順を実行します。

- 1 開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。
- 2 Microsoft® Windows® デスクトップの **MSN Explorer** または **AOL** アイコンをダブルクリックします。
- 3 画面の手順に従ってセットアップを完了します。

デスクトップに **MSN Explorer** または **AOL** アイコンがない場合、または別の **ISP** を使ってインターネット接続をセットアップしたい場合は、次の手順を実行します。

- 1 開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。
- 2 **スタート** ボタンをクリックして、**Internet Explorer** をクリックします。
新しい接続ウィザード が表示されます。
- 3 **インターネットに接続する** をクリックします。
- 4 次のウィンドウで、該当する以下のオプションをクリックします。
 - **ISP と契約されておらず、その 1 つを選びたい場合は、インターネットサービスプロバイダ (ISP) の一覧から選択する** をクリックします。
 - **ISP からセットアップ情報を入力済みではあるけれどもセットアップ CD をお持ちでない場合は、接続を手動でセットアップする** をクリックします。
 - **CD をお持ちの場合は、ISP から提供された CD を使用する** をクリックします。



メモ: どの種類の接続を選んだらよいかわからない場合は、ご契約の **ISP** にお問い合わせください。

- 5 **次へ** をクリックします。
接続を手動でセットアップする を選んだ場合、手順 6 に進みます。それ以外の場合は、画面の手順に従ってセットアップを完了してください。
- 6 **インターネットにどのように接続しますか?** で設定するオプションをクリックし、**次へ** をクリックします。
- 7 **ISP から提供されたセットアップ情報を使って、セットアップを完了** します。

インターネットにうまく接続できない場合、47 ページの「E-メール、モデム、およびインターネットの問題」を参照してください。過去にインターネットに正常に接続できていたのに接続できない場合、**ISP** のサービスが停止している可能性があります。サービスの状態について **ISP** に確認するか、後でもう一度接続してみてください。

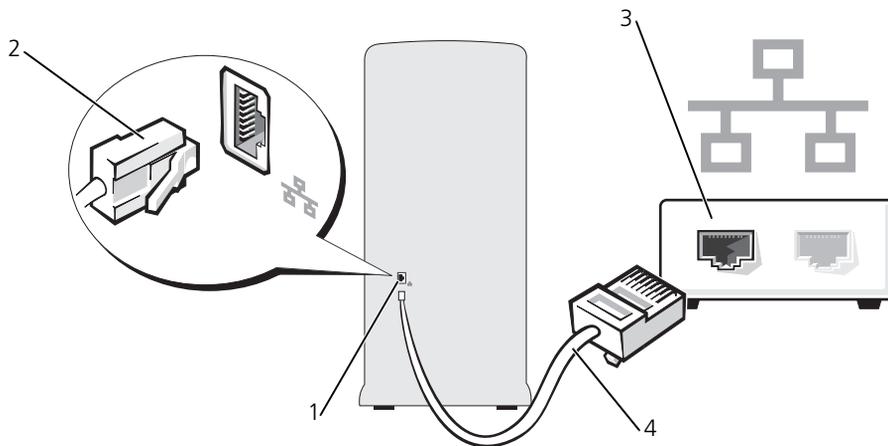
ホームネットワークおよびオフィスネットワークのセットアップ

ネットワークアダプタへの接続



注意: ネットワークケーブルをコンピュータのネットワークアダプタに差し込みます。ネットワークケーブルをコンピュータのモデムコネクタに差し込まないでください。ネットワークケーブルを壁の電話ジャックに差し込まないでください。

- 1 ネットワークケーブルをコンピュータ背面のネットワークアダプタコネクタに接続します。
ケーブルをカチッと所定の位置に収まるまで差し込みます。次に、ケーブルを軽く引っ張り、ケーブルの接続を確認します。
- 2 ネットワークケーブルのもう一方の端をネットワークデバイスに接続します。



- | | | | | | |
|---|-----------------------|---|----------------|---|------------|
| 1 | コンピュータのネットワークアダプタコネクタ | 2 | ネットワークアダプタコネクタ | 3 | ネットワークデバイス |
| 4 | ネットワークケーブル | | | | |

ネットワークセットアップウィザード

Microsoft® Windows® XP オペレーティングシステムには、家庭または小企業のコンピュータ間で、ファイル、プリンタ、またはインターネット接続を共有するための手順を案内するネットワークセットアップウィザードがあります。

- 1 スタート ボタンをクリックし、**すべてのプログラム → アクセサリ → 通信** とポイントして、**ネットワークセットアップウィザード** をクリックします。
- 2 ネットワークセットアップウィザードの**開始**の画面で、**次へ** をクリックします。
- 3 ネットワーク作成の**チェックリスト** をクリックします。

 **メモ:** インターネットに**直接接続している** という接続方法を選択すると、Windows XP Service Pack に設置されている内蔵ファイアウォールを使用することができます。

- 4 チェックリストの項目を完了し、必要な準備を行います。
- 5 ネットワークセットアップウィザードに戻り、画面の指示に従います。

新しいコンピュータへの情報の転送

Microsoft® Windows® XP オペレーティングシステムには、データを元のコンピュータから新しいコンピュータに転送する、**ファイルと設定の転送ウィザード** があります。下記のデータが転送できます。

- E-メールメッセージ
- ツールバーの設定
- ウィンドウのサイズ
- インターネットのブックマーク

アドインの PS2/ シリアルアダプタ（オプション）を使用してネットワークを介して新しいコンピュータにデータを転送したり、データをリムーバブルメディア（書き込み可能 CD または USB ドライブ）に保存して新しいコンピュータに転送したりできます。

 **メモ:** 情報を古いコンピュータから新しいコンピュータに転送するには、シリアルケーブルを 2 台のコンピュータの入力 / 出力 (I/O) ポートに直接接続します。ただし、直接接続するにはシリアルコネクタ (COM) を提供する PS2/ シリアルアダプタ（オプション）が必要です。古いコンピュータの場合は、シリアルコネクタも必要です。データをシリアル接続を介して転送するには、コントロールパネルからネットワーク接続ユーティリティにアクセスして、詳細設定接続の設定、およびホストコンピュータやゲストコンピュータの指定など、追加の設定手順を実行する必要があります。

2 台のコンピュータで直接ケーブルを設置する手順に関しては、マイクロソフトのウェブサイトにて「直接ケーブル接続を構成する方法」という文書を参照してください。この情報は、特定の国では使用できない場合もあります。

新しいコンピュータに情報を転送するには、**ファイルと設定の転送ウィザード** を実行する必要があります。このプロセスを実行するには、オプションの『オペレーティングシステム CD』を使用するか、またはファイルと設定の転送ウィザードでウィザードディスクを作成することができます。

オペレーティングシステム CD を使用してファイルと設定の転送ウィザードを実行する場合

 **メモ:** この手順では、『オペレーティングシステム CD』が必要です。この CD はオプションなので、出荷時にすべてのコンピュータに付属しているわけではありません。

新しいコンピュータに情報を転送するには次の手順を実行します。

- 1 **ファイルと設定の転送ウィザード** を起動します。
- 2 **ファイルと設定の転送ウィザードの開始** 画面が表示されたら、**次へ** をクリックします。
- 3 **これはどちらのコンピュータですか？** 画面で **転送先の新しいコンピュータ** をクリックし、**次へ** をクリックします。
- 4 **Windows XP CD がありますか？** 画面で **Windows XP CD からウィザードを使います** をクリックして、**次へ** をクリックします。
- 5 **今、古いコンピュータに行ってください** 画面が表示されたら、古いコンピュータまたはソースコンピュータに行きます。このときに、**次へ** をクリックしないでください。

古いコンピュータからデータをコピーするには次の手順を実行します。

- 1 古いコンピュータで、Windows XP の『オペレーティングシステム CD』を挿入します。
- 2 **Microsoft Windows XP へようこそ** 画面で、**追加のタスクを実行する** をクリックします。
- 3 **実行する操作の選択** で **ファイルと設定を転送する** をクリックします。
- 4 **ファイルと設定の転送ウィザードの開始** 画面で、**次へ** をクリックします。
- 5 **これはどちらのコンピュータですか？** 画面で **転送元の古いコンピュータ** をクリックし、**次へ** をクリックします。
- 6 **転送方法を選択してください** 画面で希望の転送方法をクリックします。
- 7 **何を転送しますか？** 画面で転送する項目を選択し、**次へ** をクリックします。
情報がコピーされた後、**ファイルと設定の収集フェーズを処理しています ...** 画面が表示されます。
- 8 **完了** をクリックします。

新しいコンピュータにデータを転送するには次の手順を実行します。

- 1 新しいコンピュータの **今、古いコンピュータに行ってください** 画面で、**次へ** をクリックします。
- 2 **ファイルと設定はどこにありますか？** 画面で設定とファイルの転送方法を選択し、**次へ** をクリックします。
ウィザードは収集されたファイルと設定を読み取り、それらを新しいコンピュータに適用します。
設定とファイルがすべて適用されると、**完了** 画面が表示されます。
- 3 **完了** をクリックして、新しいコンピュータを再起動します。

オペレーティングシステム CD を使用せずにファイルと設定の転送ウィザードを実行する場合

『オペレーティングシステム CD』を使用せずに、ファイルと設定の転送ウィザードを実行するには、バックアップイメージファイルをリムーバブルメディアに作成できるウィザードディスクを作成する必要があります。ウィザードディスクを作成するには、Windows XP を搭載した新しいコンピュータを使用して、以下の手順を実行します。

- 1 **スタート** ボタンをクリックします。
- 2 **ファイルと設定の転送ウィザード** をクリックします。
- 3 **ファイルと設定の転送ウィザードの開始** 画面が表示されたら、**次へ** をクリックします。
- 4 **これはどちらのコンピュータですか？** 画面で **転送先の新しいコンピュータ** をクリックし、**次へ** をクリックします。
- 5 **Windows XP CD がありますか？** 画面で、**次のドライブでウィザードディスクを作成する：** をクリックし、**次へ** をクリックします。
- 6 書き込み可能 CD などのリムーバブルメディアを挿入して、**OK** をクリックします。
- 7 ディスク作成が完了したら、**古いコンピュータに移動してください** というメッセージが表示されますが、**次へ** はクリックしないでください。
- 8 古いコンピュータに移動します。

古いコンピュータからデータをコピーするには次の手順を実行します。

- 1 古いコンピュータで、ウィザードディスクを挿入します。
- 2 **スタート** ボタンをクリックして、**ファイル名を指定して実行** をクリックします。
- 3 **ファイル名を指定して実行** ウィンドウの **名前** フィールドで、**fastwiz**（該当するリムーバブルメディア）へのパスを参照して入力し **OK** をクリックします。
- 4 **ファイルと設定の転送ウィザードの開始** 画面で、**次へ** をクリックします。
- 5 **これはどちらのコンピュータですか？** 画面で **転送元の古いコンピュータ** をクリックし、**次へ** をクリックします。
- 6 **転送方法を選択してください** 画面で希望の転送方法をクリックします。
- 7 **何を転送しますか？** 画面で転送する項目を選択し、**次へ** をクリックします。
情報がコピーされた後、**ファイルと設定の収集フェーズを処理しています ...** 画面が表示されます。
- 8 **完了** をクリックします。

新しいコンピュータにデータを転送するには次の手順を実行します。

- 1 新しいコンピュータの **今、古いコンピュータに行ってください** 画面で、**次へ** をクリックします。
- 2 **ファイルと設定はどこにありますか？** 画面で設定とファイルの転送方法を選択し、**次へ** をクリックします。画面に表示される指示に従ってください。
ウィザードは収集されたファイルと設定を読み取り、それらを新しいコンピュータに適用します。
設定とファイルがすべて適用されると、**完了** 画面が表示されます。

CD および DVD の再生

CD または DVD の再生

- ➡ **注意** : CD または DVD のトレイを開閉する場合は、トレイの上から力を掛けないでください。ドライブを使用しないときは、トレイは閉じておいてください。
- ➡ **注意** : CD または DVD を再生しているときに、コンピュータを動かしたり傾けたりしないでください。
 - 1 ドライブの前面にある取り出しボタンを押します。
 - 2 トレイの中心に、ラベルの付いている面を上にしてディスクを置きます。



- 3 取り出しボタンを押すか、トレイを軽く押ししてトレイを閉じます。

データ保存のための CD フォーマット、ミュージック CD の作成、CD のコピーについては、コンピュータに付属の CD ソフトウェアを参照してください。

- ✎ **メモ** : CD または DVD を作成する際は、すべての著作権法に基付いていることを確認してください。
CD プレーヤーは次のようなボタンを使用して操作します。



再生



現在のトラック内での巻き戻し

	一時停止
	現在のトラック内での早送り
	停止
	直前のトラックに戻る
	取り出し
	次のトラックに進む

DVD プレーヤーは次のようなボタンを使用して操作します。

	停止
	現在の章の再スタート
	再生
	早送り
	一時停止
	巻き戻し
	一時停止モードでのコマ送り
	次のタイトルまたは章へ進む
	現在のタイトルまたは章のくり返し
	直前のタイトルまたは章へ戻る
	取り出し

CD または DVD の再生については、CD または DVD プレーヤーの **ヘルプ**（利用可能な場合）をクリックしてください。

ボリュームの調整



メモ: スピーカーが無音（ミュート）に設定されている場合、CD または DVD の音声を聞くことができません。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **エンターテインメント** とポイントして、**ボリュームコントロール** をクリックします。
- 2 **マスター音量** コントロールウィンドウで、**マスター音量** 列にある音量つまみを上下にスライドさせてボリュームを調整します。

ボリュームコントロールオプションの詳細については、**ボリュームコントロール** ウィンドウの **ヘルプ** をクリックしてください。

画像の調整

現在設定している解像度と色数はメモリの使用量が多すぎて DVD を再生できません、というエラーメッセージが表示される場合、画面のプロパティで画像設定の調節をします。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。
- 2 **作業する分野を選びます** にある、**デスクトップの表示とテーマ** をクリックします。
- 3 **作業を選びます** で、**画面解像度を変更する** をクリックします。

- 4 画面のプロパティ ウィンドウで、画面の解像度にあるつまみをクリックしてドラッグし、**800 × 600 ピクセル** に設定します。
- 5 画面の色 にあるドロップダウンメニューをクリックして、**中 (16 ビット)** をクリックします。
- 6 **OK** をクリックします。

CD および DVD をコピーするには

 **メモ** : CD または DVD を作成する際は、すべての著作権法に基付いていることを確認してください。

本項は、DVD±RW、または CD-RW/DVD (コンボ) ドライブを備えたコンピュータにだけ適用されます。

 **メモ** : デルにより提供される CD または DVD ドライブのタイプは国により異なることがあります。

以下の手順では、Roxio Creator Plus - Dell Edition を使って、CD または DVD を完全にコピーする方法について説明します。お使いのコンピュータに保存したオーディオファイルから音楽 CD を作成したり、重要なデータをバックアップするなど、他の目的にも Roxio Creator Plus を使用することができます。ヘルプを参照するには、Roxio Creator Plus を開き、ウィンドウの右上にある疑問符 (?) のアイコンをクリックします。

CD または DVD のコピーの仕方

 **メモ** : CD-RW/DVD コンボドライブでは DVD メディアへの書き込みはできません。CD-RW/DVD コンボドライブがあり、コピー中に問題が生じた場合は、Roxio サポートウェブサイト support.roxio.co.jp/support/ で使用可能なソフトウェアパッチを確認してください。

Dell コンピュータに取り付けられている DVD 書き込み可能ドライブは、DVD±R、DVD±RW および DVD+R DL (デュアルレイヤ) メディアに対して書き込みと読取りを行います。DVD-RAM または DVD-R DL メディアに対する書き込みは行わず、読取りも行わない可能性があります。

 **メモ** : 市販の DVD の大部分は著作権のプロテクションがかかっており、Roxio Creator Plus を使用してコピーすることはできません。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム → Roxio → Creator Projects** の順にポイントし、**RecordNow コピー** をクリックします。
- 2 **コピー** タブで、**Disc Copy** (ディスクコピー) をクリックします。
- 3 CD または DVD をコピーするには次の手順を実行します。
 - **CD/DVD ドライブが1つしかない場合**、設定が正しいことを確認し、**Disc Copy** (ディスクコピー) ボタンをクリックします。コンピュータがソース CD または DVD を読み取り、コンピュータのハードドライブのテンポラリフォルダにそのデータをコピーします。
プロンプトが表示されたら、CD または DVD ドライブに空の CD または DVD を挿入し、**OK** をクリックします。
 - **CD/DVD ドライブが2つある場合**、ソース CD または DVD を入れたドライブを選択し、**Disc Copy** (ディスクコピー) ボタンをクリックします。コンピュータがソース CD または DVD のデータを空の CD または DVD にコピーします。

ソース CD または DVD のコピーが終了すると、作成された CD または DVD は自動的に出てきます。

空の CD および DVD の使い方

DVD 書き込み可能ドライブは、CD 記録メディアと DVD 記録メディアの両方に書き込むことができますが、CD-RW ドライブは CD 記録メディアのみ (高速 CD-RW メディアを含む) に書き込みができます。

音楽や永久保存データファイルを記録するには、空の CD-R を使用してください。CD-R の最大記憶容量に達した後は、CD-R に再度書き込みはできません（詳細に関しては Roxio のマニュアルを参照）。後で CD にある情報を消去、再書き込み、または更新する場合、空の CD-RW を使用してください。

空の DVD+/-R は、大量のデータを永久保存することができます。DVD+/-R ディスクを作成した後、ディスクを作成するプロセスの最終段階でそのディスクが「ファイナライズ」または「クローズ」された場合、そのディスクに再度書き込みができないことがあります。後でディスクにある情報を消去、再書き込み、または更新する場合、空の DVD+/-RW を使用してください。

CD 書き込み可能ドライブ

メディアタイプ	読み取り	書き込み	書換可能
CD-R	はい	はい	いいえ
CD-RW	はい	はい	はい

DVD 書き込み可能ドライブ

メディアタイプ	読み取り	書き込み	書換可能
CD-R	はい	はい	いいえ
CD-RW	はい	はい	はい
DVD+R	はい	はい	いいえ
DVD-R	はい	はい	いいえ
DVD+RW	はい	はい	はい
DVD-RW	はい	はい	はい
DVD+R DL	はい	はい	いいえ

便利なヒント

- Roxio Creator Plus を開始し、Creator プロジェクトを開いた後であれば、Microsoft® Windows® エクスプローラでファイルを CD-R または CD-RW にドラッグ&ドロップすることができます。
- コピーした音楽 CD を一般的なステレオで再生させるには、CD-R を使用します。CD-RW は多くの家庭用ステレオおよびカーステレオで再生できない場合があります。
- Roxio Creator Plus を使用して、音楽 DVD を作成することはできません。
- 音楽用 MP3 ファイルは、MP3 プレーヤーでのみ、または MP3 ソフトウェアがインストールされたコンピュータでのみ再生できます。
- 市販されているホームシアターシステム用の DVD プレーヤーは、すべての DVD フォーマットをサポートするとは限りません。お使いの DVD プレーヤーが対応するフォーマットのリストに関しては、DVD プレーヤーに付属のマニュアルを参照するか、または製造元にお問い合わせください。
- 空の CD-R または CD-RW を最大容量までコピーしないでください。たとえば、650 MB のファイルを 650 MB の空の CD にコピーしないでください。CD-RW ドライブは、記録の最終段階で空の CD の 1～2 MB を必要とします。

- CD への記録について操作に慣れるまで練習するには、空の CD-RW を使用してください。CD-RW なら、失敗しても CD-RW のデータを消去してやりなおすことができます。空の CD-RW ディスクを使用して、空の CD-R ディスクに永久的にプロジェクトを記録する前に、音楽ファイルプロジェクトをテストすることもできます。
- 詳細に関しては、Roxio ウェブサイト www.roxio.jp/ を参照してください。

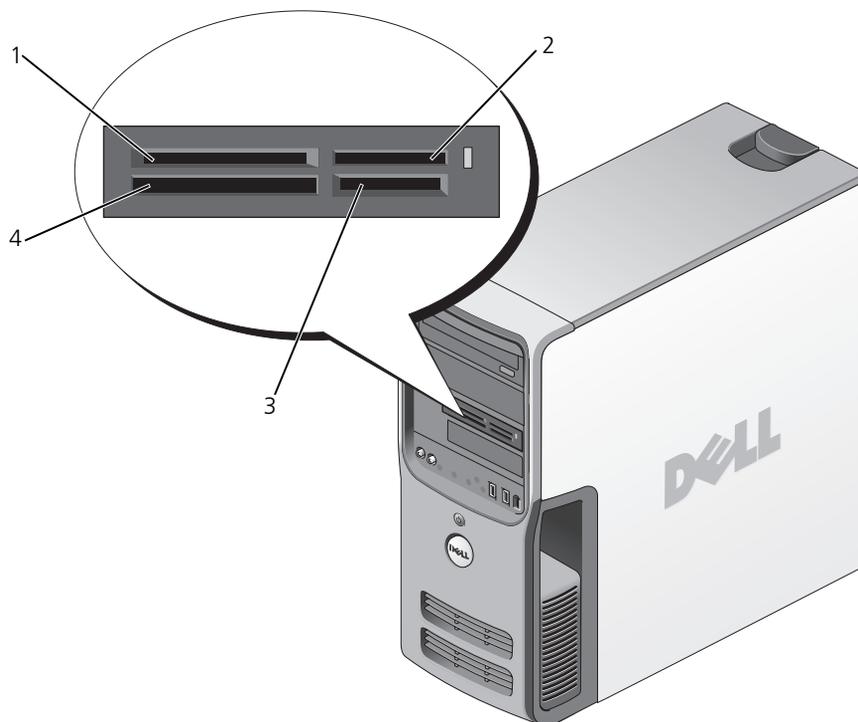
メディアカードリーダー（オプション）の使い方

メディアカードリーダーを使用して、データを直接コンピュータに転送します。

メディアカードリーダーは、以下のメモリタイプをサポートしています。

- xD ピクチャカード
- スマートメディア（SMC）
- コンパクトフラッシュ、タイプ I および II（CF I/II）
- MicroDrive カード
- SD カード
- マルチメディアカード（MMC）
- メモリスティック（MS/MS Pro）

メディアカードリーダーの取り付け方法の詳細に関しては、104 ページの「メディアカードリーダーの取り付け」を参照してください。



- | | | | | | |
|---|---|---|----------------------|---|---------------------------|
| 1 | xD ピクチャカードおよびスマートメディア (SMC) | 2 | メモリスティック (MS/MS Pro) | 3 | SD カードおよびマルチメディアカード (MMC) |
| 4 | コンパクトフラッシュ、タイプ I および II (CF VII) および MicroDrive カード | | | | |

メディアカードリーダーを使用するには次の手順を実行します。

- 1 メディアまたはカードをチェックして、適切な挿入の方向を判断します。
- 2 メディアまたはカードを該当するスロットに差し込み、コネクタに完全に装着します。
メディアまたはカードがきちんと入らない場合、無理に押し込まないでください。カードの向きが合っているかを確認して再度試してみてください。

IEEE 1394 (オプション)

IEEE 1394 は、コンピュータと周辺機器間で大容量のデータを移動できるデジタルインタフェースです。IEEE 1394 はデータおよび大きなファイルの転送速度を増すので、マルチメディアデバイスとの使用に最適です。これにより、コンピュータをデジタルビデオカメラなどのデバイスに直接接続することが可能になります。



メモ: コネクタには、アダプタを使用して 4 ピンの IEEE 1394 デバイスを接続できます。

お使いのコンピュータにはオプションで前面に IEEE 1394 コネクタが装備されている場合があります。このコネクタは、IEEE 1394 を使用するアドインカードを購入した場合にのみ使用できます。カードの購入については、デルにお問い合わせください。

電力の管理

概要

Microsoft® Windows® XP の電源管理機能を使うと、電源の入っているコンピュータで操作していないときにコンピュータが消費する電力を節約することができます。モニターやハードドライブへの電力だけを節約することができたり、スタンバイモードや休止状態モードを使ってコンピュータ全体の電力を節約することもできます。コンピュータが省電力モードから通常の動作状態に戻ると、コンピュータは省電力モードに入る前と同じ動作状態に戻ります。



メモ: Windows XP Professional には、Windows XP Home Edition では利用できないセキュリティおよびネットワーク機能が含まれています。Windows XP Professional が動作しているコンピュータがネットワークに接続されている場合、セキュリティおよびネットワークに関する特定のウィンドウでは、表示される項目が異なります。



メモ: スタンバイモードおよび休止状態モードを起動する手順は、オペレーティングシステムによって異なります。

スタンバイモード

スタンバイモードは、あらかじめ設定した一定の時間 (タイムアウト) コンピュータを操作しないでおくと、ディスプレイとハードドライブの電源を切ることによって電力を節約するモードです。スタンバイモードを終了すると、コンピュータはスタンバイモードに入る前と同じ動作状態に戻ります。



注意: スタンバイモードのときにコンピュータの電源が切れると、データを損失する恐れがあります。



注意: コンピュータのグラフィックスカードは、PCI Express x16 スロットに取り付けられています。このスロットにカードが入っている場合に s3 サスペンドをサポートしない周辺機器を追加すると、コンピュータのスタンバイモードが起動しません。

あらかじめ設定した一定の時間コンピュータを操作しないと自動的にスタンバイモードが起動するよう設定するには次の手順を実行します。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。
- 2 **電源設定** タブおよび **詳細設定** タブで休止状態の設定を行います。

一定時間コンピュータを操作しない時間をおかずに、スタンバイモードをすぐに起動させるには、**スタート** ボタンをクリックし、**終了オプション** をクリックして、**スタンバイ** をクリックします。

スタンバイモードを終了するには、キーボードのキーを押すか、マウスを動かします。

休止状態モード

休止状態モードでは、システム情報をハードドライブの予約領域にコピーしてから、コンピュータの電源を切ることによって電力を節約します。コンピュータが休止状態モードから通常の動作状態に戻ると、デスクトップは休止状態モードに入る前と同じ状態に戻ります。

休止状態モードを起動するには次の手順を実行します。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。
- 2 **電源設定** タブ、**詳細設定** タブ、および **休止状態** タブで休止状態の設定を行います。

休止状態モードから通常の動作状態に戻るには、電源ボタンを押します。コンピュータが通常の動作状態に戻るのに、若干時間がかかることがあります。キーボードのキーを押したり、マウスを動かしても、コンピュータは休止状態モードから復帰しません。これは、コンピュータが休止状態モードのときは、キーボードやマウスが動作しないためです。

休止状態モードでは、ハードドライブにコンピュータのメモリの内容を格納するための十分な空きディスク容量を確保する必要があります。お使いのコンピュータには、出荷前に適切な大きさの休止状態モードファイルが作成されています。コンピュータのハードドライブが破損した場合、Windows XP では休止状態モードを自動的に再作成します。

電源オプションのプロパティ

スタンバイモード設定、休止状態モード設定、およびその他の電源設定は、**電源オプションのプロパティ** ウィンドウで行います。**電源オプションのプロパティ** ウィンドウを表示するには次の手順を実行します。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。
- 2 **電源設定** タブ、**詳細設定** タブ、および **休止状態** タブで電源設定を行います。

電源設定タブ

各標準の電源設定のことを、スキームと呼びます。お使いのコンピュータにプリインストールされている標準の Windows 電源設定を選択するには、**電源設定** ドロップダウンメニューから設定を選びます。各電源設定の下のフィールドに設定が表示されます。設定には、コンピュータをスタンバイモードまたは休止状態モードにする、モニターの電源を切る、ハードドライブの電源を切る、といったそれぞれ異なる設定があります。

 **注意:** ハードドライブがモニターより先にタイムアウトになるよう設定すると、コンピュータがロックされたように見えることがあります。通常の動作状態に戻するには、キーボードの任意のキーを押すか、マウスをクリックします。この問題を回避するには、モニターを常にハードドライブより前にタイムアウトになるよう設定します。

電源設定 ドロップダウンメニューには以下のような電源設定が表示されます。

- **常にオン** (デフォルト) — 電力を節約しないでコンピュータをお使いになる場合は、この設定を選びます。
- **自宅または会社のデスク** — ご家庭または会社でお使いのコンピュータで最小限の省電力が必要な場合は、この設定を選びます。

- **最小の電源管理** — 最小限の省電力でコンピュータをお使いになりたい場合、この設定を選びます。
- **バッテリーの最大利用** — ノートブックコンピュータを長時間バッテリーでお使いになる場合は、この設定を選びます。

デフォルトの電源設定を変更する場合、**モニタの電源を切る**、**ハードディスクの電源を切る**、**システム スタンバイ**、または **システム休止状態** のフィールドにあるドロップダウンメニューをクリックし、表示された一覧からタイムアウトを選びます。設定フィールドのタイムアウトを変更すると、**名前を付けて保存** をクリックし、変更した設定に新しい名前を入力しない限り、その設定のデフォルト設定が変更されます。

詳細設定タブ

詳細設定 タブでは次のことができます。

- Windows タスクバーに電源オプションアイコン  を表示させ、素早く電源オプションアイコンにアクセスできるようにします。
- コンピュータがスタンバイモードまたは休止状態モードを終了する前に、Windows のパスワードの入力を求めるようコンピュータを設定します。
- スタンバイモードまたは休止状態モードの起動、あるいはコンピュータの電源を切るよう、電源ボタンを設定します。

これらの機能を設定するには、対応するドロップダウンメニューからオプションをクリックして、**OK** をクリックします。

休止状態タブ

休止状態 タブで、休止状態モードを有効にします。**電源設定** タブで設定した休止状態設定を使用する場合、**休止状態** タブで **休止状態を有効にする** チェックボックスをクリックします。

電源管理のオプションの詳細に関しては次の手順を実行します。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**ヘルプとサポート** をクリックします。
- 2 **ヘルプとサポート** ウィンドウで、**パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
- 3 **パフォーマンスとメンテナンス** ウィンドウで、**コンピュータの電力を節約する** をクリックします。

コンピュータのクリーニング

 **警告**：この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。

コンピュータ、キーボード、およびモニターのクリーニング

 **警告**：コンピュータをクリーニングする前に、コンピュータのプラグをコンセントから外します。コンピュータのクリーニングには、水で湿らせた柔らかい布をお使いください。液体クリーナーやエアゾールクリーナーは使用しないでください。可燃性物質を含んでいる場合があります。

- 掃除機のブラシを使って、コンピュータのスロット部分や穴の開いている部分、およびキーとキーボードの間などのゴミを注意深く取り除きます。

➡ 注意：洗剤またはアルコール液でモニター画面を拭かないでください。反射防止コーティングが損傷する恐れがあります。

- モニター画面をクリーニングするには、水で軽く湿らした柔らかくて清潔な布を使います。可能であれば、画面クリーニング専用ティッシュまたはモニターの帯電防止コーティング用に適した溶液を使ってください。
- キーボード、コンピュータ、およびモニターのプラスチック部分は、水と中性液体洗剤を 3 対 1 で混ぜ合わせた溶液で湿らした柔らかくて清潔な布を使って拭きます。
この溶液に布を浸さないでください。また、コンピュータやキーボードの内部に溶液が入らないようにしてください。

マウスのクリーニング

画面のカーソルが飛んだり、異常な動きをする場合、マウスをクリーニングします。光学式でないマウスをクリーニングするには、次の手順を実行します。

- 1 マウスの底部にある固定リングを左に回し外します。ボールを取り出します。
- 2 清潔で糸くずのでない布でボールを拭きます。
- 3 ボールケースに慎重に風を送って、ほこりや糸くずを取り除きます。
- 4 ボールケースの中にあるローラーが汚れている場合、消毒用アルコール（イソプロピルアルコール）を軽く浸した綿棒を使って、ローラーの汚れを拭き取ります。
- 5 ローラーが溝からずれてしまった場合、中央になおします。綿棒の綿毛がローラーに残っていないか確認します。
- 6 ボールと固定リングをマウスに取り付けて、固定リングを時計回りに回して元の位置にはめ込みます。

フロッピードライブのクリーニング

➡ 注意：綿棒でドライブヘッドを拭かないでください。ヘッドの位置がずれてドライブが動作しなくなることがあります。

市販のクリーニングキットでフロッピードライブをクリーニングします。これらのキットには、通常の使用によって付いたドライブヘッドの汚れを落とすように前処理されたフロッピーが入っています。

CD および DVD のクリーニング

➡ 注意：CD/DVD ドライブのレンズの手入れには、必ず圧縮空気を使用して、圧縮空気に付属しているマニュアルに従ってください。ドライブのレンズには絶対に触れないでください。

CD や DVD がスキップしたり、音質や画質が低下したりする場合、ディスクを掃除します。

- 1 ディスクの外側の縁を持ちます。中心の穴の縁にも触ることができます。

➡ 注意：円を描くようにディスクを拭くと、ディスク表面に傷をつける恐れがあります。

- 2 柔らかく、糸くずの出ない布でディスクの裏側（ラベルのない側）を中央から外側の縁に向かって放射状にそっと拭きます。

頑固な汚れは、水、または水と刺激性の少ない石鹼の希釈溶液で試してください。ディスクの汚れを落とし、ほこりや指紋、ひっかき傷などからディスクを保護する市販のディスククリーナーもあります。CD 用のクリーナーは DVD にも使用できます。

性能の最適化

ハイパースレッディング

ハイパースレッディングは Intel® テクノロジーであり、1 つの物理プロセッサを 2 つの論理プロセッサとして機能させることでコンピュータ全体の性能を向上させるので、特定のタスクを同時に実行することができます。Windows XP は、ハイパースレッディングテクノロジーを利用するために最適化されているので、Microsoft® Windows® XP Service Pack 1 (SP1) 以降のオペレーティングシステムを使用することをお勧めします。多くのプログラムは、ハイパースレッディングの恩恵を受けることにはなりますが、ハイパースレッディング用に最適化されていないプログラムもあります。それらのプログラムは、ソフトウェアの製造元によるアップデートが必要な場合があります。アップデートやハイパースレッディングでソフトウェアを使用する方法については、ソフトウェアの製造元にお問い合わせください。

お使いのコンピュータがハイパースレッディングテクノロジーを使用しているか確認するには、次の手順を実行します。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**マイコンピュータ** を右クリックして、**プロパティ** をクリックします。
- 2 **ハードウェア** をクリックして、**デバイスマネージャ** をクリックします。
- 3 **デバイスマネージャ** ウィンドウで、**プロセッサ** の横の (+) サインをクリックします。ハイパースレッディングが有効な場合、プロセッサは 2 つ表示されています。

セットアップユーティリティを使って、ハイパースレッディングを有効または無効にすることができます。セットアップユーティリティにアクセスする方法については、115 ページの「セットアップユーティリティの起動」を参照してください。ハイパースレッディングの詳細については、デルサポートウェブサイト support.jp.dell.com で、技術情報を検索します。

RAID 構成について

この項では、コンピュータのご購入時に選択された場合の RAID 構成の概要について説明します。コンピュータ業界には異なる使用目的のためにいくつかの RAID 構成があります。お使いの Dell Dimension™ コンピュータは RAID レベル 0 および RAID レベル 1 をサポートしています。RAID レベル 0 構成は、ハイパフォーマンスなプログラムやゲーム用にお勧めします。RAID レベル 1 構成は、デジタル写真やオーディオなど、高レベルのデータ保全を必要とする場合にお勧めします。

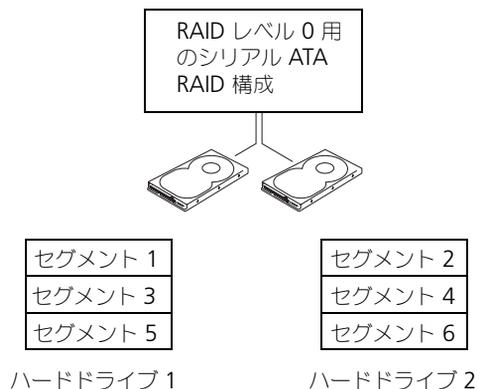
 **メモ:** RAID レベルは、性能による序列を示すものではありません。RAID レベル 1 構成が、本質的に RAID レベル 0 構成より質の上で優れていたり、劣ったりしているわけではないということです。

大きいほうのドライブに未割り当ての（つまり使用できない）領域が生じないようにするためには、同じサイズのドライブを使用して RAID を構成することが必要です。

RAID レベル 0 構成

 **注意:** RAID レベル 0 構成はデータの冗長性を提供しないので、1 つのドライブが故障した場合、すべてのデータが失われます（残りのドライブのデータにもアクセスできなくなります）。したがって、RAID レベル 0 構成を使用する際は、定期的なバックアップを行ってください。

RAID レベル 0 構成は、「データストライピング」というストレージ技術を使用して、高いデータアクセス速度を提供します。データストライピングは、データの連続したセグメント（またはストライプ）を物理ドライブに順次書き込み、より大きな仮想ドライブを作成します。データストライピングを使うと、1つのドライブでデータを読み出している間に、別のドライブで次のブロックを探しながら読み出すことができます。



RAID レベル 0 のもう 1 つの利点は、ドライブの最大ストレージ容量を利用できることです。たとえば、120 GB のドライブが 2 台取り付けられている場合は、240 GB のハードドライブ領域をデータの保存に使用することができます。

 **メモ**：RAID レベル 0 構成では、構成のサイズは最小ドライブサイズに、その構成内のドライブの台数を掛けた値になります。

RAID レベル 1 構成

RAID レベル 1 構成では、データの冗長性を確保する「ミラーリング」というストレージ技術を使用して、データ安全性の向上を実現します。データがプライマリドライブに書き込まれると、RAID を構成する他のドライブに複製、つまりミラーリングされます。RAID レベル 1 では、データの冗長性のためにデータアクセス速度が犠牲になります。



セグメント 1
セグメント 2
セグメント 3
セグメント 4
セグメント 5
セグメント 6

ハードドライブ 1

セグメント 1 の複製
セグメント 2 の複製
セグメント 3 の複製
セグメント 4 の複製
セグメント 5 の複製
セグメント 6 の複製

ハードドライブ 2

ドライブが故障すると、次の読み出し / 書き込み動作は、正常に動作しているドライブで行われます。正常に動作しているドライブを使って、交換用のドライブでデータを再構築することができます。



メモ : RAID レベル 1 構成のサイズは、構成内の最小ドライブのサイズと等しくなります。

コンピュータを RAID に構成する

コンピュータ購入時に RAID 構成を選ばなかった場合でも、コンピュータを RAID 構成にすることができます。RAID 構成をセットアップするには、少なくとも 2 台のハードドライブがコンピュータに取り付けてある必要があります。RAID レベルの詳細については、35 ページの「RAID 構成について」を参照してください。ハードドライブの取り付け方法については、96 ページの「ハードドライブの取り付け」を参照してください。

RAID ハードドライブボリュームを構成する手順は 2 種類あります。1 つは、Intel® RAID Option ROM ユーティリティを使用する方法で、これは、オペレーティングシステムをハードドライブにインストールする前に実行されます。2 つ目は、Intel Matrix Storage Manager、または Intel Matrix Storage Console を使用する方法で、これはオペレーティングシステムおよび Intel Matrix Storage Console をインストールした後で実行されます。

いずれの場合でも、本書の RAID 構成手順を始める前に、コンピュータを RAID 対応モードに設定する必要があります。

コンピュータを RAID 対応モードに設定する

- 1 セットアップユーティリティを起動します (115 ページの「セットアップユーティリティの起動」を参照)。
- 2 上下矢印キーを押して **Drives** をハイライト表示し、<Enter> を押します。
- 3 上下矢印キーを押して **SATA Operation** をハイライト表示し、<Enter> を押します。
- 4 左右矢印キーを押して **RAID On** をハイライト表示し、<Enter> を押します。次に <Esc> を押します。



メモ : RAID オプションの詳細については、116 ページの「セットアップオプション」を参照してください。

- 5 左右矢印キーを押して使用して **Save/Exit** をハイライト表示し、<Enter> を押してセットアップユーティリティを終了し、起動プロセスを再開します。

Intel® RAID Option ROM ユーティリティの使い方

 **メモ** : Intel RAID Option ROM ユーティリティを使用して RAID を構成する場合は、任意のサイズのハードドライブを使用できますが、未割り当てまたは未使用の領域が生じないようにするために、同じサイズのドライブを使用することが理想的です。RAID レベルの詳細については、35 ページの「RAID 構成について」を参照してください。

RAID レベル 0 構成の作成

 **注意** : 次の手順を実行すると、ハードドライブのすべてのデータが失われます。続行する前に、必要なすべてのデータのバックアップを作成してください。

 **メモ** : 次の手順は、オペレーティングシステムを再インストールする場合にのみ実行してください。既存のストレージ構成を RAID レベル 0 構成に移行するときには、この手順を使用しないでください。

- 1 コンピュータを RAID 対応モードに設定します (37 ページの「コンピュータを RAID 対応モードに設定する」を参照)。
- 2 Intel® RAID Option ROM ユーティリティを起動するよう要求されたら、<Ctrl><i> を押します。
- 3 上下矢印キーを押して **Create RAID Volume** をハイライト表示し、<Enter> を押します。
- 4 RAID ボリューム名を入力するか、デフォルトの名前を受け入れて、<Enter> を押します。
- 5 上下矢印キーを押して **RAID0 (Stripe)** を選択し、<Enter> を押します。
- 6 使用できるハードドライブが複数存在する場合は、上下矢印キーとスペースバーを押して、構成に使用する 2 台または 3 台のドライブを選択し、<Enter> を押します。

 **メモ** : RAID ボリュームに保存する平均ファイルサイズに最も近いストライプサイズを選択します。平均ファイルサイズが分からない場合、ストライプサイズとして 128 KB を選択してください。

- 7 上下矢印キーを押してストライプサイズを変更し、<Enter> を押します。
- 8 ボリュームのサイズを選択して、<Enter> を押します。
デフォルト値は、使用可能な最大サイズです。
- 9 <Enter> を押し、ボリュームを作成します。
- 10 <y> を押して、RAID ボリュームを作成することを確認します。
- 11 Intel® RAID Option ROM ユーティリティ のメイン画面に、正しいボリューム構成が表示されていることを確認します。
- 12 上下矢印キーを押して **Exit** を選択し、<Enter> を押します。
- 13 オペレーティングシステムをインストールします (65 ページの「ソフトウェアとハードウェアの非互換性の解決」を参照)。

RAID レベル 1 構成の作成

- 1 コンピュータを RAID 対応モードに設定します (37 ページの「コンピュータを RAID 対応モードに設定する」を参照)。
- 2 Intel RAID Option ROM ユーティリティを起動するよう要求されたら、<Ctrl><i> を押します。
- 3 上下矢印キーを使用して、**RAID ボリュームの作成** をハイライト表示し、<Enter> を押します。
- 4 RAID ボリューム名を入力するか、デフォルトの名前を受け入れて、<Enter> を押します。
- 5 上下矢印キーを使用して **RAID1 (Mirror)** を選択し、<Enter> を押します。
- 6 使用できるハードドライブが複数存在する場合は、上下矢印キーとスペースバーを押して、ボリュームを構成する 2 台のドライブを選択し、<Enter> を押します。

- 7 ポリリュームのサイズを選択して、<Enter> を押します。
デフォルト値は、使用可能な最大サイズです。
- 8 <Enter> を押し、ポリリュームを作成します。
- 9 <y> を押し、RAID ポリリュームを作成することを確認します。
- 10 Intel RAID Option ROM ユーティリティのメイン画面に、正しいポリリューム構成が表示されていることを確認します。
- 11 上下矢印キーを使用して **Exit** を選択し、<Enter> を押します。
- 12 オペレーティングシステムをインストールします（65 ページの「ソフトウェアとハードウェアの非互換性の解決」を参照）。

RAID ポリリュームの削除

- ➡ **注意**：次の手順を実行すると、RAID 構成のハードドライブに保存されたすべてのデータが失われます。続行する前に、必要なすべてのデータのバックアップを作成してください。
 - ➡ **注意**：コンピュータが現在 RAID から起動するようになっている場合、Intel RAID Option ROM ユーティリティの RAID ポリリュームを削除すると、コンピュータは起動不可能になります。
- 1 Intel RAID Option ROM ユーティリティを起動するよう要求されたら、<Ctrl><ci> を押します。
 - 2 上下矢印キーを使用して、**Delete RAID Volume** をハイライト表示し、<Enter> を押します。
 - 3 上下矢印キーを使用して、削除する RAID ポリリュームをハイライト表示し、<Delete> を押します。
 - 4 <y> を押し、RAID ポリリュームを削除することを確認します。
 - 5 <Esc> を押し、Intel RAID Option ROM ユーティリティを終了します。

Intel® Application Accelerator の使い方

オペレーティングシステムがすでにインストールされているハードドライブがあり、そのオペレーティングシステムやデータを失うことなく、2 台目のハードドライブを追加して、両方のハードドライブを RAID ポリリュームに再構成する場合は、移行オプションを使用してください（41 ページの「RAID レベル 0 構成への移行」または 41 ページの「RAID レベル 1 構成への移行」を参照）。RAID レベル 0 ポリリュームまたは RAID レベル 1 ポリリュームは、次の場合にのみ作成してください。

- すでに 1 台のドライブが取り付けられているコンピュータに 2 台の新しいドライブを追加し（オペレーティングシステムは 1 台目のドライブにインストールされている）、2 台の新しいドライブを RAID ポリリュームとして構成する場合
- 2 台のハードドライブが 1 つのポリリュームに構成されているコンピュータがすでにあるが、そのポリリュームに、2 つめの RAID ポリリュームとして指定できるスペースが残っている場合

RAID レベル 0 構成の作成

- ➡ **注意**：次の手順を実行すると、RAID 構成のハードドライブに保存されたすべてのデータが失われます。続行する前に、必要なすべてのデータのバックアップを作成してください。
- 1 コンピュータを RAID 対応モードに設定します（37 ページの「コンピュータを RAID 対応モードに設定する」を参照）。
 - 2 **スタート** をクリックし、**プログラム** → **Intel(R) Application Accelerator** → **Intel Matrix Storage Manager** の順にポイントして Intel® Storage Utility を起動します。
 - 📌 **メモ：アクション** メニューオプションが表示されていない場合、コンピュータは RAID 対応モードに設定されていません（37 ページの「コンピュータを RAID 対応モードに設定する」を参照）。

- 3 **アクション** メニューで **RAID ボリュームの作成** を選択し、RAID ボリュームの作成ウィザードを起動して、**次へ** をクリックします。
- 4 **ボリュームロケーションの選択** 画面で、RAID レベル 0 ボリュームに追加する 1 台目のハードドライブをクリックして、右矢印をクリックします。
- 5 2 台目のハードドライブをクリックして追加し、**次へ** をクリックします。
RAID レベル 0 ボリュームに 3 台目のハードドライブを追加するには、右矢印をクリックして 3 台目のドライブをクリックし、3 台のドライブが **選択済み** ウィンドウに表示されたら、**次へ** をクリックします。
- 6 **ボリュームサイズの指定** ウィンドウで、指定する **ボリュームサイズ** をクリックし、**次へ** をクリックします。
- 7 **完了** をクリックしてボリュームを作成するか、**戻る** をクリックして内容を変更します。

RAID レベル 1 構成の作成



注意: 次の手順を実行すると、RAID 構成のハードドライブに保存されたすべてのデータが失われます。続行する前に、必要なすべてのデータのバックアップを作成してください。

- 1 コンピュータを RAID 対応モードに設定します (37 ページの「コンピュータを RAID 対応モードに設定する」を参照)。
- 2 **スタート** ボタンをクリックし、**プログラム** → **Intel(R) Application Accelerator** → **Intel Matrix Storage Manager** の順にポイントして Intel® Storage Utility を起動します。
 **メモ:** **アクション** メニューオプションが表示されていない場合、コンピュータは RAID 対応モードに設定されていません (37 ページの「コンピュータを RAID 対応モードに設定する」を参照)。
- 3 **アクション** メニューで、**RAID ボリュームの作成** を選択して、RAID ボリュームの作成ウィザードを起動します。
- 4 最初の画面で **次へ** をクリックします。
- 5 ボリューム名を確認し、RAID レベルで **RAID 1** を選択して、**次へ** をクリックして続行します。
- 6 **ボリュームロケーションの選択** 画面で、RAID レベル 0 ボリュームを構成する 1 台目のハードドライブをクリックして、右矢印をクリックします。追加する 2 台のドライブが **選択済み** ウィンドウに表示されるまで、2 台目のハードドライブをクリックして、**次へ** をクリックします。
- 7 **ボリュームサイズの指定** ウィンドウで、指定する **ボリュームサイズ** を選択して **次へ** をクリックします。
- 8 **完了** をクリックしてボリュームを作成するか、**戻る** をクリックして内容を変更します。
- 9 Microsoft Windows の新規 RAID ボリュームでのパーティション作成手順に従います。

RAID ボリュームの削除



メモ: この手順では、RAID 1 ボリュームを削除しますが、RAID 1 ボリュームをパーティションで 2 つの RAID 以外のハードドライブに分割し、既存のデータファイルをそのまま残します。ただし、RAID 0 ボリュームを削除すると、ボリュームのすべてのデータが破壊されます。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**プログラム** → **Intel(R) Application Accelerator** → **Intel Matrix Storage Manager** の順にポイントして Intel® Storage Utility を起動します。
- 2 削除する RAID ボリュームの **ボリューム** アイコンを右クリックして、**ボリュームの削除** を選択します。
- 3 **RAID ボリュームの削除ウィザード** 画面で、**次へ** を選択します。
- 4 削除する RAID ボリュームを **Available** ボックスでハイライトします。次に、右矢印ボタンをクリックし、ハイライトした RAID ボリュームを **利用可能** ボックスに移動させ、**次へ** をクリックします。
- 5 **完了** をクリックして、ボリュームを削除します。

RAID レベル 0 構成への移行

- 1 コンピュータを RAID 対応モードに設定します (37 ページの「コンピュータを RAID 対応モードに設定する」を参照)。
- 2 **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム → Intel(R) Application Accelerator → Intel Matrix Storage Manager** の順にポイントして Intel® Storage Utility を起動します。
 **メモ: アクション** メニューオプションが表示されていない場合、コンピュータは RAID 対応モードに設定されていません (37 ページの「コンピュータを RAID 対応モードに設定する」を参照)。
- 3 **アクション** メニューで、**既存のハードドライブからの RAID ボリュームの作成** を選択して、移行ウィザードを起動します。
- 4 移行ウィザード画面で **次へ** をクリックします。
- 5 RAID ボリューム名を入力するか、デフォルトの名前を受け入れます。
- 6 ドロップダウンボックスから、RAID レベルで **RAID 0** を選択します。
- 7 ドロップダウンボックスから適切なストライプサイズを選択して、**次へ** を選択します。
 **メモ:** RAID ボリュームに保存する平均ファイルサイズに最も近いストライプサイズを選択します。平均ファイルサイズが分からない場合、ストライプサイズとして 128 KB を選択してください。
- 8 **ハードドライブの選択** 画面で、移行するハードドライブをダブルクリックして、**次へ** をクリックします。
 **メモ:** ソースハードドライブには、RAID ボリュームに残すデータやオペレーティングシステムファイルが保存されているハードドライブを選択します。
- 9 **メンバーハードドライブの選択** 画面で、ハードドライブをダブルクリックし、ストライプアレイが行き渡るメンバードライブを選択して **次へ** をクリックします。
- 10 **ボリュームサイズの指定** 画面で、希望の **ボリュームサイズ** を選択して **次へ** をクリックします。
-  **注意:** 次の手順を実行すると、メンバードライブのすべてのデータが失われます。
- 11 **完了** をクリックして移行を開始するか、**戻る** をクリックして内容を変更します。移行プロセス中でも、コンピュータを通常通りに使用できます。

RAID レベル 1 構成への移行

- 1 コンピュータを RAID 対応モードに設定します (37 ページの「コンピュータを RAID 対応モードに設定する」を参照)。
- 2 **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム → Intel(R) Application Accelerator → Intel Matrix Storage Manager** の順にポイントして Intel® Storage Utility を起動します。
 **メモ: アクション** メニューオプションが表示されていない場合、コンピュータは RAID 対応モードに設定されていません (37 ページの「コンピュータを RAID 対応モードに設定する」を参照)。
- 3 **アクション** メニューで、**既存のハードドライブからの RAID ボリュームの作成** をクリックして、移行ウィザードを起動します。
- 4 最初の移行ウィザード画面で **次へ** をクリックします。
- 5 RAID ボリューム名を入力するか、デフォルトの名前を受け入れます。
- 6 ドロップダウンボックスから、RAID レベルとして **RAID 1** を選択します。
- 7 **ハードドライブの選択** 画面で、移行するハードドライブをダブルクリックして、**次へ** をクリックします。
 **メモ:** ソースハードドライブには、RAID ボリュームに残すデータやオペレーティングシステムファイルが保存されているハードドライブを選択します。

- 8 **メンバーハードドライブの選択** 画面で、構成内でミラーとして動作させるハードドライブをダブルクリックして選択し、**次へ** をクリックします。
- 9 **ボリュームサイズの指定** 画面で、希望のボリュームサイズを選択して **次へ** をクリックします。
- 🔄 **注意** : 次の手順を実行すると、メンバードライブのすべてのデータが失われます。
- 10 **完了** をクリックして移行を開始するか、**戻る** をクリックして内容を変更します。移行プロセス中でも、コンピュータを通常通りに使用できます。

スペアハードドライブの作成

スペアハードドライブは、RAID レベル 1 構成で作成できます。また、スペアハードドライブは、オペレーティングシステムでは認識されませんが、Disk Manager または Intel RAID Option ROM ユーティリティ内から確認できます。RAID レベル 1 構成のいずれかのメンバーが故障した場合、コンピュータは故障したメンバーの代わりにスペアハードドライブを使用し、ミラー構成を自動的に再構築します。

ドライブをスペアハードドライブにする場合は、次の手順を実行します。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**プログラム** → **Intel(R) Application Accelerator** → **Intel Matrix Storage Manager** の順にポイントして Intel® Storage Utility を起動します。
- 2 スペアハードドライブにするハードドライブを右クリックします。
- 3 **Mark as Spare** (スペアとして印をつける) をクリックします。

スペアハードドライブとしての設定を取り消すには、次の手順を実行します。

- 1 スペアハードドライブアイコンを右クリックします。
- 2 **Reset Hard Drive to Non-RAID** (ハードドライブを RAID 以外にリセットする) をクリックします。

機能が低下した RAID レベル 1 構成の再構築

コンピュータにスペアハードドライブがなく、機能が低下した RAID レベル 1 ボリュームがあるとコンピュータにより報告された場合、次の手順を実行して、コンピュータの冗長性ミラーを新しいハードドライブに手動で再構築できます。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**プログラム** → **Intel(R) Application Accelerator** → **Intel Matrix Storage Manager** の順にポイントして Intel® Storage Utility を起動します。
- 2 使用できるハードドライブから RAID レベル 1 ボリュームを再構築するハードドライブを右クリックして、**Rebuild to this Disk** (このディスクに再構築する) をクリックします。

コンピュータが RAID レベル 1 ボリュームを再構築している場合でも、コンピュータを使用できます。

Dell DataSafe (オプション)

Dell DataSafe は、システムクラッシュ、ハードドライブの障害、ソフトウェアの破損、ウイルス、およびその他の災害によるデータロスなどの、不運な出来事からデータを保護するうえで役に立つソリューションです。このコンピュータは、工場出荷時点で、Intel テクノロジを使用した堅牢なデータ保護機能を備えています。Dell DataSafe により、コンピュータのハードドライブのデータをシステム内の特定の領域に定期的かつ自動的に保存することができます。Dell DataSafe は、写真、音楽、ビデオ、ファイルなどの重要なデータを保存して保護するだけでなく、障害時におけるコンピュータおよびデータの復元にも使用できます。インストールされているソフトウェアは、システムで障害が発生した場合、システムを正常だった状態にロールバックし、削除されたファイルをすばやく回復し、個別のファイルまたはハードドライブ全体を復元できます。また、Intel Matrix Storage Console (RAID) により、1 台のハードドライブが故障した場合でも、継続した機能を確保することができます。

Intel® Viiv™ テクノロジ (オプション)

Intel Viiv テクノロジはデジタルホーム愛好者向けのテクノロジで、次のものが含まれています。

- Intel® クイックレジュームテクノロジをサポートする BIOS
- デバイスドライバ

このテクノロジにより、しばらく使用していなかったシステムをすぐにアクティブな状態に戻すことができます。

Intel Viiv テクノロジは、Microsoft® Windows® XP Media Center Edition 2005 およびデュアルコアプロセッサといっしょにご注文いただいたシステムのオプションです。

Intel® Viiv™ クイックレジュームテクノロジ (QRT) の使い方

システムが Intel Viiv QRT モードで稼働している場合、電源ボタンはクイックオン / オフ機能として使用されます。電源ボタンを 1 回押すと、ディスプレイには何も表示されなくなり、オーディオもミュートになります。このモードでは、電源ボタンインジケータが示すようにコンピュータはまだ動作中であり、診断ライト 1、2、および 4 は点灯しています。また、ハードドライブが外付けデバイスからのアクセスを受けている時は、ハードドライブインジケータが点滅します。

通常のコンピュータの動作を再開するには、電源ボタンを一瞬押すか、キーボードの任意のキーを押す、マウスを動かす、またはオプションの Microsoft® Windows® XP Media Center Edition 2005 のリモコンのボタンを押します。

セットアップユーティリティで QRT 機能を有効にする手順

クイックレジューム機能をアクティブにする前に、QRT ドライバがインストールされている必要があります。このオプションを注文した場合、QRT ドライバはインストール済みです。また、この機能を注文した場合、セットアップユーティリティでクイックレジュームが有効に設定されています。

- 1 セットアップユーティリティを起動します (115 ページの「セットアップユーティリティの起動」を参照)。
- 2 矢印キーを押して **Power Management** メニューオプションをハイライト表示し、<Enter> を押してメニューにアクセスします。
- 3 上下矢印キーを押して **Quick Resume** オプションをハイライト表示し、<Enter> を押してメニューにアクセスします。
- 4 左右矢印キーを押して **On** オプションをハイライト表示し、<Enter> を押してクイックレジューム機能を有効にします。

オペレーティングシステムで QRT 機能を有効にする手順

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。
- 2 **Away** (退席中) タブをクリックします。
- 3 **Enable away mode** (退席中モードを有効にする) および **オプション** のチェックボックスにチェックが入っていることを確認します。
- 4 **詳細設定** タブをクリックします。
- 5 **コンピュータの電源ボタンを押したとき** のドロップダウンメニューから、**何もしない** を選択します。
- 6 **コンピュータのスリープボタンを押したとき** のドロップダウンメニューから、**何もしない** を選択します。

問題の解決

トラブルシューティングのヒント

コンピュータのトラブルシューティングを実行する際は、以下のヒントに従ってください。

- 部品を追加したり取り外した後に問題が発生した場合、取り付け手順を見直して、部品が正しく取り付けられているか確認します。
- 周辺機器が動作しない場合は、周辺機器が正しく接続されているか確認します。
- 画面にエラーメッセージが表示される場合、メッセージを正確にメモします。このメッセージは、サポート担当者が問題を診断および解決するのに役立ちます。
- プログラムの実行中にエラーメッセージが表示される場合、プログラムのマニュアルを参照してください。
- SATA の動作設定を変更したあと、オペレーティングシステムを起動できなくなった場合は、変更前の SATA 動作設定を復元してオペレーティングシステムの起動を再試行してください。

バッテリーの問題

 **警告：**バッテリーの取り付け方が間違っていると、破裂する危険があります。交換するバッテリーは、デルが推奨する型、または同等の製品をご利用ください。使用済みのバッテリーは、製造元の指示に従って廃棄してください。

 **警告：**この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。

バッテリーの交換 — コンピュータの電源を入れた後、繰り返し時間と日付のリセットする必要がある場合、または起動時に間違った時間または日付が表示される場合、バッテリーを交換します（109 ページの「バッテリーの取り付け」を参照）。交換してもバッテリーが正常に機能しない場合、デルにお問い合わせください（124 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

ドライブの問題

 **警告**：この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。

MICROSOFT® WINDOWS® がドライブを認識しているか確認します — スタート ボタンをクリックし、**マイコンピュータ** をクリックします。フロッピー、CD、または DVD ドライブが一覧に表示されない場合、アンチウイルスソフトウェアでウイルスチェックを行い、ウイルスを調査して除去します。ウイルスが原因で Windows がドライブを認識できないことがあります。

ドライブをテストします —

- 元のフロッピー、CD、または DVD に問題がないか確認するため、別のディスクを挿入します。
- 起動フロッピーを挿入して、コンピュータを再起動します。

ドライブまたはディスクをクリーニングします — 電源管理のモードについては、33 ページの「コンピュータのクリーニング」を参照してください。

ケーブルの接続を確認します

ハードウェアのトラブルシューティングを実行します — 65 ページの「Microsoft Windows XP システムの復元の使い方」を参照してください。

DELL DIAGNOSTICS (診断) プログラムを実行します — 62 ページの「Dell Diagnostics (診断) プログラム」を参照してください。

CD および DVD ドライブの問題

 **メモ**：高速 CD または DVD ドライブの振動は異常ではなく、ノイズを引き起こすこともあります。これは、ドライブや CD または DVD の異常ではありません。

 **メモ**：様々なファイル形式があるため、お使いの DVD ドライブでは再生できない DVD もあります。

WINDOWS で音量を調節します —

- 画面右下角にあるスピーカーのアイコンをクリックします。
- スライドバーをクリックし、上にドラッグして、音量が上がることを確認します。
- チェックマークの付いたボックスをクリックして、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。

スピーカーとサブウーハーを確認します — 57 ページの「サウンドおよびスピーカーの問題」を参照してください。

CD/DVD-RW ドライブへの書き込み問題

その他のプログラムを閉じます — CD/DVD-RW ドライブはデータを書き込む際に、一定のデータの流れを必要とします。データの流れが中断されるとエラーが発生します。CD/DVD-RW に書き込みを開始する前に、すべてのプログラムを終了して見ます。

CD/DVD-RW への書き込みの前に Windows のスタンバイモードを無効にします — Windows ヘルプでスタンバイというキーワードを検索します。

ハードドライブの問題

チェックディスクを実行します —

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**マイコンピュータ** をクリックします。
- 2 **ローカルディスク C:** を右クリックします。
- 3 **プロパティ** をクリックします。
- 4 **ツール** タブをクリックします。
- 5 **エラーチェック** で、**チェックする** をクリックします。
- 6 **不良なセクタをスキャンし、回復する** をクリックします。
- 7 **開始** をクリックします。

E-メール、モデム、およびインターネットの問題



警告: この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。



メモ: モデムは必ずアナログ電話ジャックに接続してください。デジタル電話回線 (ISDN) に接続した場合、モデムは動作しません。

MICROSOFT OUTLOOK® EXPRESS のセキュリティ設定を確認します — E-メールの添付ファイルが開けない場合、次の手順を実行します。

- 1 Outlook Express で、**ツール**、**オプション** とクリックして、**セキュリティ** をクリックします。
- 2 **ウイルスの可能性のある添付ファイルを保存したり開いたりしない** をクリックして、チェックマークを外します。

電話線の接続を確認します —

電話ジャックを確認します —

モデムを直接電話ジャックに接続します —

他の電話線を使用してみます —

- 電話線がモデムのジャックに接続されているか確認します。(ジャックは緑色のラベル、もしくはコネクタの絵柄の横にあります。)
- 電話線のコネクタをモデムに接続する際に、カチッと感触があることを確認します。
- モデムから電話線を外して、電話に接続します。電話の発信音を聞きます。
- 留守番電話、ファックス、サービプロテクタ、および電話線分岐タップなど同じ回線に接続されている電話機器を取り外し、電話を使ってモデムを直接壁の電話ジャックに接続します。3 m 以内の電話線を使用します。

MODEM HELPER 診断プログラムを実行します — スタート ボタンをクリックし、**すべてのプログラム** をポイントして、**Modem Helper** をクリックします。画面の指示に従って、モデムの問題を識別して、その問題を解決します。Modem Helper は、すべてのコンピュータで利用できるわけではありません。

モデムが WINDOWS と通信しているか確認します —

- 1 スタート ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。
- 2 **プリンタとその他のハードウェア** をクリックします。
- 3 **電話とモデムのオプション** をクリックします。
- 4 **モデム** タブをクリックします。
- 5 モデムの COM ポートをクリックします。
- 6 Windows がモデムを検出したか確認するため、**プロパティ** をクリックし、**診断** タブをクリックして、**モデムの照会** をクリックします。
すべてのコマンドに応答がある場合、モデムは正しく動作しています。

インターネットへの接続を確認します — ISP（インターネットサービスプロバイダ）との契約が済んでいることを確認します。E-メールプログラム **Outlook Express** を起動し、**ファイル** をクリックします。**オフライン作業** の横にチェックマークが付いている場合、チェックマークをクリックしてマークを外し、インターネットに接続します。ご質問がある場合、ご利用のインターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。

エラーメッセージ

エラーメッセージがリストにない場合、メッセージが表示されたときに実行していたオペレーティングシステムまたはプログラムのマニュアルを参照してください。

ファイル名には次の文字は使用できません：¥/:*?"<>| — これらの記号をファイル名に使用しないでください。

必要な .DLL ファイルが見つかりません — 実行しようとしているプログラムに必要なファイルがありません。次の操作を行い、アプリケーションプログラムを削除して再インストールします。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**プログラムの追加と削除** をクリックします。
- 2 削除したいプログラムを選択します。
- 3 削除 ボタンまたは **変更と削除** ボタンをクリックします。
- 4 インストール手順については、プログラムに付属されているマニュアルを参照してください。

警告！空気温度センサは検出されませんでした — 環境熱センサーが検知されませんでした。**F1** を押して続けるか、**F2** を押してセットアップユーティリティを実行します。

ドライブ文字：¥にアクセスできません。デバイスの準備ができていません — ドライブがディスクを読み取ることができません。ドライブにディスクを入れ、もう一度試してみます。

起動用メディアを挿入します — 起動可能なフロッピーまたは CD を挿入します。

非システムディスクエラーです — ドライブからフロッピーを取り出し、コンピュータを再起動します。

メモリまたはリソースが不足しています。いくつかのプログラムを閉じてもう一度やりなおします — すべてのウィンドウを閉じ、使用するプログラムのみを開きます。場合によっては、コンピュータを再起動してコンピュータリソースを復元する必要があります。その場合、最初に使うプログラムを開きます。

オペレーティングシステムが見つかりません — デルにお問い合わせください（124 ページの「デルへのお問い合わせ」参照）。

メディアカードリーダーの問題

ドライブ文字が割り当てられていません — Microsoft Windows XP でメディアカードリーダーが検出されると、このデバイスには、システム内の他のすべての物理ドライブの後に、その次の論理ドライブとしてドライブ文字が自動的に割り当てられます。物理ドライブの後の次の論理ドライブがネットワークドライブにマッピングされた場合、Windows XP はメディアカードリーダーに自動的にドライブ文字を割り当てることはありません。

メディアカードリーダーに手でドライブを割り当てるには、次の手順を実行します。

- 1 マイコンピュータを右クリックして **管理** を選択します。
- 2 **ディスクの管理** オプションを選択します。
- 3 右のペインで、変更する必要があるドライブ文字を右クリックします。
- 4 **ドライブ文字とパスの変更** を選択します。
- 5 ドロップダウンリストから、メディアカードリーダーに割り当てる新しいドライブ文字を選択します。
- 6 **OK** をクリックして、選択内容を確定します。

メモ: メディアカードリーダーは、接続されているときにだけ、マッピングされたドライブとして表示されます。4 つのメディアカードリーダーのスロットはそれぞれ、メディアが挿入されていなくてもドライブにマッピングされます。メディアが挿入されていないときにメディアカードリーダーにアクセスしようとすると、メディアを挿入するようプロンプトが表示されます。

FLEXBAY デバイスは無効です — BIOS セットアップには、FlexBay デバイスが取り付けられている場合のみ表示される FlexBay 無効オプションがあります。FlexBay デバイスが物理的に取り付けられているにもかかわらず、動作していない場合は、BIOS セットアップで有効になっているかどうかを確認してください。

キーボードの問題

 **警告:** この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。

キーボードケーブルを確認します —

- キーボードケーブルがコンピュータにしっかり接続されているか確認します。
- コンピュータをシャットダウンし（69 ページの「コンピュータの電源を切る」を参照）、キーボードケーブルをコンピュータのセットアップ図に示されているように 接続しなおし、コンピュータを再起動します。
- ケーブルが損傷したり擦り切れたりしていないか、ケーブルコネクタが曲がっていないか、ピンが壊れていないかを確認します。曲がったピンをまっすぐにします。
- キーボード延長ケーブルを取り外し、キーボードを直接コンピュータに接続します。

キーボードを確認します — 正常に機能している別のキーボードをコンピュータに接続して、使用してみます。

ハードウェアのトラブルシューティングを実行します — 65 ページの「ソフトウェアとハードウェアの非互換性の解決」を参照してください。

フリーズおよびソフトウェアの問題

 **警告:** この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。

コンピュータが起動しない

診断ライトを確認します — 59 ページの「診断ライト」を参照してください。

電源ケーブルがコンピュータとコンセントにしっかりと接続されているか確認します

コンピュータが応答しない

 **注意:** オペレーティングシステムのシャットダウンが実行できない場合、データを損失する恐れがあります。

コンピュータの電源を切ります — キーボードのキーを押したり、マウスを動かしてもコンピュータが応答しない場合、電源ボタンを 8 ~ 10 秒以上押し続けてコンピュータの電源を切ったあと、コンピュータを起動しなおします。

プログラムが応答しない

プログラムを終了します —

- 1 <Ctrl><Shift><Esc> を同時に押します。
- 2 **アプリケーション** をクリックします。
- 3 反応がなくなったプログラムを選択します。
- 4 **タスクの終了** をクリックします。

プログラムが繰り返しクラッシュする



メモ: ほとんどのソフトウェアのインストールの手順は、そのマニュアルまたはフロッピーディスクか CD に収録されています。

プログラムのマニュアルを参照します — 必要に応じて、プログラムをアンインストールしてから再インストールします。

プログラムが以前の Windows オペレーティングシステム向けに設計されている

プログラム互換性ウィザードを実行します — Windows XP には、Windows XP オペレーティングシステムとは異なるオペレーティングシステムに近い環境で、プログラムが動作するよう設定できるプログラム互換性ウィザードがあります。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム → アクセサリ** の順にポイントして、**プログラム互換性ウィザード** をクリックします。
- 2 プログラム互換性ウィザードの開始 画面で、**次へ** をクリックします。
- 3 画面の指示に従います。

画面が青色（ブルースクリーン）になった

コンピュータの電源を切ります — キーボードのキーを押したり、マウスを動かしてもコンピュータが応答しない場合、電源ボタンを 8 ~ 10 秒以上押し続けてコンピュータの電源を切ったあと、コンピュータを起動しなおします。

その他のソフトウェアの問題

トラブルシューティング情報については、ソフトウェアのマニュアルを確認するかソフトウェアの製造元に問い合わせます —

- コンピュータにインストールされているオペレーティングシステムと互換性があるか確認します。
- コンピュータがソフトウェアを実行するのに必要な最小ハードウェア要件を満たしているか確認します。詳細については、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。
- プログラムが正しくインストールおよび設定されているか確認します。
- デバイスドライバがプログラムとコンフリクトしていないか確認します。
- 必要に応じて、プログラムをアンインストールしてから再インストールします。

すぐにお使いのファイルのバックアップを作成します

ウイルススキャンプログラムを使って、ハードドライブ、フロッピーディスク、または CD を調べます

開いているファイルまたはプログラムを保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了して、スタートメニューからコンピュータをシャットダウンします

メモリの問題

 **警告:** この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。

メモリ不足を示すメッセージが表示される場合 —

- 作業中のすべてのファイルを保存してから閉じ、開いたまま使用していないすべてのプログラムを終了します。
- メモリの最小要件については、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。必要に応じて、増設メモリを取り付けます（75 ページの「メモリの取り付け」を参照）。
- メモリモジュールを装着しなおし（74 ページの「メモリ」を参照）、コンピュータがメモリと正常に通信しているか確認します。
- Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します（62 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照）。

その他の問題が発生する場合 —

- メモリモジュールを装着しなおし（74 ページの「メモリ」を参照）、コンピュータがメモリと正常に通信しているか確認します。
- メモリの取り付けガイドラインに従っているか確認します（75 ページの「メモリの取り付け」を参照）。
- お使いのコンピュータは DDR2 メモリをサポートしています。コンピュータでサポートされているメモリのタイプについては、111 ページの「メモリ」を参照してください。
- Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します（62 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照）。

マウスの問題

 **警告**：この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。

マウスをクリーニングします — マウスのクリーニングについては、34 ページの「マウスのクリーニング」を参照してください。

マウスケーブルを確認します —

- 1 使用しているマウス延長ケーブルをすべて取り外し、マウスをコンピュータに直接接続します。
- 2 お使いのコンピュータに付属のセットアップ図に示されているように、マウスケーブルが接続されていることを確認します。

コンピュータを再起動します —

- 1 <Ctrl><Esc> を同時に押して、**スタート** メニューを表示します。
- 2 <u> と入力してから、上下矢印キーを押して **シャットダウン** または **電源を切る** を選択し、<Enter> キーを押します。
- 3 コンピュータの電源が切れた後、お使いのコンピュータのセットアップ図に示されているようにマウスケーブルが接続されていることを確認します。
- 4 コンピュータの電源を入れます。

マウスを確認します — 正常に機能している別のマウスをコンピュータに接続して、使用してみます。

マウス設定を確認します —

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**プリンタとその他のハードウェア** をクリックします。
- 2 **マウス** をクリックします。
- 3 必要に応じて設定を調整します。

マウスドライバを再インストールします — 64 ページの「ドライバの再インストール」を参照してください。

ハードウェアのトラブルシューティングを実行します — 65 ページの「ソフトウェアとハードウェアの非互換性の解決」を参照してください。

ネットワークの問題

 **警告**：この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。

ネットワークケーブルのコネクタを確認します — ネットワークケーブルがコンピュータ背面のネットワークコネクタおよびネットワークジャックの両方に、しっかりと差し込まれているか確認します。

コンピュータ背面のネットワークインジケータを確認します — リンク保全ライトがオフの場合、ネットワーク通信が存在しないことを示しています。ネットワークケーブルを取り替えます。ネットワークライトの詳細については、114 ページの「コントロールおよびライト」を参照してください。

コンピュータを再起動して、再度ネットワークにログオンしなおします

ネットワークの設定を確認します — ネットワーク管理者、またはお使いのネットワークを設定した方にお問い合わせになり、ネットワークへの接続設定が正しくて、ネットワークが正常に機能しているか確認します。

ハードウェアのトラブルシューティングを実行します — 65 ページの「ソフトウェアとハードウェアの非互換性の解決」を参照してください。

電源の問題

 **警告**：この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。

電源ライトが緑色に点灯していて、コンピュータの反応が停止した場合 — 62 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照してください。

電源ライトが緑色に点滅している場合 — コンピュータはスタンバイモードに入っています。キーボードのキーを押したり、マウスを動かしたり、電源ボタンを押したりすると、通常の動作が再開されます。

電源ライトが消灯している場合 — コンピュータの電源が切れているか、またはコンピュータに電力が供給されていません。

- 電源ケーブルをコンピュータ背面の電源コネクタとコンセントの両方にしっかりと装着しなおします。
- コンピュータが電源タップに接続されている場合、電源タップがコンセントに接続され電源タップがオンになっていることを確認します。
- 電源保護装置、電源タップ、電源延長ケーブルなどをお使いの場合、それらを取り外してコンピュータに正しく電源が入るか確認します。
- 電気スタンドなどの電化製品でコンセントに問題がないか確認します。
- 電源ケーブルおよび前面パネルのケーブルがシステム基板にしっかりと接続されているか確認します（73 ページの「システム基盤コンポーネント」を参照）。

電源ライトが黄色に点灯している場合 — デバイスが故障しているか、または正しく取り付けられていない可能性があります。

- メモリモジュールを取り外して、取り付けなおします（74 ページの「メモリ」を参照）。
- グラフィックカードを含むすべてのカードを取り外して、取り付けなおします（78 ページの「カード」を参照）。

電源ライトが黄色に点滅している場合 — コンピュータに電力は供給されていますが、内部で電源の問題が発生している可能性があります。

- 該当する場合、電圧切り替えスイッチの設定が、ご使用の地域の AC 電源に一致しているか確認します。
- プロセッサ電源ケーブルがシステム基板上にしっかりと接続されているか確認します（73 ページの「システム基盤コンポーネント」を参照）。

電気的な妨害を調べます — 電気的な妨害の原因には、以下のものがあります。

- 電源ケーブル、キーボードケーブル、およびマウス延長ケーブル
- 同じ電源タップに接続されているデバイスが多すぎる
- 同じコンセントに複数の電源タップが接続されている

プリンタの問題

 **警告:** この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。

 **メモ:** プリンタのテクニカルサポートが必要な場合、プリンタの製造元にお問い合わせください。

プリンタのマニュアルを確認します — プリンタのセットアップおよびトラブルシューティングの詳細に関しては、プリンタのマニュアルを参照してください。

プリンタの電源が入っているかどうか確認します

プリンタケーブルの接続を確認します —

- ケーブル接続の情報については、プリンタのマニュアルを参照してください。
- プリンタケーブルがプリンタおよびコンピュータにしっかりと接続されていることを確認します（20 ページの「プリンタのセットアップ」を参照）。

コンセントを確認します — 電気スタンドなどの電化製品でコンセントに問題がないか確認します。

Windows でプリンタを検出します —

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**プリンタとその他のハードウェア** をクリックします。
- 2 **インストールされているプリンタまたは FAX プリンタを表示する** をクリックします。
プリンタが表示されたら、プリンタのアイコンを右クリックします。
- 3 **プロパティ** をクリックして **ポート** タブをクリックします。USB プリンタの場合、**印刷するポート** が **USB** に設定されているか確認します。

プリンタドライバを再インストールします — 手順については、プリンタに付属しているマニュアルを参照してください。

スキャナーの問題

 **警告**：この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。

 **メモ**：スキャナーのテクニカルサポートについては、スキャナーの製造元にお問い合わせください。

スキャナーのマニュアルを確認します — スキャナーのセットアップおよびトラブルシューティングの詳細に関しては、スキャナーのマニュアルを参照してください。

スキャナーのロックを解除します — ロックが解除されているか確認します（スキャナーにロックタブやボタンがある場合）。

コンピュータを再起動して、もう一度スキャンしてみます

ケーブルの接続を確認します —

- ケーブル接続の詳細については、スキャナーのマニュアルを参照してください。
- スキャナーのケーブルがスキャナーとコンピュータにしっかりと接続されているか確認します。

MICROSOFT WINDOWS がスキャナーを認識しているか確認します —

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**プリンタとその他のハードウェア** をクリックします。
- 2 **スキャナとカメラ** をクリックします。
お使いのスキャナーが一覧に表示されている場合、Windows はスキャナーを認識しています。

スキャナードライバを再インストールします — 手順については、スキャナーに付属しているマニュアルを参照してください。

サウンドおよびスピーカーの問題

 **警告:** この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。

スピーカーから音が出ない場合

 **メモ:** MP3 およびその他のメディアプレーヤーのボリューム調節は、Windows のボリューム設定よりも優先されることがあります。メディアプレーヤーのボリュームが低く調節されていたり、オフになっていないかを常に確認してください。

スピーカーケーブルの接続を確認します — スピーカーのセットアップ図の指示通りにスピーカーが接続されているか確認してください。サウンド カードをご購入された場合、スピーカーがカードに接続されているか確認します。

サブウーハーおよびスピーカーの電源が入っているか確認します — スピーカーに付属しているセットアップ図を参照してください。スピーカーにボリュームコントロールが付いている場合、音量、低音、または高音を調整して音の歪みを解消します。

Windows のボリューム調整 — 画面右下角にあるスピーカーのアイコンをクリックまたはダブルクリックします。音量が上げてあり、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。

ヘッドフォンをヘッドフォンコネクタから取り外します — コンピュータの前面パネルにあるヘッドフォンコネクタにヘッドフォンを接続すると、自動的にスピーカーからの音声は聞こえなくなります。

コンセントを確認します — 電気スタンドなどの電化製品でコンセントに問題がないか確認します。

電氣的な妨害を除去します — コンピュータの近くで使用している扇風機、蛍光灯、またはハロゲンランプの電源を切り、干渉を調べます。

サウンドドライバを再インストールします — 64 ページの「ドライバの再インストール」を参照してください。

ハードウェアのトラブルシューティングを実行します — 65 ページの「ソフトウェアとハードウェアの非互換性の解決」を参照してください。

ヘッドフォンから音が出ない場合

ヘッドフォンのケーブル接続を確認します — ヘッドフォンケーブルがヘッドフォンコネクタにしっかりと接続されているか確認します（13 ページの「コンピュータの正面図」を参照）。

Windows で音量を調節します — 画面右下角にあるスピーカーのアイコンをクリックまたはダブルクリックします。音量が上げてあり、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。

ビデオとモニターの問題



警告: この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。

メモ: トラブルシューティングの手順については、モニターのマニュアルを参照してください。

画面に何も表示されない

モニターのケーブル接続を確認します —

- モニターケーブルが、お使いのコンピュータのセットアップ図にある指示どおりに接続されているか確認します。
- 使用しているビデオ延長ケーブルをすべて取り外し、モニターをコンピュータに直接接続します。
- コンピュータおよびモニターの電源ケーブルを交換し、電源ケーブルに障害があるかどうか確認します。
- コネクタが曲がっていないか、ピンが壊れていないか確認します（モニターのケーブルコネクタは、通常いくつかのピンが欠けています）。

モニターの電源ライトを確認します —

- 電源ライトが消灯している場合、ボタンをしっかりと押し、モニターの電源が入っているか確認します。
- 電源ライトが点灯または点滅している場合、モニターには電力が供給されています。
- 電源ライトが点滅している場合、キーボードのキーを押ししたり、マウスを動かしたりすると、通常の動作が再開されます。

コンセントを確認します — 電気スタンドなどの電化製品でコンセントに問題がないか確認します。

診断ライトを確認します — 59 ページの「診断ライト」を参照してください。

画面が見づらい

モニターの設定を確認します — モニターのコントラストと輝度の調整、モニターの消磁、およびモニターのセルフテストを実行する手順については、モニターのマニュアルを参照してください。

サブウーハーをモニターから離します — スピーカーにサブウーハーが含まれている場合、サブウーハーがモニターから 60 センチ以上離れていることを確認します。

外部電源をモニターから離します — 扇風機、蛍光灯、ハロゲンランプ、およびその他の電気機器は、画面の状態を不安定にすることがあります。コンピュータの近くで使用している機器の電源を切ってみてください。

モニターを回転させ、直射日光や干渉を減らします

WINDOWS のディスプレイ設定を調節します —

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**デスクトップの表示とテーマ** をクリックします。
- 2 **画面** をクリックして、**設定** タブをクリックします。
- 3 必要に応じて **画面の解像度** および **画面の色** の設定を調整します。

トラブルシューティングツール

診断ライト

⚠ 警告：この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。問題のトラブルシューティングを容易にするため、お使いのコンピュータには前面に「1」、「2」、「3」、および「4」というラベルの付いた4つのライトがあります（13ページの「コンピュータの正面図」を参照）。コンピュータが正常に起動すると、ライトは点滅してから消灯します。コンピュータが誤動作している場合は、ライトの組み合わせ順によって問題を識別できます。

ライトパターン	問題の説明	推奨される処置
①②③④	<p>コンピュータが通常の「オフ」の状態、または BIOS 以前に障害が起こっている可能性があります。</p> <p>コンピュータが正常にオペレーティングシステムを起動した場合、4個の診断ライトがすべて少しの間緑色に点灯したあと消灯します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • コンピュータを使用可能なコンセントに接続します（54ページの「電源の問題」を参照）。 • 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください（124ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。
①②③④	<p>プロセッサに障害が起こっている可能性があります。</p>	<p>デルにお問い合わせください（124ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。</p>
①②③④	<p>メモリモジュールが検出されましたが、メモリ障害が発生しています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 2つ以上のメモリモジュールが取り付けられている場合、モジュールを取り外し（77ページの「メモリの取り外し」を参照）、1つのモジュールを取り付けなおして（75ページの「メモリの取り付け」を参照）コンピュータを再起動します。コンピュータが正常に起動した場合は、追加モジュールを（1つずつ）取り付けていきます。障害のあるモジュールが見つかるまで、あるいはすべてのモジュールの取り付けが問題なく完了するまで続けます。 • 適切に動作する同じ種類のメモリがある場合、そのメモリをコンピュータに取り付けます（75ページの「メモリの取り付け」を参照）。 • 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください（124ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

ライトパターン (続)	問題の説明	推奨される処置
① ② ③ ④	グラフィックスカードの障害が発生した可能性があります。	<ul style="list-style-type: none"> • 取り付けられたグラフィックスカードを抜き差しします (78 ページの「カード」を参照)。 • 動作するグラフィックスカードがある場合、そのカードをコンピュータに取り付けます。 • 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください (124 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照)。
① ② ③ ④	フロッピードライブまたはハードドライブの障害が発生した可能性があります。	すべての電源ケーブルおよびデータケーブルを抜き差しします。
① ② ③ ④	USB の障害が発生した可能性があります。	すべての USB デバイスを取り付けなおし、ケーブル接続を確認します。
① ② ③ ④	メモリモジュールが検出されません。	<ul style="list-style-type: none"> • 2 つ以上のメモリモジュールが取り付けられている場合、モジュールを取り外し (77 ページの「メモリの取り外し」を参照)、1 つのモジュールを取り付けなおして (75 ページの「メモリの取り付け」を参照) コンピュータを再起動します。コンピュータが正常に起動した場合は、追加モジュールを (1 つずつ) 取り付けていきます。障害のあるモジュールが見つかるまで、あるいはすべてのモジュールの取り付けが問題なく完了するまで続けます。 • 適切に動作する同じ種類のメモリがある場合、そのメモリをコンピュータに取り付けます (75 ページの「メモリの取り付け」を参照)。 • 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください (124 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照)。
① ② ③ ④	メモリモジュールは検出されましたが、メモリの設定または互換性エラーが発生しています。	<ul style="list-style-type: none"> • 特別なメモリモジュール / コネクタ設置要件がないか確認します (74 ページの「メモリ」を参照)。 • 使用しているメモリがお使いのコンピュータでサポートされているかどうか確認します (111 ページの「メモリ」を参照)。 • 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください (124 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照)。

ライトパターン (続) 問題の説明**推奨される処置**



拡張カードの障害が発生した可能性があります。

- 1 (グラフィックスカード以外の) カードを取り外してからコンピュータを再起動し、コンフリクトが起きていないかを調べます (78 ページの「カード」を参照)。
- 2 問題が解決しない場合、取り外したカードを取り付けなおし、別のカードを取り外して、コンピュータを再起動します。
- 3 それぞれのカードについて、この手順を繰り返します。コンピュータが正常に起動する場合は、コンピュータから最後に取り外したカードのリソース競合についてトラブルシューティングを行います (65 ページの「ソフトウェアとハードウェアの非互換性の解決」を参照)。
- 4 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください (124 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照)。



システムはクイックレジュームモードで動作しています。詳細については、43 ページの「Intel® ViiV™ クイックレジュームテクノロジー (QRT) の使い方」を参照してください。

- 電源ボタンを押す
- マウスを動かす
- キーボードのいずれかのキーを押す
- MCE リモコン (オプション) の任意のキーを押す
- 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください (124 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照)。



その他の障害が発生しました。

- ハードドライブおよび CD/DVD ドライブのケーブルがすべてシステム基板に正しく接続されているかどうかを確認します (73 ページの「システム基盤コンポーネント」を参照)。
 - デバイス (フロッピードライブやハードドライブなど) に問題があることを示すエラーメッセージが画面に表示されている場合は、デバイスが正しく機能しているか確認してください。
 - オペレーティングシステムがデバイス (フロッピードライブやハードドライブ) から起動しようとしている場合は、起動順序がコンピュータにインストールされているデバイスで正しく設定されているか、セットアップユーティリティ (115 ページの「セットアップユーティリティ」を参照) を確認してください。
 - 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください (124 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照)。
-

Dell Diagnostics（診断）プログラム

 **警告：**この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。コンピュータに問題が発生した場合、デルテクニカルサポートに問い合わせる前に、45 ページの「問題の解決」にあるチェック事項を実行してから、Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行してください。

 **メモ：**Dell Diagnostics（診断）プログラムは、Dell コンピュータ上でのみ動作します。

- 1 コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。
- 2 DELL のロゴが表示されたらすぐに <F12> を押します。
キーを押すタイミングが遅れて、オペレーティングシステムのロゴが表示されてしまったら、Microsoft® Windows® デスクトップが表示されるのを待ち、コンピュータをシャットダウンして操作をやりなおしてください。
- 3 起動デバイス一覧が表示されたら、**Boot to Utility Partition** をハイライト表示して <Enter> を押します。
- 4 Dell Diagnostics（診断）プログラムの **Main Menu** が表示されたら、実行するテストを選びます。

Dell Diagnostics（診断）プログラムのメインメニュー

- 1 Dell Diagnostics（診断）プログラムのロードが終了すると、**Main Menu** 画面が表示されるので、必要なオプションのボタンをクリックします。

オプション	機能
Express Test	デバイスのクイックテストを実行します。通常このテストは 10 ~ 20 分かかり、お客様の操作は必要ありません。最初に Express Test を実行すると、問題を素早く特定できる可能性が増します。
Extended Test	デバイスの全体チェックを実行します。このテストは通常 1 時間以上かかり、質問に定期的に応答する必要があります。
Custom Test	特定のデバイスをテストします。実行するテストをカスタマイズできます。
Symptom Tree	検出した最も一般的な症状を一覧表示し、問題の症状に基づいたテストを選択することができます。

- 2 テスト実行中に問題が検出されると、エラーコードと問題の説明を示したメッセージが表示されます。エラーコードと問題の説明を記録し、画面の指示に従います。
エラー状態を解決できない場合は、デルにお問い合わせください（124 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

 **メモ：**各テスト画面の上部には、コンピュータのサービスタグが表示されます。デルにお問い合わせになると、サービスタグを尋ねられますので、事前に確認しておいてください。

- 3 **Custom Test** または **Symptom Tree** オプションからテストを実行する場合は、該当するタブをクリックします（詳細に関しては、以下の表を参照）。

タブ	機能
Results	テストの結果、および発生したすべてのエラーの状態を表示します。
Errors	検出されたエラー状態、エラーコード、問題の説明が表示されます。
Help	テストについて説明します。また、テストを実行するための要件を示す場合もあります。
Configuration	選択したデバイスのハードウェア構成を表示します。 Dell Diagnostics （診断）プログラムでは、セットアップユーティリティ、メモリ、および各種内部テストからすべてのデバイスの構成情報を取得して、画面左のウィンドウのデバイスリストに表示します。デバイス一覧には、コンピュータに取り付けられたすべてのコンポーネント名、またはコンピュータに取り付けられたすべてのデバイス名が表示されるとは限りません。
Parameters	テストの設定を変更して、テストをカスタマイズすることができます。

- 4 テスト画面を閉じて **Main Menu** 画面に戻ります。Dell Diagnostics（診断）プログラムを終了してコンピュータを再起動するには、**Main Menu** 画面を閉じます。

ドライバ

ドライバとは？

ドライバは、プリンタ、マウス、キーボードなどのデバイスを制御するプログラムです。すべてのデバイスにはドライバプログラムが必要です。

ドライバは、デバイスとそのデバイスを使用するプログラム間の通訳のような役目をします。各デバイスは、そのデバイスのドライバだけが認識する専用のコマンドセットを持っています。

お使いの Dell コンピュータには、出荷時に必要なドライバおよびユーティリティがすでにインストールされていますので、新たにインストールしたり設定したりする必要はありません。

キーボードドライバなど、ドライバの多くは **Microsoft® Windows®** オペレーティングシステムに付属しています。次の場合に、ドライバをインストールする必要があります。

- オペレーティングシステムのアップグレード
- オペレーティングシステムの再インストール
- 新しいデバイスの接続または取り付け

ドライバの識別

デバイスに問題が発生した場合、問題の原因がドライバかどうかを判断し、必要に応じてドライバをアップデートしてください。

Windows XP

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。
- 2 **システム** をクリックします。
- 3 **システムのプロパティ** ウィンドウの **ハードウェア** タブをクリックします。
- 4 **デバイスマネージャ** をクリックします。
- 5 一覧を下にスクロールして、デバイスアイコンに感嘆符（[!] の付いた黄色い丸）が付いているものがないか確認します。
デバイス名の横に感嘆符がある場合、ドライバの再インストールまたは新しいドライバのインストールが必要になる場合があります。

ドライバの再インストール

-  **注意** : デルサポートサイト support.jp.dell.com から、Dell コンピュータの認可されたドライバが入手できます。その他の媒体からのドライバをインストールした場合は、お使いのコンピュータが適切に動作しない恐れがあります。

Windows XP デバイスドライバのロールバックの使い方

新たにドライバをインストールまたはアップデートしたためにシステムが不安定になった場合は、Windows XP のデバイスドライバのロールバックにより、以前にインストールしたバージョンのデバイスドライバに置き換えることができます。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。
- 2 **システム** をクリックします。
- 3 **システムのプロパティ** ウィンドウの **ハードウェア** タブをクリックします。
- 4 **デバイスマネージャ** をクリックします。
- 5 新しいドライバをインストールしたデバイスを右クリックしてから、**プロパティ** をクリックします。
- 6 **ドライバ** タブをクリックします。
- 7 **ドライバのロールバック** をクリックします。

デバイスドライバのロールバックで問題が解決しない場合、システムの復元を使用して、新しいデバイスドライバをインストールする前の稼動状態にコンピュータを戻します。

ドライバの手動インストール

- 1 要求されたドライバファイルをハードドライブにコピーしたあと、**スタート** ボタンをクリックし、**マイコンピュータ** を右クリックします。
- 2 **プロパティ** をクリックします。
- 3 **ハードウェア** タブをクリックして、**デバイスマネージャ** をクリックします。
- 4 ドライバをインストールするデバイスのタイプをダブルクリックします。
- 5 ドライバをインストールするデバイスの名前をダブルクリックします。
- 6 **ドライバ** タブをクリックして、**ドライバの更新** をクリックします。
- 7 **一覧または特定の場所からインストールする（詳細）** をクリックして、**次へ** をクリックします。
- 8 **参照** をクリックして、前回ドライバファイルを解凍した場所を参照します。
- 9 適切なドライバの名前が表示されたら、**次へ** をクリックします。
- 10 **完了** をクリックして、コンピュータを再起動します。

ソフトウェアとハードウェアの非互換性の解決

オペレーティングシステムのセットアップ中にデバイスが検知されないか、検知されても間違っていて設定されている場合は、ハードウェアに関するトラブルシューティングを使って非互換性の問題を解決します。

ハードウェアに関するトラブルシューティングで非互換性の問題を解決するには、次の手順を実行します。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**ヘルプとサポート** をクリックします。
- 2 **検索** フィールドでハードウェアに関するトラブルシューティングと入力し、矢印をクリックして検索を始めます。
- 3 **検索の結果** の一覧で、**ハードウェアに関するトラブルシューティング** をクリックします。
- 4 **ハードウェアに関するトラブルシューティング** 一覧で、**コンピュータにあるハードウェアの競合を解決します** をクリックして、**次へ** をクリックします。

お使いのオペレーティングシステムの復元

次の方法で、お使いのオペレーティングシステムを復元することができます。

- Microsoft® Windows® XP のシステムの復元は、データファイルに影響を与えることなく、お使いのコンピュータを以前の動作状態に戻します。データファイルを保護しながら、オペレーティングシステムを復元する最初の解決策として、システムの復元を使用してください。
- Symantec による Dell PC リストアは、お使いのハードドライブを、コンピュータを購入されたときの状態に戻します。Dell PC リストアはハードドライブのすべてのデータを永久に削除し、コンピュータを受け取られてから後にインストールされた全てのアプリケーションも取り除きます。システムの復元でオペレーティングシステムの問題を解決できなかった場合のみ、PC リストアを使用してください。
- コンピュータに『オペレーティングシステム CD』が付属している場合は、この CD を使ってオペレーティングシステムを復元できます。ただし、『オペレーティングシステム CD』を使用すると、ハードドライブのデータはすべて削除されます。システムの復元でオペレーティングシステムの問題を解決できなかった場合のみ、この CD を使用してください。

Microsoft Windows XP システムの復元の使い方

ハードウェア、ソフトウェア、またはその他のシステム設定を変更したためにコンピュータが正常に動作しなくなってしまった場合、Microsoft Windows XP オペレーティングシステムのシステムの復元を使用して、コンピュータを以前の動作状態に復元することができます（データファイルへの影響はありません）。システムの復元の使い方については、Windows ヘルプとサポートセンターを参照してください。Windows ヘルプとサポートセンターにアクセスするには、次の手順を実行します。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**ヘルプとサポート** をクリックします。
- 2 問題に関連する用語やフレーズを検索ボックスに入力して、矢印アイコンをクリックします。
- 3 問題に関連するトピックをクリックします。
- 4 画面に表示される指示に従ってください。



注意: データファイルのバックアップを定期的作成してください。システムの復元は、データファイルを監視したり、データファイルを復元したりしません。



メモ: このマニュアルの手順は、Windows のデフォルト表示用に記載されていますので、お使いの Dell コンピュータを Windows クラシック表示に設定している場合には適用されない場合があります。

復元ポイントの作成

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**ヘルプとサポート** をクリックします。
- 2 **システムの復元** のタスクをクリックします。
- 3 画面に表示される指示に従ってください。

コンピュータの以前の動作状態への復元

デバイスドライバをインストールしたあとに問題が発生した場合、まずデバイスドライバロールバック (64 ページの「Windows XP デバイスドライバのロールバックの使い方」を参照) を使用してみます。それでも問題が解決しない場合は、システムの復元を使用します。

 **注意:** コンピュータを前の動作状態に復元する前に、開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。システムの復元が完了するまで、いかなるファイルまたはプログラムも変更したり、開いたり、削除したりしないでください。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム → アクセサリ → システムツール** とポイントしてから、**システムの復元** をクリックします。
- 2 **コンピュータを以前の状態に復元する** が選択されていることを確認して、**次へ** をクリックします。
- 3 コンピュータを復元したいカレンダーの日付をクリックします。

復元ポイントの選択 画面に、復元ポイントが選べるカレンダーが表示されます。復元ポイントが利用できる日付は太字で表示されます。

- 4 復元ポイントを選択して、**次へ** をクリックします。
カレンダーに復元ポイントが 1 つしか表示されない場合、その復元ポイントが自動的に選択されます。2 つ以上の復元ポイントが利用可能な場合は、希望の復元ポイントをクリックします。
- 5 **次へ** をクリックします。
システムの復元がデータの収集を完了したら、**復元は完了しました** 画面が表示され、コンピュータが自動的に再起動します。
- 6 コンピュータが再起動したら、**OK** をクリックします。

復元ポイントを変更するには、別の復元ポイントを使用してこの手順を繰り返すか、復元を元に戻します。

最後のシステムの復元を元に戻す

 **注意:** 最後に行ったシステムの復元を取り消す前に、開いているファイルをすべて保存して閉じ、実行中のプログラムをすべて終了してください。システムの復元が完了するまで、いかなるファイルまたはプログラムも変更したり、開いたり、削除したりしないでください。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム → アクセサリ → システムツール** とポイントしてから、**システムの回復** をクリックします。
- 2 **以前の復元を取り消す** を選択して、**次へ** をクリックします。

システムの復元の有効化

200 MB しか空容量のないハードディスクに Windows XP を再インストールした場合は、システムの復元は自動的に無効に設定されています。システムの復元が有効になっているか確認するには、次の手順を実行します。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。
- 2 **パフォーマンスとメンテナンス** をクリックして、**システム** をクリックします。

- 3 システムの復元 タブをクリックします。
- 4 すべてのドライブでシステムの復元を無効にする にチェックマークが付いていないことを確認します。

Symantec の Dell PC リストアの使い方

 **注意** : Dell PC リストアを使用すると、ハードドライブのすべてのデータは完全に削除され、コンピュータの購入後にインストールしたすべてのアプリケーションやドライブも削除されます。PC リストアを使用する前にデータをバックアップしてください。システムの復元でオペレーティングシステムの問題を解決できなかった場合のみ、PC リストアを使用してください。

 **メモ** : Dell PC リストアは、地域やコンピュータによって使用できない場合があります。

Symantec による Dell PC リストアは、お使いのオペレーティングシステムを復元するための最終手段としてのみ使用してください。

PC リストアは、お使いのハードドライブを、コンピュータを購入されたときの状態に戻します。コンピュータの購入後に追加したデータファイルを含むすべてのプログラムやファイルがハードドライブから完全に削除されます。データファイルには、コンピュータ上の文書、表計算、メールメッセージ、デジタル写真、ミュージックファイルなどが含まれます。PC リストアを使用する前にすべてのデータをバックアップしてください。

PC リストアは、以下の手順で実行します。

- 1 コンピュータの電源を入れます。
起動プロセスの間、画面の上部に青色のバーで **www.dell.com** と表示されます。
- 2 青色のバーが表示されたら、すぐに <Ctrl><F11> を押します。
<Ctrl><F11> を押すのが遅れた場合は、コンピュータの起動が完了するのを待ち、もう一度コンピュータを再起動してください。

 **注意** : PC リストアをこれ以上進めたくない場合は、次の手順で **再起動** をクリックします。

- 3 次の画面で **復元** をクリックします。
- 4 次の画面で **承認** をクリックします。
復元プロセスが完了するまでに、約 6 ~ 10 分かかります。
- 5 プロンプトが表示されたら、**終了** をクリックしてコンピュータを再起動します。

 **メモ** : コンピュータを手動でシャットダウンしないでください。**終了** をクリックし、コンピュータを完全に再起動させます。

- 6 プロンプトが表示されたら、**はい** をクリックします。
コンピュータが再起動します。コンピュータは初期の稼働状態に復元されるため、エンドユーザーライセンス契約のようにいちばん初めにコンピュータのスイッチを入れたときと同じ画面が表示されます。
- 7 **次へ** をクリックします。
システムの復元 画面が表示され、コンピュータが再起動します。
- 8 コンピュータが再起動したら、**OK** をクリックします。

Dell PC リストアの削除



注意: Dell PC リストアをハードドライブから永久に削除すると、PC リストアユーティリティがお使いのコンピュータから削除されます。Dell PC リストアを取り除いた後は、それを使ってお使いのコンピュータのオペレーティングシステムを復元することはできません。

PC リストアを使用すると、オペレーティングシステムを、コンピュータをご購入になった時の状態に戻すことができます。ハードドライブのスペースを増やすためであっても、お使いのコンピュータから PC リストアを削除しないことをお勧めします。ハードドライブから PC リストアを削除すると、今後、PC リストアを呼び出すことができず、PC リストアを使用してコンピュータのオペレーティングシステムを、出荷時の状態に戻すことができなくなります。

- 1 コンピュータにローカルのシステム管理者としてログオンします。
- 2 Windows エクスプローラで、**c:\%dell%\utilities\DSR** に移動します。
- 3 **DSRIRRemv2.exe** ファイルをダブルクリックします。



メモ: ローカルのシステム管理者としてログオンしない場合は、ローカルのシステム管理者としてログオンするようメッセージが表示されます。**Quit** (終了) をクリックして、ローカルのシステム管理者としてログオンします。



メモ: お使いのコンピュータのハードドライブに PC リストア用パーティションがない場合、パーティションが見つからないことを知らせるメッセージが表示されます。**Quit** (終了) をクリックしてください。削除するパーティションがありません。

- 4 **OK** をクリックして、ハードドライブの PC リストア用パーティションを取り除きます。
- 5 確認のメッセージが表示されたら、**はい** をクリックします。

PC リストア用パーティションが削除され、新しくできた使用可能ディスクスペースが、ハードドライブのフリースペースの割り当てに加えられます。

- 6 Windows エクスプローラで **ローカルディスク (C)** をクリックし、**プロパティ** をクリックして、**空き領域** に追加されたスペースが加えられていることを確認します。
- 7 **終了** をクリックして、**PC リストアの削除** ウィンドウを閉じます。
- 8 コンピュータを再起動します。

部品の取り外しと取り付け

作業を開始する前に

本章では、コンピュータのコンポーネントの取り付けおよび取り外しの手順について説明します。特に指示がない限り、それぞれの手順では以下の条件を満たしていることを前提とします。

- 69 ページの「コンピュータの電源を切る」と 70 ページの「コンピュータ内部の作業を始める前に」の手順をすでに完了していること。
- お使いの Dell™ 『製品情報ガイド』の安全に関する情報を読んでいること。
- 取り外しの手順と逆の手順を行うことで部品の取り付けが可能であること。

奨励するツール

このマニュアルで説明する操作には、以下のツールが必要です。

- 細めのマイナスドライバ
- プラスドライバ
- フラッシュ BIOS アップデートプログラム (support.jp.dell.com からダウンロード)

コンピュータの電源を切る



注意: データの損失を避けるため、コンピュータの電源を切る前に、開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。

- 1 オペレーティングシステムをシャットダウンします。
 - a 開いているすべてのプログラムやファイルを保存して終了します。次に、**スタート** ボタンをクリックし、**終了オプション** をクリックします。
 - b **コンピュータの電源を切る** ウィンドウで、**電源を切る** をクリックします。
オペレーティングシステムのシャットダウンプロセスが終了した後に、コンピュータの電源が切れます。
- 2 コンピュータおよび接続されているデバイスの電源が切れていることを確認します。オペレーティングシステムをシャットダウンしたときに、コンピュータおよび接続デバイスの電源が自動的に切れなかった場合は、電源ボタンを 4 秒間押し続けます。

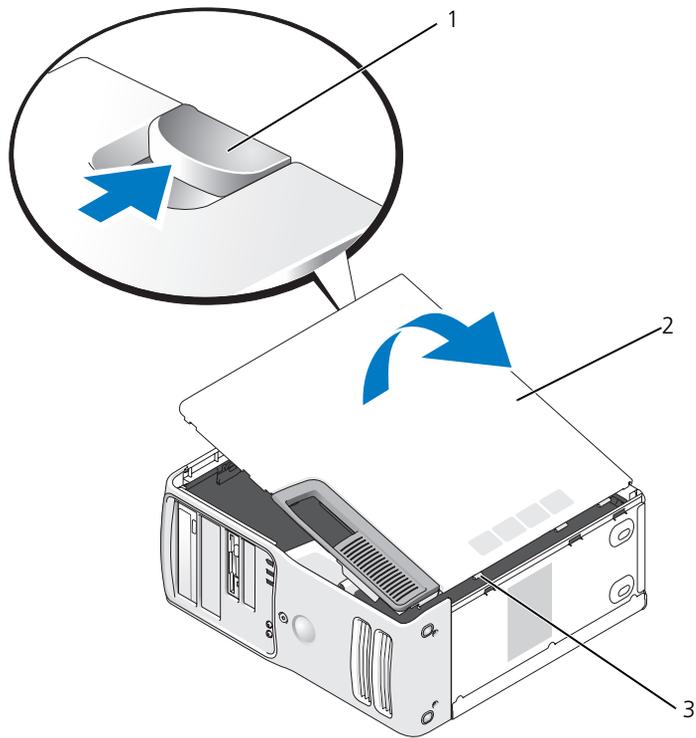
コンピュータ内部の作業を始める前に

コンピュータの損傷を防ぎ、ご自身の身体の安全を守るために、以下の点にご注意ください。

-  **警告**：この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。
-  **警告**：部品やカードの取り扱いには十分注意してください。カード上の部品や接続部分には触れないでください。カードを持つ際は縁を持つか、金属製の取り付けブラケットの部分を持ってください。プロセッサのようなコンポーネントは、ピンの部分ではなく端を持つようにしてください。
-  **警告**：通常の操作でもプロセッサヒートシンクアセンブリ、電源ユニット、グラフィックスカード、他のコンポーネントは非常に高温になる場合があるので、コンピュータの内部で作業する場合は、注意してください。これらのコンポーネントに触れる前には十分に時間をかけ、これらの温度が下がっていることを確認してください。
-  **注意**：コンピュータシステムの修理は、資格を持っているサービス技術者のみが行ってください。デルで認められていない修理による損傷は、保証の対象となりません。
-  **注意**：ケーブルを外すときは、コネクタまたはストレインリリーフ部分を持ち、ケーブル自身を引っ張らないでください。ロック付きのコネクタがあるケーブルもあります。このタイプのケーブルを抜く場合、ロックタブを押し入れてからケーブルを抜きます。コネクタを抜く際は、コネクタのピンを曲げないようにまっすぐに引き抜きます。また、ケーブルを接続する前に、両方のコネクタが正しい向きに揃っているか確認します。
-  **注意**：コンピュータの損傷を防ぐため、コンピュータ内部の作業を始める前に、次の手順を実行します。
 - 1 コンピュータの電源を切ります（69 ページの「コンピュータの電源を切る」を参照）。
-  **注意**：ネットワークケーブルを外すには、まずネットワークケーブルをコンピュータから外し、次に壁のネットワークジャックから外します。
 - 2 コンピュータからすべての電話線または通信回線を取り外します。
 - 3 コンピュータと接続されているすべてのデバイスをコンセントから取り外し、電源ボタンを押してシステム基板の静電気を除去します。
-  **注意**：コンピュータ内部の部品に触れる前に、コンピュータ背面の金属部など塗装されていない金属面に触れて、身体の静電気を除去してください。作業中も、定期的に塗装されていない金属面に触れて、内蔵コンポーネントを損傷する恐れのある静電気を除去してください。

コンピュータカバーの取り外し

-  **警告**：この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。
-  **警告**：感電防止のため、カバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。
-  **注意**：コンピュータ内部の部品に触れる前に、コンピュータ背面の金属部など塗装されていない金属面に触れて、身体の静電気を除去してください。作業中も、定期的に塗装されていない金属面に触れて、内蔵コンポーネントを損傷する恐れのある静電気を除去してください。
 - 1 69 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って操作してください。
 - 2 セキュリティケーブルを取り付けている場合は、ケーブルをセキュリティケーブルスロットから取り外します。
-  **注意**：取り外したカバーを置くことができるように、作業台の上に 30 cm 以上の十分なスペースがあることを確認します。
-  **注意**：コンピュータやコンピュータを置いている台の表面を傷付けないように、必ず保護されている水平な台上で作業します。
 - 3 コンピュータカバーを上向きにして、コンピュータを横に倒します。
 - 4 上部パネルにあるカバーのリリースラッチを引っ張ります。

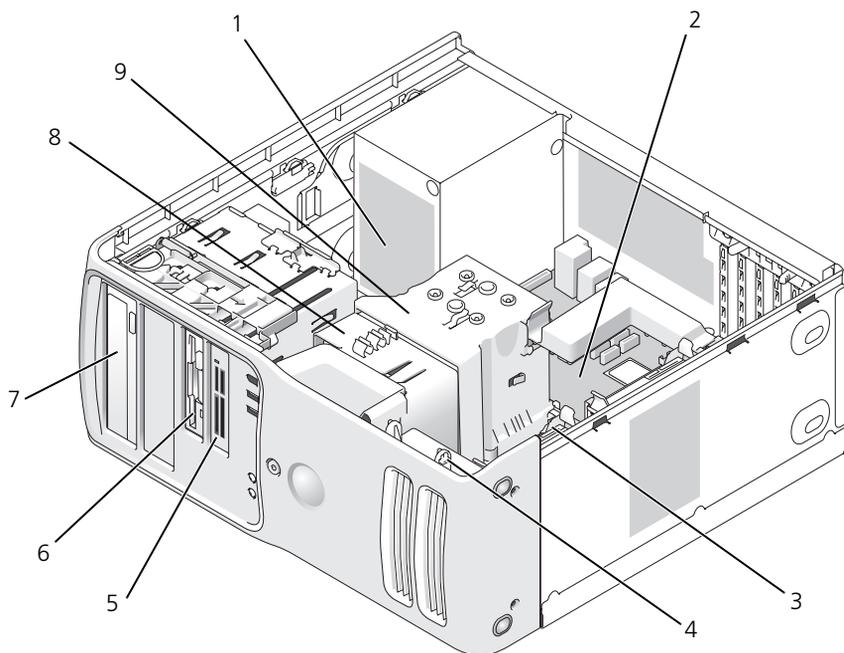


1 カバーリリーススラッチ 2 コンピュータカバー 3 ヒンジタブ (3)

- 5 コンピュータの下端にある 3 つのヒンジタブを確認します。
- 6 コンピュータカバーの側面をつかみ、カバーを上に取り上げます。
- 7 カバーを持ち上げて外し、安全な場所に置いておきます。

コンピュータ内部

 警告：この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。



1 電源ユニット

4 カードファン

7 CD または DVD ドライブ

2 システム基板

5 メディアカードリーダー
(オプション)

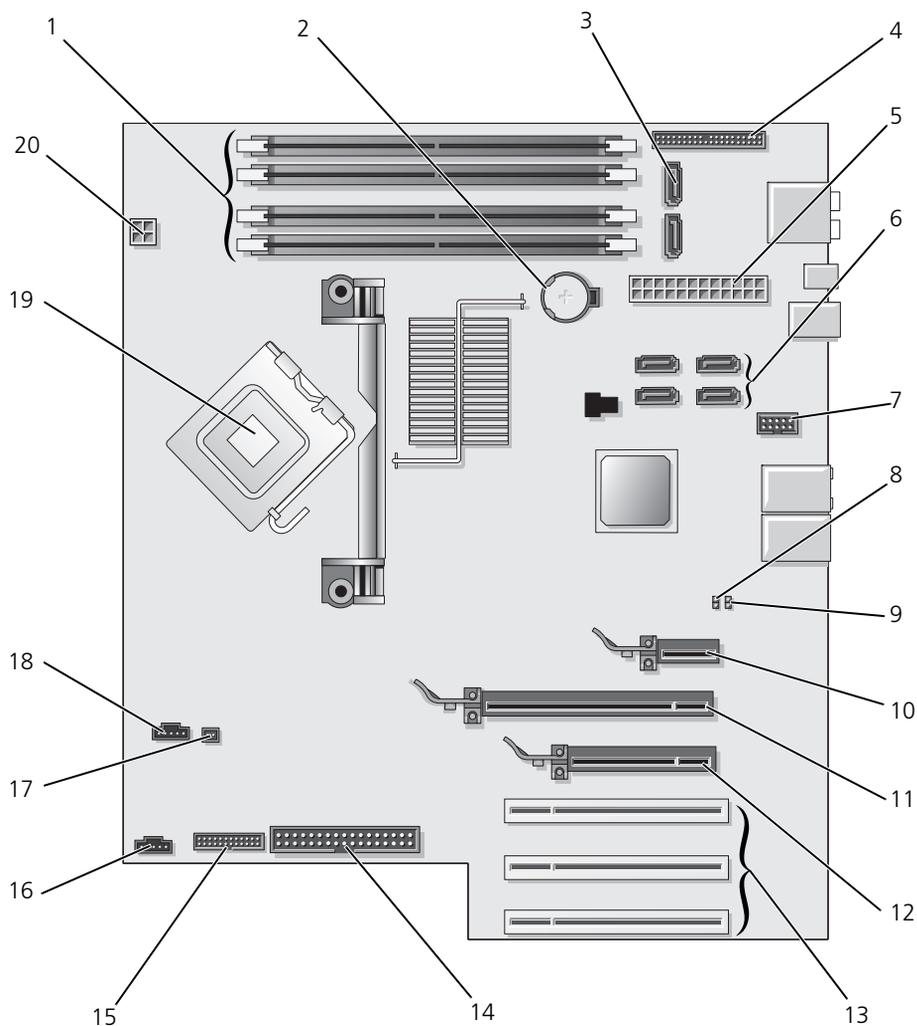
8 プロセッサファン

3 ハードドライブ

6 フロッピードライブ
(オプション)

9 プロセッサエアフローカバー
およびプロセッサ

システム基盤コンポーネント



- | | | | | | |
|----|----------------------------|----|-----------------------------|----|---|
| 1 | メモリモジュールコネクタ
(1、2、3、4) | 2 | バッテリーソケット
(BATTERY) | 3 | SATA コネクタ (SATA0、
SATA1) |
| 4 | 前面パネル I/O コネクタ | 5 | 主電源コネクタ | 6 | SATA コネクタ (4) (SATA2、
SATA3、SATA4、SATA5) |
| 7 | FlexBay USB コネクタ | 8 | CMOS クリアジャンパ
(CLR CMOS) | 9 | パスワードジャンパ
(CLR PSWD) |
| 10 | PCI Express x1 カード
コネクタ | 11 | PCI Express x16 カード
コネクタ | 12 | PCI Express x4 カード
コネクタ |

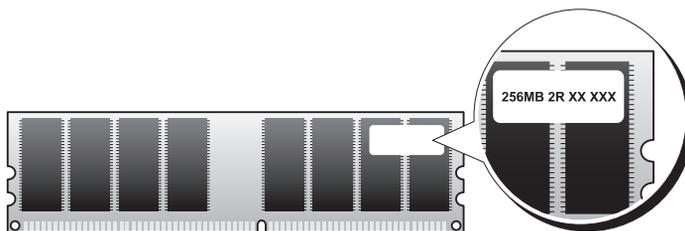
- | | | |
|-----------------------|---------------------------|---------------------|
| 13 PCI カードコネクタ | 14 フロッピードライブコネクタ (FLOPPY) | 15 PS/2 およびシリアルコネクタ |
| 16 背面ファンコネクタ | 17 熱センサーコネクタ | 18 CPU ファンコネクタ |
| 19 プロセッサおよびヒートシンクコネクタ | 20 プロセッサの電源コネクタ | |

メモリ

システム基板にメモリモジュールを取り付けると、コンピュータのメモリ容量を増やすことができます。お使いのコンピュータでサポートされているメモリの種類については、111 ページの「メモリ」を参照してください。

メモリの概要

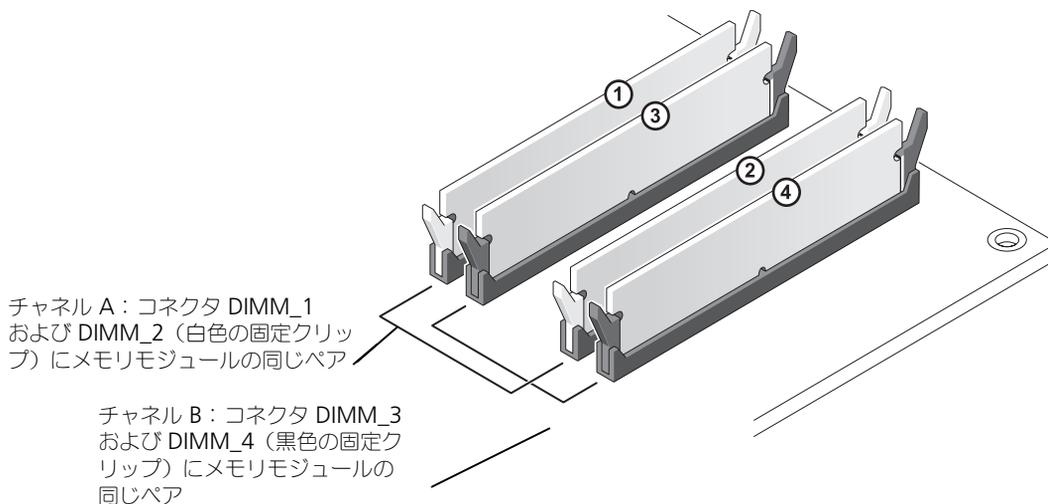
- メモリモジュールは、必ず同じメモリサイズ、同じ速度、および同じテクノロジーのものを 2 枚 1 組のペアで取り付ける必要があります。メモリモジュールをペアで取り付けていない場合、コンピュータは動作し続けますが、性能が少し衰えます。モジュールの右上角のラベルを参照して、モジュールの容量を確認します。



メモ: 必ず、システム基板に示されている順番でメモリモジュールを取り付けてください。

推奨されるメモリ構成は、以下のとおりです。

- 同じ容量を持つメモリモジュールのペアをコネクタ DIMM_1 および DIMM_2 に装着
または
- 同じ容量を持つメモリモジュールのペアをコネクタ DIMM_1 および DIMM_2 に装着し、コネクタ DIMM_3 および DIMM_4 に別のペアを装着
- DDR2 533 MHz (PC2-4300)、DDR2 667 MHz (PC2-5300)、および DDR2 800 MHz (PC2-6400) のメモリを混在したペアで取り付けると、モジュールは取り付けられたうちの最も遅いスピードで動作します。
- 別のコネクタにメモリモジュールを装着する前に、DIMM_1 コネクタ（プロセッサに最も近いコネクタ）に単一メモリモジュールを装着していることを確認してください。
- メモリモジュールを取り付ける間、必ず ECC と非 ECC メモリが混在しないようにします。



 **メモ**：デルから購入されたメモリは、お使いのコンピュータの保証に含まれます。

 **注意**：メモリのアップグレード中にコンピュータから元のメモリを取り外した場合、新しく装着するモジュールをデルからお買い上げになったとしても、元のメモリを新しいメモリとは別に保管してください。できるだけ、新しいメモリモジュールと元のメモリモジュールをペアにしないでください。ペアにすると、コンピュータが正しく起動しないことがあります。元のメモリモジュールは、DIMM_1 と DIMM_2 またはコネクタ DIMM_3 と DIMM_4 のどちらかにそれぞれペアで取り付ける必要があります。

4 GB 構成のメモリアドレス指定

コンピュータは 4 つの 1 GB DIMM を使用すると、最大で 4 GB のメモリをサポートします。Microsoft® Windows® XP などの現在のオペレーティングシステムの最大アドレススペースは 4 GB です。ただし、オペレーティングシステムが使用できるメモリの容量は 4 GB より少なくなります。コンピュータ内の特定のコンポーネントは、4 GB レンジ内にアドレススペースを必要とします。これらのコンポーネント用に予約されたアドレススペースは、コンピュータメモリによっては使用されません。

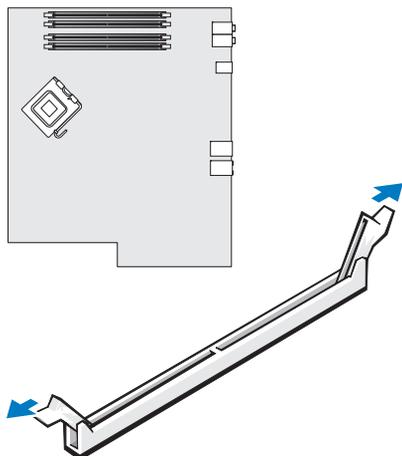
メモリの取り付け

 **警告**：この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。

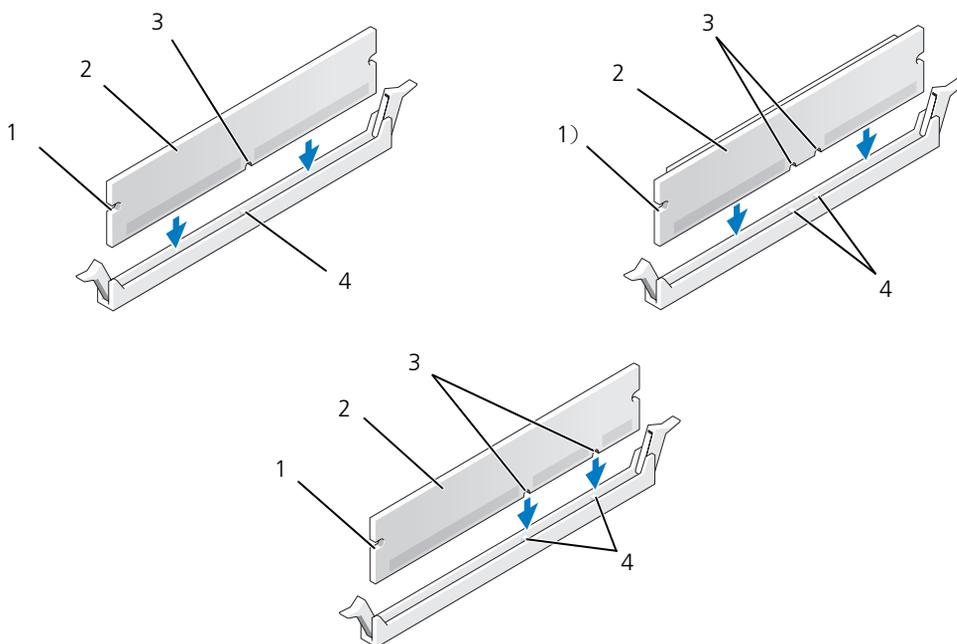
 **注意**：コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

- 1 69 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って操作してください。
- 2 コンピュータカバーを取り外します（70 ページの「コンピュータカバーの取り外し」を参照）。
- 3 コンピュータ内でシステム基板が下になるように、コンピュータを横に倒します。

4 メモリモジュールコネクタの両端にある固定クリップを押し開きます。



5 モジュールの底面の切り込みを、コネクタ内のクロスバーに合わせます。



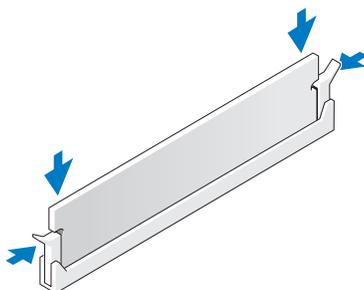
1 切り欠き (2)
4 クロスバー

2 メモリモジュール

3 切り込み

➡ **注意:** メモリモジュールへの損傷を防ぐため、モジュールの両端に均等に力を加えて、モジュールをコネクタに向けてまっすぐ下へ挿入します。

- 6 カチッと所定の位置に収まるまで、モジュールをコネクタに差し込みます。
モジュールが適切に挿入されると、固定クリップはモジュール両端の切り欠きにかちッと収まります。



- 7 コンピュータカバーを取り付けます。

➡ **注意:** ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

- 8 コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。
- 9 **マイコンピュータ** アイコンを右クリックして、**プロパティ** をクリックします。
- 10 **全般** タブをクリックします。
- 11 表示されているメモリ (RAM) の容量を確認して、メモリが正しく装着されているか確認します。

メモリの取り外し

⚠ **警告:** この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。

➡ **注意:** コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

- 1 69 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って操作してください。
- 2 コンピュータカバーを取り外します (70 ページの「コンピュータカバーの取り外し」を参照)。
- 3 メモリモジュールコネクタの両端にある固定クリップを押し開きます。
- 4 モジュールをしっかりとつかんで、引き上げます。
モジュールが取り外しにくい場合、モジュールを前後に軽く動かして緩め、コネクタから取り外します。

カード



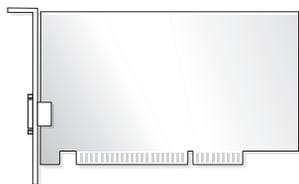
警告: この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。

注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

お使いの Dell™ コンピュータは、PCI および PCI Express カード用に以下のスロットを備えています。

- PCI カードスロットが 3 つ
- PCI Express x1 カードスロットが 1 つ
- PCI Express x16 カードスロットが 1 つ
- PCI Express x4 カードスロットが 1 つ

PCI カード



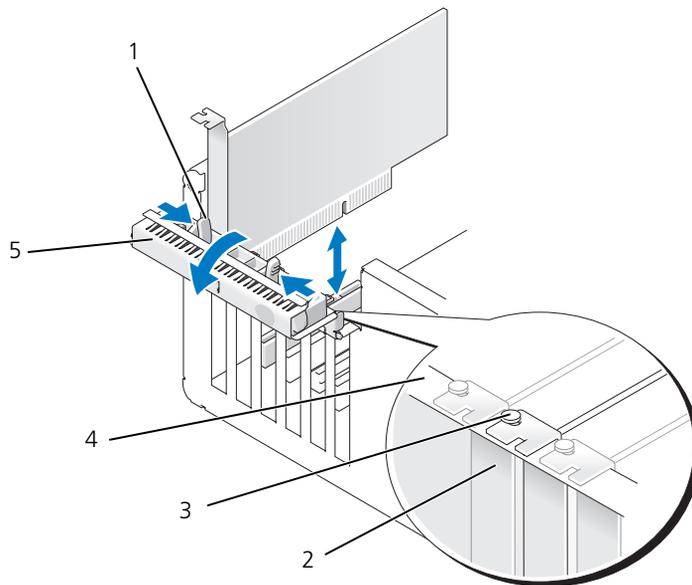
- カードを取り付けるか交換する場合、次の手順を実行します。
- カードを取り外したままにする場合、82 ページの「PCI カードの取り外し」を参照してください。
- カードを交換する場合、現在のカード用のドライバをオペレーティングシステムから削除します。
- PCI Express カードを取り付け、または交換する場合、83 ページの「PCI Express カードの取り付け」を参照してください。

PCI カードの取り付け



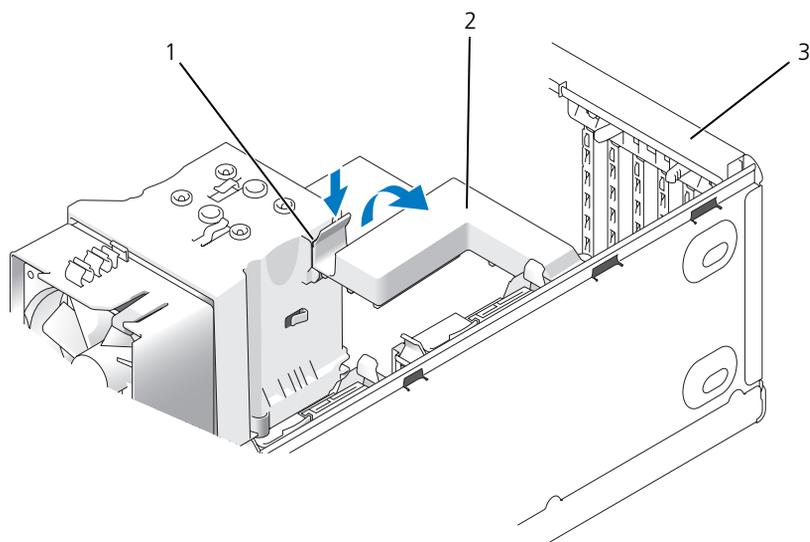
メモ: デルでは、Audigy II、および前面搭載の IEEE 1394 コネクタを含む IEEE 1394 PCI アドインカード用のオプションカスタマキットをご用意しています。

- 1 69 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って操作してください。
- 2 コンピュータカバーを取り外します (70 ページの「コンピュータカバーの取り外し」を参照)。



- | | | | | | |
|---|------------|---|-----------|---|----------|
| 1 | リリースタブ (2) | 2 | フィルラブラケット | 3 | 位置合わせガイド |
| 4 | 位置合わせバー | 5 | カード固定ドア | | |

3 カード固定ドアにある2つのリリースタブを内側から押して、ドアを回しながら開けます。ドアにはヒンジが付いているので、開いたままの状態になります。



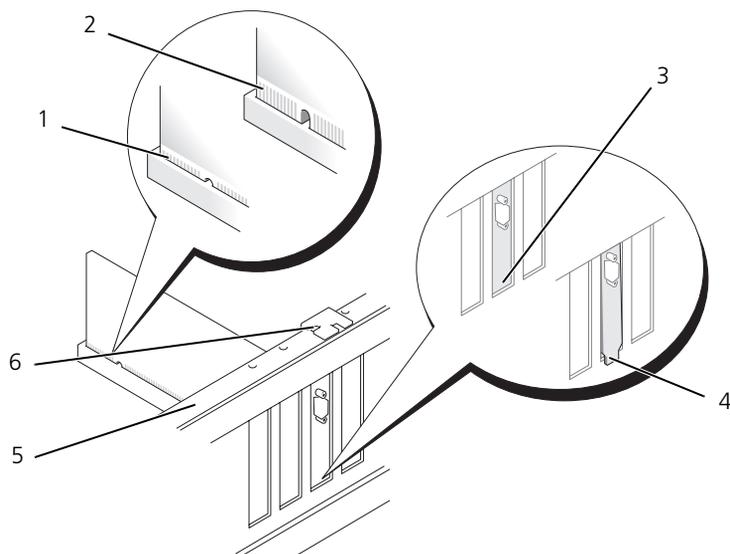
- | | | | | | |
|---|--------|---|---------|---|---------|
| 1 | リリースタブ | 2 | カード固定装置 | 3 | カード固定ドア |
|---|--------|---|---------|---|---------|

- 4 お使いのコンピュータに x16 カード固定用のカード固定装置が装備されている場合、リリースタブを軽く押し下げ、カード固定装置を上方向に回転させてカードスロットにアクセスできるようにします。
- 5 新しいカードを取り付ける場合、フィラーブラケットを取り外してカードスロット開口部を空にします。次に手順 7 に進みます。
- 6 コンピュータに既に取り付けられているカードを交換する場合、カードを取り外します。
必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。カードの上端の角をつかみ、コネクタから引き抜きます。
- 7 カードを取り付ける準備をします。
カードの設定、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。



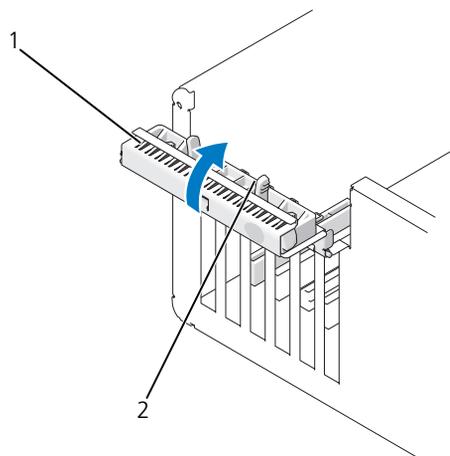
警告: ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

- 8 カードをコネクタに置き、しっかりと押し下げます。カードがスロットにしっかりと装着されているか確認します。



- | | | |
|----------------------|------------------|---------------|
| 1 完全に装着されたカード | 2 完全に装着されていないカード | 3 スロット内のブラケット |
| 4 スロットの外側にはみ出したブラケット | 5 位置合わせバー | 6 位置合わせガイド |

- 9 カード固定ドアを閉める前に、次のことを確認します。
 - すべてのカードの上部とフィラーブラケットの高さが、位置合わせバーと同じ高さ揃っている
 - カードの上部のノッチまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている



1 カード固定ドア

2 リリースタブ (2)

10 カード固定ドアを所定の位置にカチッと閉め、カードを固定します。

➡ **注意:** カードケーブルは、カードの上や後ろを通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

11 必要なすべてのケーブルをカードに接続します。

カードのケーブル接続については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

➡ **注意:** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークデバイスに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

12 すでにコンピュータに取り付けてあるカードを交換し、固定装置を取り外した場合は、その固定装置を取り付けなおします。

13 カード固定装置を取り付ける前に、次のことを確認します。

- すべてのカードの上部とフィラーブラケットの高さが、位置合わせバーと同じ高さに揃っている
- カードの上部のノッチまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている

14 カード固定装置を所定の位置にはめ込み、PCI カードを固定します。

15 コンピュータカバーを取り付け、コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。

16 サウンドカードを取り付けた場合、次の手順を実行します。

a セットアップユーティリティを起動し、**Integrated Audio Controller** を選択して、設定を **Off** に変更します。

b 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、背面パネルの内蔵マイクコネクタ、スピーカー/ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください。

- 17 アドインネットワークアダプタをインストールして、内蔵ネットワークアダプタを無効にする場合、次の手順を実行します。
 - a セットアップユーティリティを起動し、**Integrated NIC Controller** を選択して、設定を **Off** に変更します。
 - b ネットワークケーブルをアドインネットワークアダプタのコネクタに接続します。ネットワークケーブルを背面パネルの内蔵コネクタに接続しないでください。
- 18 カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

PCI カードの取り外し

- 1 69 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って操作してください。
- 2 コンピュータカバーを取り外します (70 ページの「コンピュータカバーの取り外し」を参照)。
- 3 カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィルラブラケットを取り付けます。 **メモ:** コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィルラブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィルラブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。
-  **注意:** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークデバイスに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。
- 4 コンピュータカバーを取り付け、コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。
- 5 カードのドライバをオペレーティングシステムから削除します。
- 6 サウンドカードを取り外した場合、次の手順を実行します。
 - a セットアップユーティリティを起動し、**Integrated Audio Controller** を選択して、設定を **On** に変更します。
 - b 外付けオーディオデバイスをコンピュータ背面パネルのオーディオコネクタに接続します。
- 7 アドインネットワークコネクタを取り外した場合、次の手順を実行します。
 - a セットアップユーティリティを起動し、**Integrated NIC Controller** を選択して、設定を **On** に変更します。
 - b ネットワークケーブルをコンピュータ背面パネルの内蔵コネクタに接続します。

PCI Express カード

お使いのコンピュータは、次のドライバをサポートします。

- PCI Express x1 カードが 1 つ
- PCI Express x16 カードが 1 つ
- PCI Express x4 カードが 1 つ

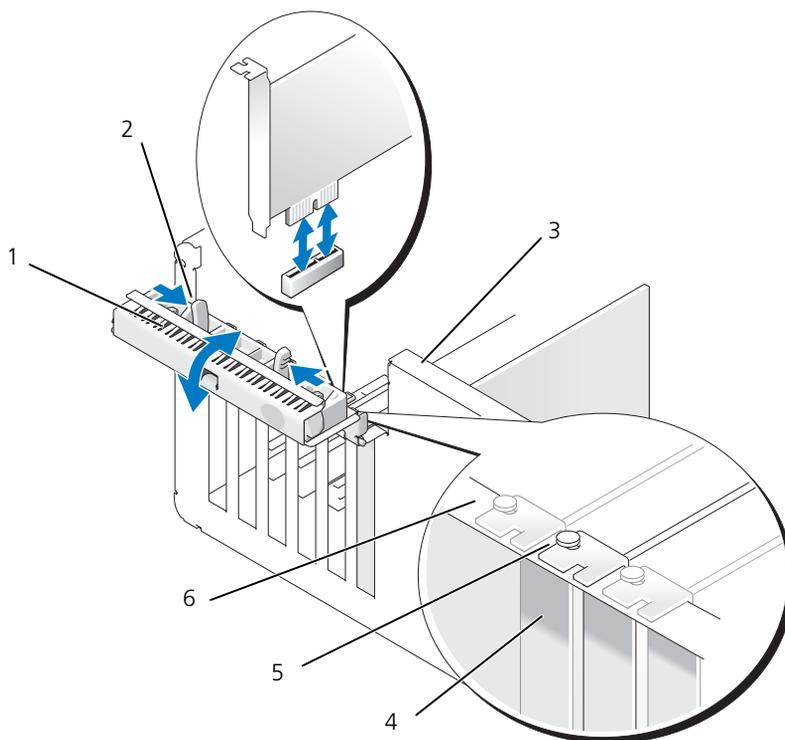
PCI Express カードを取り付けるか交換する場合、次の手順を実行します。カードを取り外したままにする場合、88 ページの「PCI Express カードの取り外し」を参照してください。

カードを交換する場合、現在のカード用のドライバをオペレーティングシステムから削除します。

PCI カードを取り付け、または交換する場合、78 ページの「PCI カードの取り付け」を参照してください。

PCI Express カードの取り付け

1 69 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って操作してください。



1 カード固定ドア

2 リリースタブ (2)

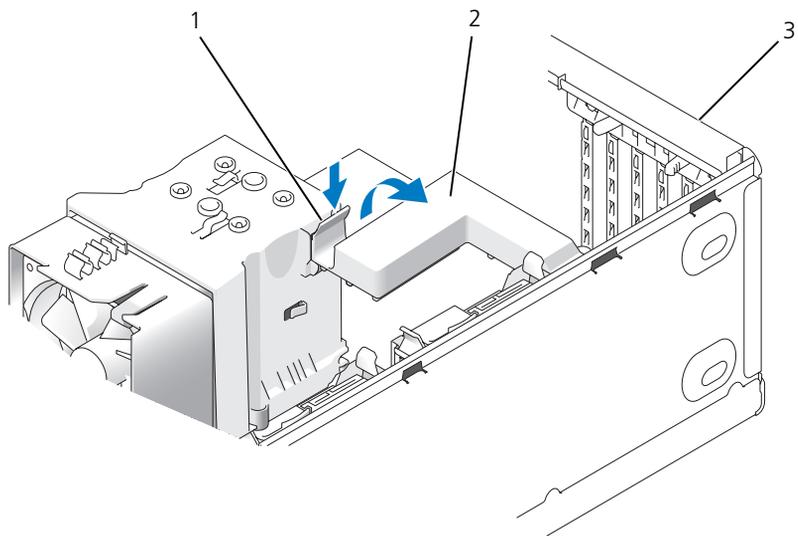
3 シャーシ壁面のレバー (コン
ピュータの機種によっては付
いていない場合があります)

4 フィラーブラケット

5 位置合わせガイド

6 位置合わせバー

- 2 コンピュータにレバーがある場合は、レバーをシャーシ壁面の上方向に回します。
- 3 カード固定ドアにある 2 つのリリースタブを互いの方向に押し、ドアを回しながら開けます。ドアは留められているため、開いたままの状態になります。
- 4 お使いのコンピュータに x16 カード固定用のカード固定装置が装備されている場合、リリースタブを軽く押し下げ、カード固定装置を上方向に回転させてカードスロットにアクセスできるようにします。



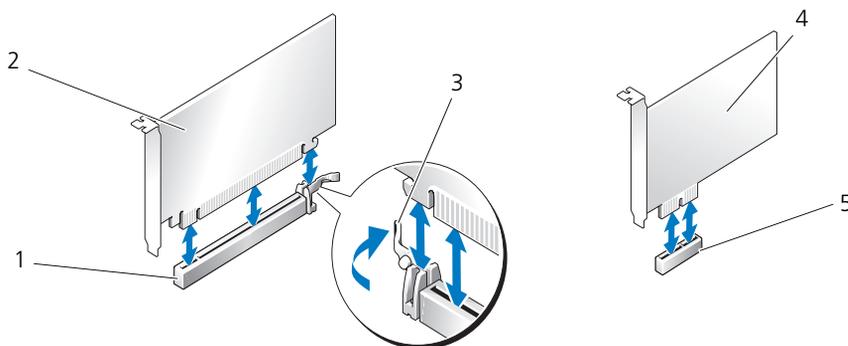
1 リリースタブ

2 カード固定装置

3 カード固定ドア

- 5 新しいカードを取り付ける場合、フィルターブラケットを取り外してカードスロット開口部を空にします。次に手順 7 に進みます。
- 6 コンピュータに既に取り付けられているカードを交換する場合は、既存のカードを取り外します。必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。カードに固定装置がある場合は、タブを押し、固定装置の上部を引き上げて取り外します。

- 7 固定タブを引き、カードの上端の角をつかみ、コネクタから引き抜きます。



- 1 PCI Express x16 カードスロット 2 PCI Express x16 カード 3 カードクリップタブ
4 PCI Express x1 カード 5 PCI Express x1 カードスロット

- 8 カードを取り付ける準備をします。

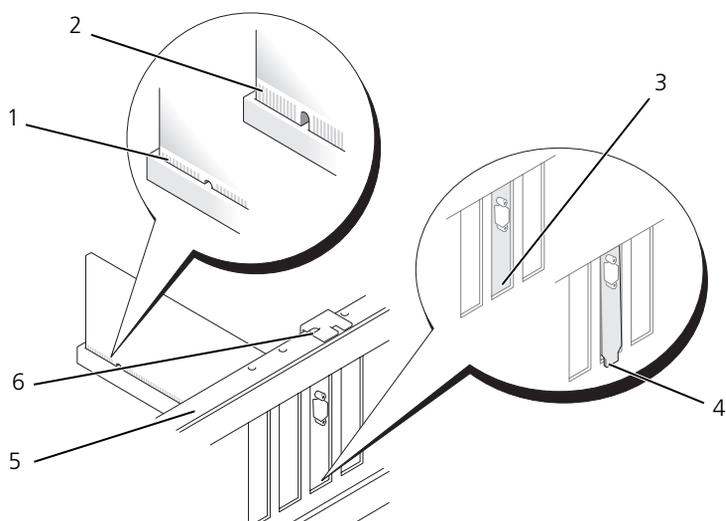
カードの設定、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

⚠ 警告: ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

- 9 カードを x16 カードコネクタに取り付ける場合は、固定スロットが固定タブに合うようにしてカードを置きます。

➡ 注意: カードを取り付けるときは、必ず固定タブを外してください。カードを正しく取り付けないと、システム基板が損傷する恐れがあります。

- 10 カードをコネクタに置き、しっかりと押し下げます。カードがスロットにしっかりと装着されているか確認します。

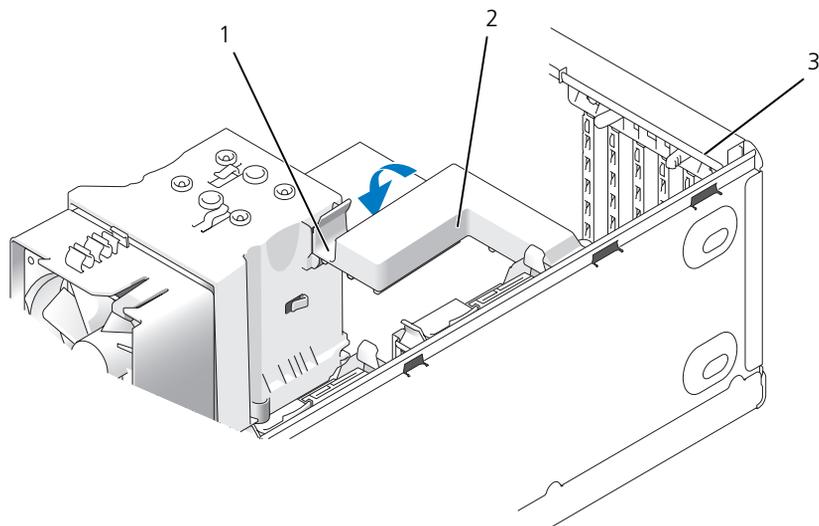


- | | | |
|----------------------|------------------|---------------|
| 1 完全に装着されたカード | 2 完全に装着されていないカード | 3 スロット内のブラケット |
| 4 スロットの外側にはみ出したブラケット | 5 位置合わせバー | 6 位置合わせガイド |

11 以下のことを確認します。

- すべてのカードの上部とフィラーブラケットの高さが、位置合わせバーと同じ高さ揃っている
- カードの上部のノッチまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている

12 カード固定装置を取り外した場合は、所定の位置にはめ込んで PCI-E カードを固定します。



1 リリースタブ

2 カード固定装置

3 カード固定ドア

➡ **注意:** カードケーブルは、カードの上や後ろを通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

➡ **注意:** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークデバイスに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

13 コンピュータカバーを取り付け、コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。

14 サウンドカードを取り付けた場合、次の手順を実行します。

a セットアップユーティリティを起動し、**Integrated Audio Controller** を選択して、設定を **Off** に変更します。

b 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、背面パネルの内蔵マイクコネクタ、スピーカー / ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください。

15 アドインネットワークアダプタをインストールしていて、内蔵ネットワークアダプタを無効にする場合、次の手順を実行します。

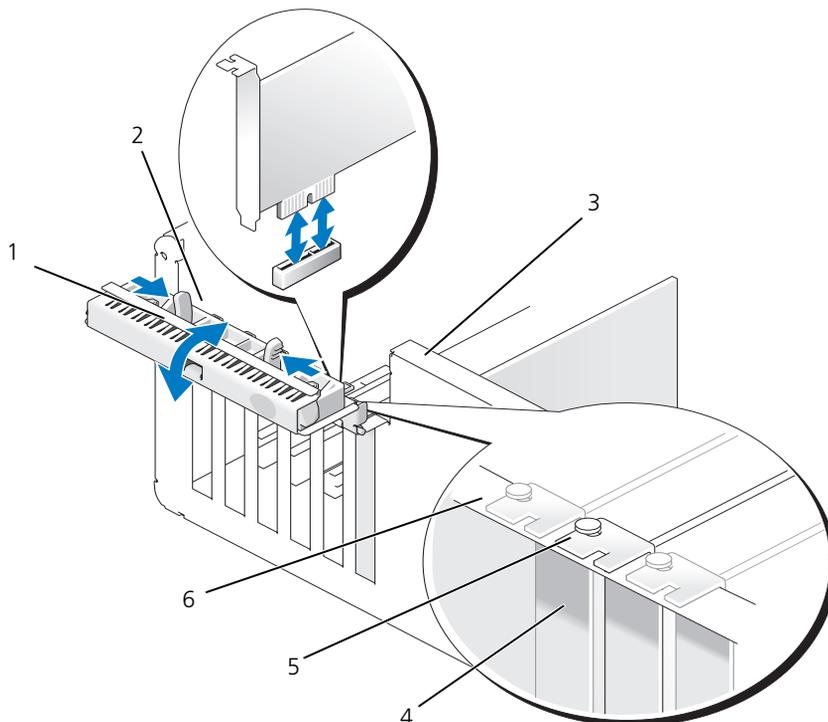
a セットアップユーティリティを起動し、**Integrated NIC Controller** を選択して、設定を **Off** に変更します。

b ネットワークケーブルをアドインネットワークアダプタのコネクタに接続します。ネットワークケーブルを背面パネルの内蔵コネクタに接続しないでください。

16 カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

PCI Express カードの取り外し

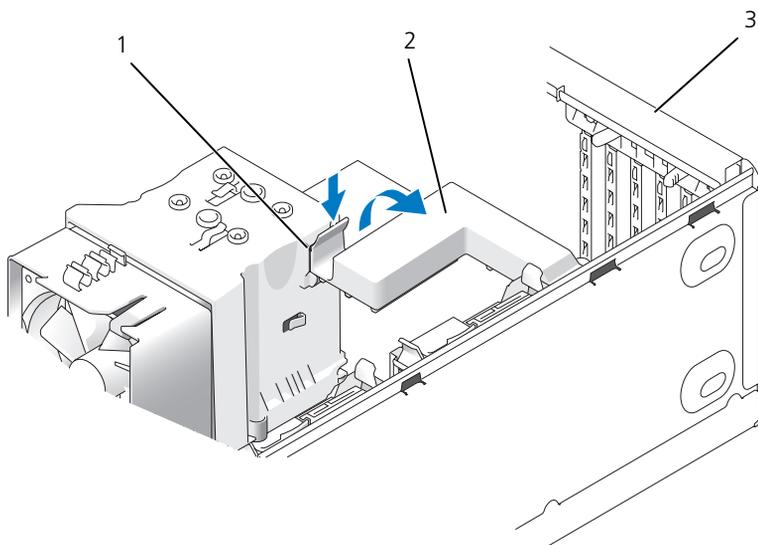
- 1 69 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って操作してください。
- 2 コンピュータカバーを取り外します (70 ページの「コンピュータカバーの取り外し」を参照)。



- | | | | | | |
|---|-----------|---|------------|---|--|
| 1 | カード固定ドア | 2 | リリースタブ (2) | 3 | シャーシ壁面のレバー (コンピュータの機種によっては付いていない場合があります) |
| 4 | フィラーブラケット | 5 | 位置合わせガイド | 6 | 位置合わせバー |

- 3 コンピュータにレバーがある場合は、レバーをシャーシ壁面の上方方向に回します。

- 4 カード固定ドアにある2つのリリースタブを互いの方向に押し、ドアを回しながら開けます。ドアにはヒンジが付いているので、開いたままの状態になります。

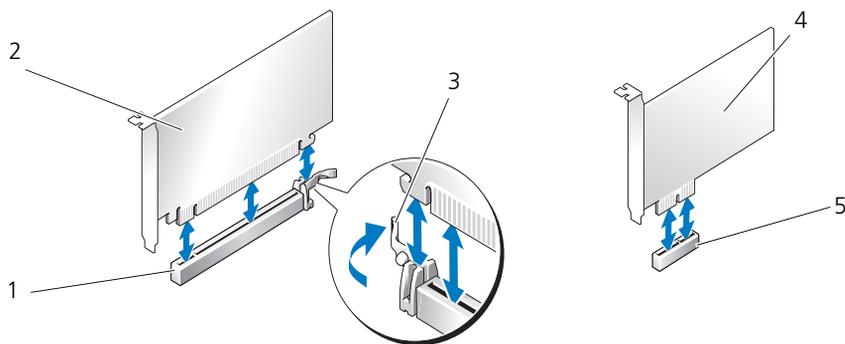


1 リリースタブ

2 カード固定装置

3 カード固定ドア

- 5 お使いのコンピュータに x16 カード固定用のカード固定装置が装備されている場合、リリースタブを軽く押し下げ、カード固定装置を上方向に回転させてカードスロットにアクセスできるようにします。



1 PCI Express x16 カードスロット

2 PCI Express x16 カード

3 カードクリップタブ

4 PCI Express x1 カード

5 PCI Express x1 カードスロット

 **注意:** カードを取り外すときは、必ず固定タブを外してください。カードを正しく取り外さないと、システム基板が損傷する恐れがあります。

6 カードスロットの固定タブを外して、カードを取り外します。

7 カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

 **メモ:** コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

8 カード固定装置をタブの位置に戻し、下に回転して所定の位置にはめ込みます。

9 カード固定ドアを所定の位置にカチッと閉め、カードを固定します。

 **メモ:** フルレンジ PCI-E カードを使用する場合で、コンピュータに「ピアノ」ブラケットがある場合は、そのブラケットを下方向に回す必要があります。

 **注意:** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークデバイスに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

10 コンピュータカバーを取り付け、コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。

11 カードのドライバをオペレーティングシステムから削除します。

12 サウンドカードを取り外した場合、次の手順を実行します。

a セットアップユーティリティを起動し、**Integrated Audio Controller** を選択して、設定を **On** に変更します。

b 外付けオーディオデバイスをコンピュータ背面パネルの内蔵オーディオコネクタに接続します。

13 アドインネットワークコネクタを取り外した場合、次の手順を実行します。

a セットアップユーティリティを起動し、**Integrated NIC Controller** を選択して、設定を **On** に変更します。

b ネットワークケーブルをコンピュータ背面パネルの内蔵コネクタに接続します。

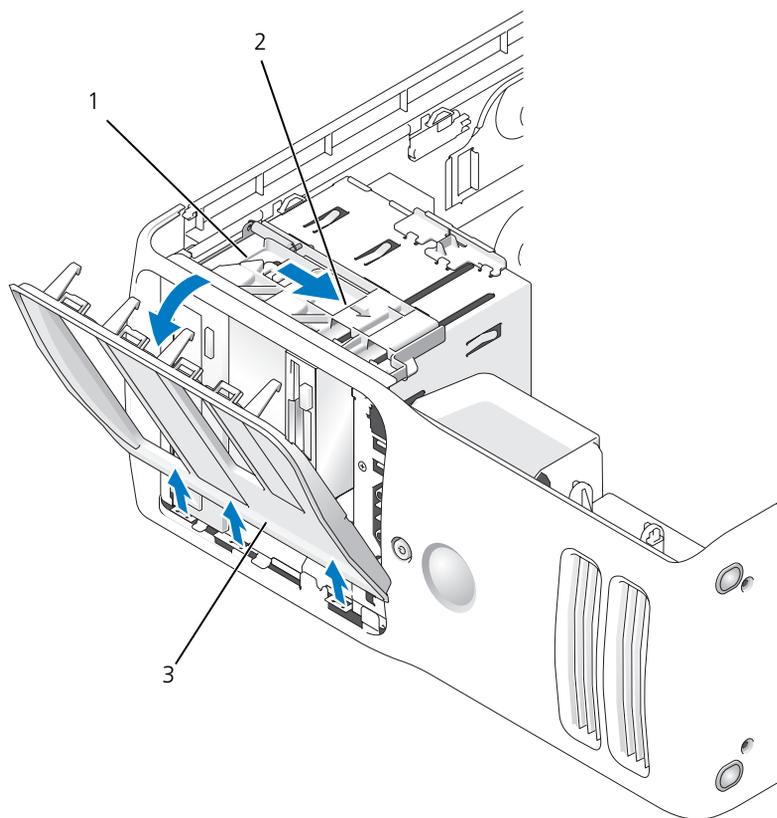
 **メモ:** カードのマニュアルの説明に従って、カードに必要なすべてのドライバをインストールします。

ドライブパネル

-  警告：この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。
-  警告：感電防止のため、カバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

ドライブパネルの取り外し

- 1 69 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って操作してください。
- 2 コンピュータカバーを取り外します（70 ページの「コンピュータカバーの取り外し」を参照）。



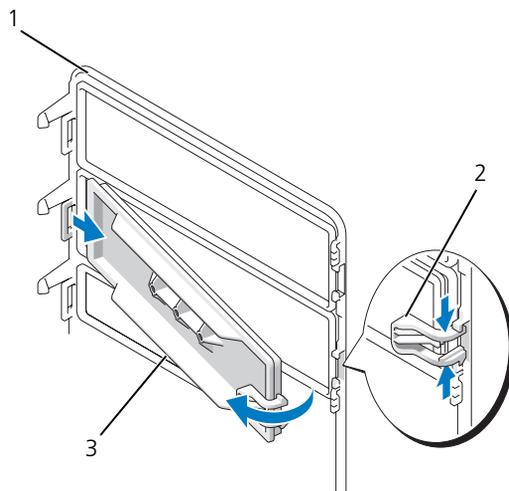
- 1 スライドプレート 2 スライドプレートレバー 3 ドライブパネル

- 3 スライドプレートのレバーを持ち、スライドプレートを右方向に引いて所定の位置に置きます。

 **メモ：**スライドプレートはドライブパネルの固定や取り外しに使用され、ドライブを固定します。内側からドライブパネルを押し、左方向に回転させてサイドヒンジからドライブパネルを取り外します。

- 4 ドライブパネルを安全な場所に置いておきます。

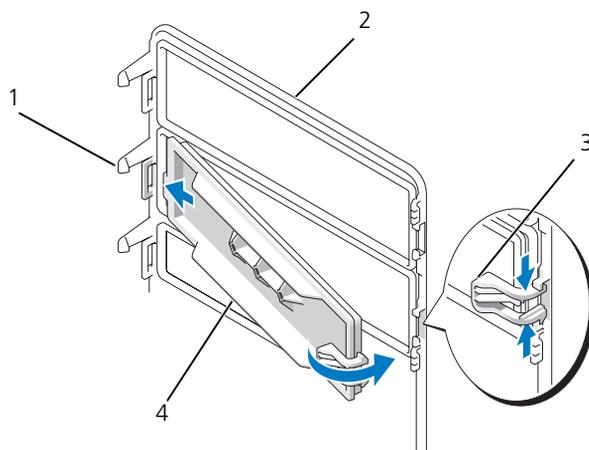
ドライブベイカバーの取り外し



1 ドライブパネル 2 ドライブベイカバータブ 3 ドライブベイカバー

- 1 ドライブパネルを横向きにし、ドライブパネルの右側のタブに掛かっている、ドライブベイカバータブの先端部を見つけます。
- 2 ドライブベイカバータブの内側の先端部を引っ張って、ドライブパネルから外します。
- 3 ドライブベイカバーを回してドライブパネルから外します。
- 4 ドライブベイカバーを安全な場所に置いておきます。

ドライブベイカバーの取り付け

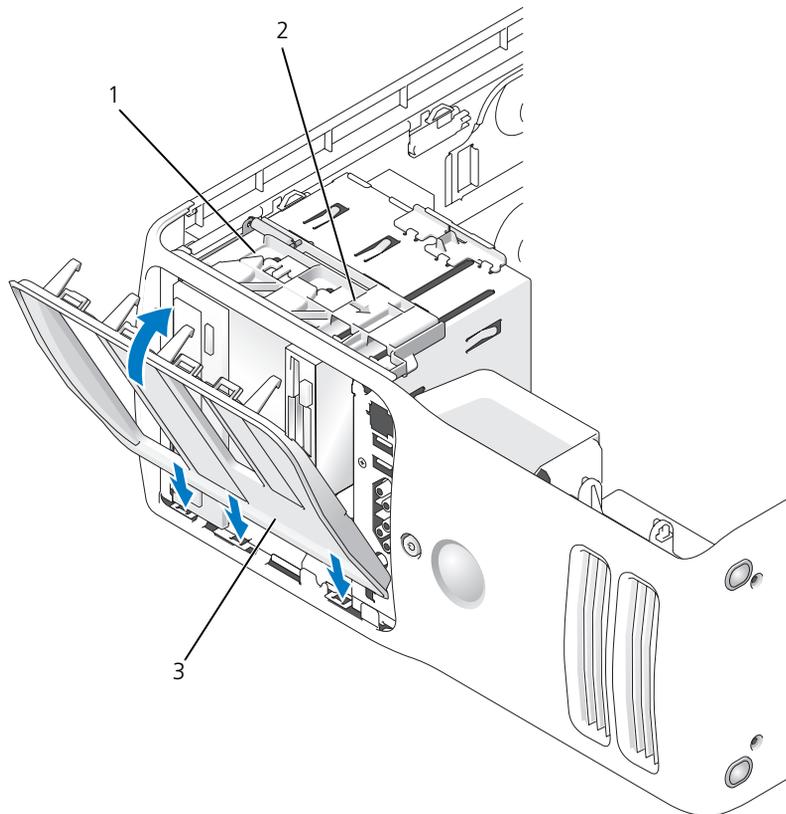


1 ドライブパネルセンタータブ 2 ドライブパネル 3 ドライブベイカバータブ
4 ドライブベイカバー

- 1 ドライブベイカバーの左側のタブを、ドライブパネルセンタータブの下にスライドします。
- 2 ドライブベイカバーを所定の位置まで動かし、ドライブベイカバータブをドライブパネルの対応するタブにカチッとはめ込みます。
- 3 ドライブベイカバーが、ドライブパネルに正しく取り付けられていることを確認してください。

ドライブパネルの取り付け

- 1 69 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って操作してください。



- 1 スライドプレート 2 スライドプレートレバー 3 ドライブパネル

- 2 ドライブパネルタブを、サイドドアのヒンジに合わせます。
- 3 スライドプレートレバーが所定の位置に固定され、ドライブパネルが前面パネルの所定の位置に固定されるまで、ドライブパネルをコンピュータの方向に回します。

ドライブ

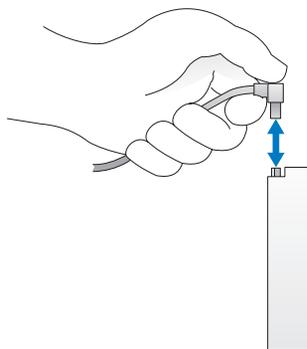
お使いのコンピュータは、次のドライブをサポートします。

- 2 台のハードドライブ（シリアル ATA）
- 2 台の FlexBay ドライブ（オプションのフロッピードライブおよびオプションメディアカードリーダーを装着可能）
- 2 台の CD または DVD ドライブ

一般的な取り付けガイドライン

「SATA0」から始まる「SATA0」および「SATA1」というラベルの付いたコネクタにハードドライブを接続します。CD/DVD ドライブは、「SATA4」から始まる「SATA4」または「SATA5」というラベルの付いたコネクタに接続します。

シリアル ATA ハードドライブおよび CD/DVD ドライブは、システム基板上の「SATA0」から「SATA5」のラベルのついたコネクタに接続します。



シリアル ATA ケーブルを接続または外す場合、それぞれの端にあるコネクタを持ち、ケーブルを外します。

ハードドライブ

警告: この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。

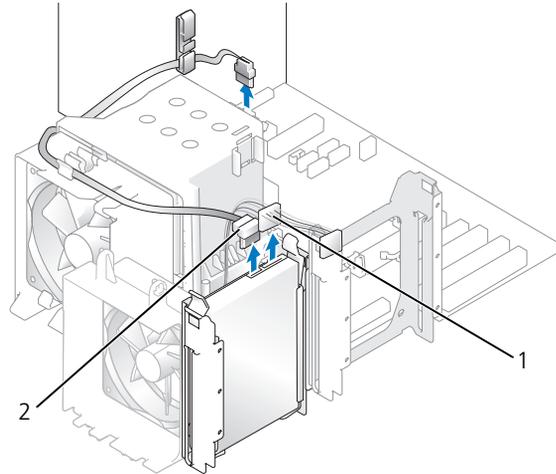
警告: 感電防止のため、カバーを開く前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

注意: ドライブへの損傷を避けるため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

データを保存しているハードドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。

ハードドライブの取り外し

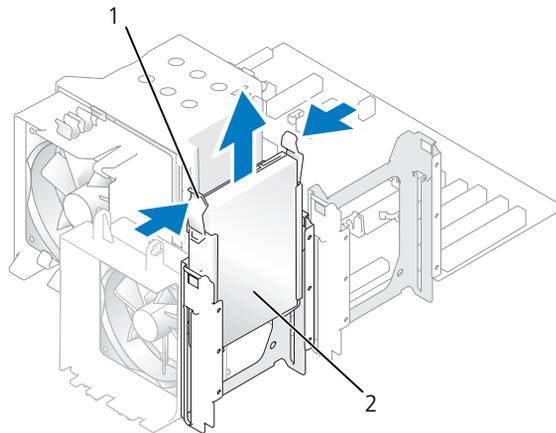
- 1 69 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って操作してください。
- 2 コンピュータカバーを取り外します (70 ページの「コンピュータカバーの取り外し」を参照)。
- 3 電源ケーブルとハードドライブケーブルをドライブから取り外します。



1 電源ケーブル

2 ハードドライブケーブル

- 4 ドライブの両側のタブを押し込み、ドライブを上へスライドして取り外します。



1 タブ (2)

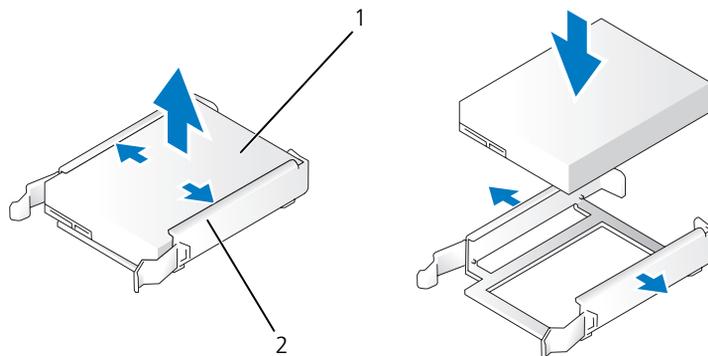
2 ハードドライブ

- 5 コンピュータカバーを取り付けます (110 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照)。

- 6 このドライブを取り外すことによってドライブ構成が変更される場合、必ず BIOS に変更を反映させてください。コンピュータを再起動したら、セットアップユーティリティを起動します（115 ページの「セットアップユーティリティ」を参照）。次に、BIOS の Drives セクションに移動し、SATA 0 through 5 で SATA ポートを適切な構成に設定します。

ハードドライブの取り付け

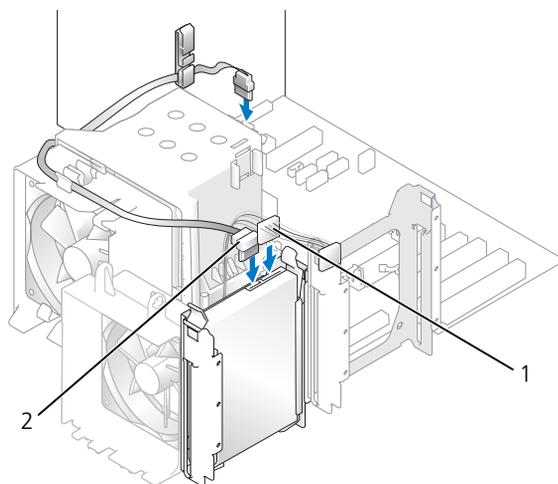
- 1 69 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って操作してください。
- 2 コンピュータカバーを取り外します（70 ページの「コンピュータカバーの取り外し」を参照）。
- 3 交換用のハードドライブを箱から出し、取り付けの準備をします。
- 4 ドライブに付属のマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに適した設定になっているか確認します。
- 5 交換用のハードドライブにハードドライブブラケットが取り付けられていない場合は、古いハードドライブからブラケットをカチッと取り外します。
- 6 ハードドライブブラケットを、交換用のハードドライブにカチッとはめ込みます。
- 7 ハードドライブが所定の位置にカチッと収まるまでスライドして、ハードドライブをコンピュータに取り付けます。



1 ハードドライブ

2 ハードドライブブラケット

- 8 電源ケーブルとハードドライブケーブルをハードドライブに接続します。



1 電源ケーブル

2 ハードドライブケーブル

9 すべてのコネクタが正しく接続され、しっかりと装着されているか確認します。

10 コンピュータカバーを取り付けます（110 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照）。

➡ **注意：**ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にケーブルをコンピュータに差し込みます。

11 コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

12 このドライブを交換することによってドライブ構成が変更される場合、必ず BIOS に変更を反映させてください。コンピュータを再起動したら、セットアップユーティリティを起動します（115 ページの「セットアップユーティリティ」を参照）。次に、BIOS の Drives セクションに移動し、SATA 0 through 5 で SATA ポートを適切な構成に設定します。

ハードドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ハードドライブに付属のマニュアルを参照してください。

2 台目のハードドライブの追加

⚠ **警告：**この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。

⚠ **警告：**感電防止のため、カバーを開く前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

➡ **注意：**ドライブへの損傷を避けるため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

1 ドライブのマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。

2 69 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って操作してください。

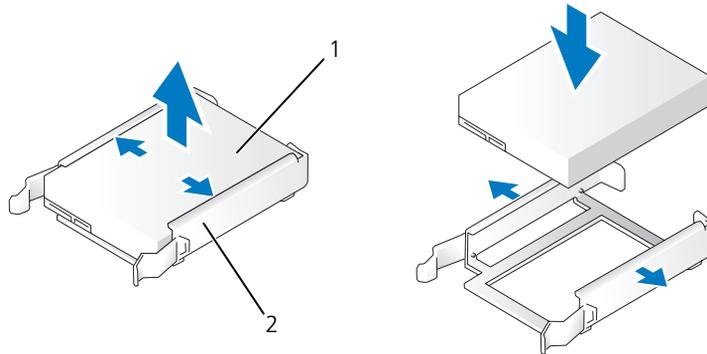
3 コンピュータカバーを取り外します（70 ページの「コンピュータカバーの取り外し」を参照）。

4 空いているドライブベイのハードドライブブラケットの両サイドにあるタブを内側に押しながら、ブラケットを上方向にスライドして取り外します。

5 ハードドライブブラケットを新しいハードドライブにカチッとはめ込みます。

➡ **注意:** 下段のハードドライブベイにドライブを取り付ける前に、ハードドライブベイの内側からハードドライブブラケットを取り外してください。

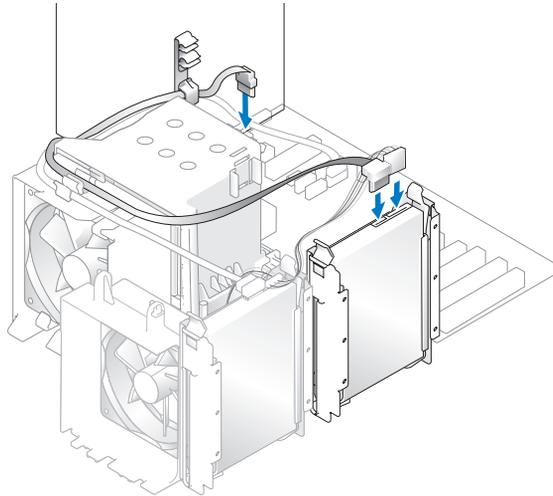
6 新しいハードドライブを、空いているベイにスライドしてカチッと取り付けます。



1 ハードドライブ

2 ハードドライブブラケット

7 電源ケーブルとハードドライブケーブルをドライブに接続します。



8 すべてのコネクタが正しく接続され、しっかりと装着されているか確認します。

9 コンピュータカバーを取り付けます (110 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照)。

➡ **注意:** ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

- 10 コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。
- 11 コンピュータを再起動したら、セットアップユーティリティを起動します（115 ページの「セットアップユーティリティ」を参照）。次に、BIOS の Drives セクションに移動し、SATA 0 through 5 で取り付けられたハードドライブの SATA ポートを **ON** に設定します。この操作によって、ドライブが有効になります。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

フロッピードライブ

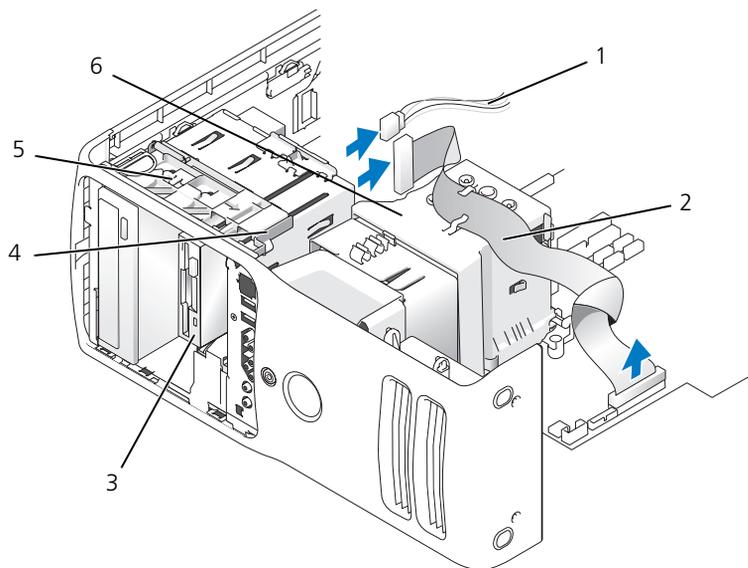
 **警告**：この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。

 **警告**：感電防止のため、カバーを開く前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

 **メモ**：フロッピードライブを取り付ける場合、100 ページの「フロッピードライブの取り付け」を参照してください。

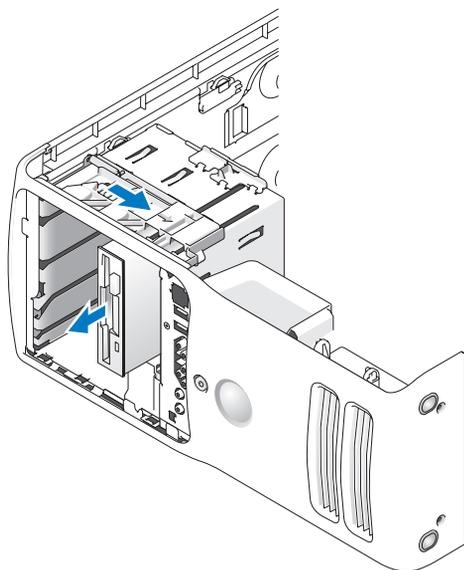
フロッピードライブの取り外し

- 1 69 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って操作してください。
- 2 コンピュータカバーを取り外します（70 ページの「コンピュータカバーの取り外し」を参照）。
- 3 ドライブパネルを取り外します（91 ページの「ドライブパネルの取り外し」を参照）。
- 4 電源ケーブルとフロッピードライブケーブルをフロッピードライブの背面から取り外します。
- 5 プロセッサエアフローカバー上のクリップからフロッピードライブケーブルを外します。フロッピードライブケーブルのもう一方の端をシステム基板から取り外します。フロッピードライブのケーブルをコンピュータから取り外します。



- | | | | | | |
|---|-------------|---|---------------|---|---------------|
| 1 | 電源ケーブル | 2 | フロッピードライブケーブル | 3 | フロッピードライブ |
| 4 | スライドプレートレバー | 5 | スライドプレート | 6 | プロセッサエアフローカバー |

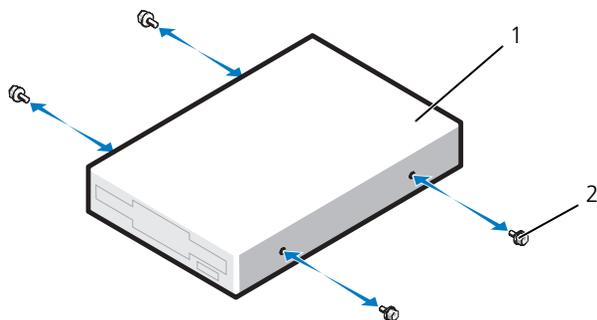
- スライドプレートを右方向に引いて所定の位置に置きます。
- フロッピードライブを、フロッピードライブベイからスライドして外します。



- ドライブを交換しない場合は、ドライブベイカバーを取り付けます（92 ページの「ドライブベイカバーの取り付け」を参照）。
- ドライブを交換しない場合は、必ず BIOS に変更を反映させてください。コンピュータを再起動したら、セットアップユーティリティを起動します（115 ページの「セットアップユーティリティ」を参照）。次に BIOS の Drives セクションに移動し、Diskette Drive の値を **none** に設定します。

フロッピードライブの取り付け

- 69 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って操作してください。
- コンピュータカバーを取り外します（70 ページの「コンピュータカバーの取り外し」を参照）。
- コンピュータ内でシステム基板が下になるように、コンピュータを横に倒します。
- ドライブパネルを取り外します（91 ページの「ドライブパネルの取り外し」を参照）。
- 新しいフロッピードライブを取り付ける場合は、ドライブベイカバーを取り外します（92 ページの「ドライブベイカバーの取り外し」を参照）。
- 新しいフロッピードライブを取り付ける場合は、ドライブベイカバーの内側から肩付きネジを取り外し、新しいドライブに取り付けます。92 ページの「ドライブベイカバーの取り外し」を参照してください。



1 フロッピードライブ 2 肩付きネジ (4)

- 7 スライドプレートが所定の位置に収まり、ドライブが所定の位置にはまるまで、フロッピードライブをフロッピードライブベイにスライドします。
- 8 電源ケーブルとフロッピードライブケーブルをフロッピードライブに接続します。
- 9 すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないように、ケーブルをまとめておきます。
- 10 コンピュータカバーを取り付けます (110 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照)。
- ➡ **注意:** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。
- 11 コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。
- 12 コンピュータを再起動したら、セットアップユーティリティを起動します (115 ページの「セットアップユーティリティ」を参照)。次に BIOS の Drives セクションに移動し、Diskette Drive の値を **Internal only** に設定します。
フロッピードライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、フロッピードライブに付属のマニュアルを参照してください。
- 13 セットアップユーティリティ (を参照) を起動し、適切な 115 ページの「セットアップユーティリティ」 **Diskette Drive** オプションを選択します。
- 14 Dell Diagnostics (診断) プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します (62 ページの「Dell Diagnostics (診断) プログラム」を参照)。

メディアカードリーダー

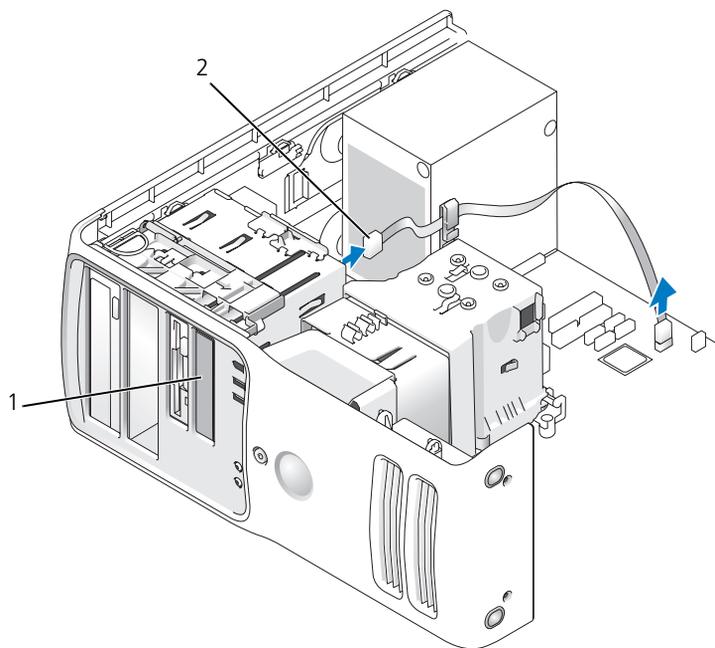
メディアカードリーダーの使い方の詳細に関しては、30 ページの「メディアカードリーダー（オプション）の使い方」を参照してください。

メディアカードリーダーの取り外し

警告：この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。

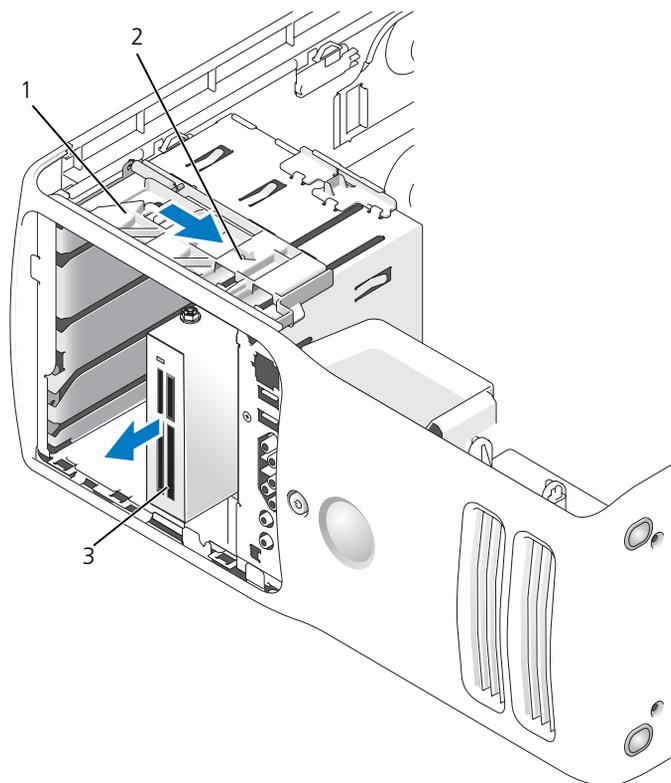
注意：コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を除去することができます。

- 1 69 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って操作してください。
- 2 コンピュータ内でシステム基板が下になるように、コンピュータを横に倒します。
- 3 コンピュータカバーを取り外します（70 ページの「コンピュータカバーの取り外し」を参照）。
- 4 ドライブパネルを取り外します（91 ページの「ドライブパネルの取り外し」を参照）。



- 1 メディアカードリーダー（コンピュータの機種によっては搭載されていません）
- 2 USB ケーブル

- 5 メディアカードリーダーの背面から USB ケーブルを取り外します。USB ケーブルのもう一方の端を、システム基板の USB コネクタ（73 ページの「システム基板コンポーネント」を参照）から取り外します。すべてのクリップからケーブルを取り外し、コンピュータから取り出します。



- 1 スライドプレート 2 スライドプレートレバー 3 メディアカードリーダー（コンピュータの機種によっては搭載されていません）

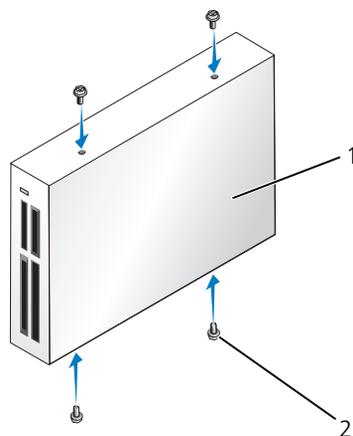
- 6 スライドプレートを右方向に引いて所定の位置に置きます。ドライブを、コンピュータの前面からスライドして外します。
- 7 ドライブベイカバーを取り付けます（92 ページの「ドライブベイカバーの取り付け」を参照）。
- 8 ドライブパネルを取り付けます（93 ページの「ドライブパネルの取り付け」を参照）。
- 9 コンピュータカバーを取り付けます（110 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照）。
- 10 システムの電源を投入し、セットアップユーティリティを起動します（115 ページの「セットアップユーティリティ」を参照）。USB for FlexBay の値を **OFF** に設定します。

メディアカードリーダーの取り付け

 **警告**：この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。

 **注意**：コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を除去することができます。

- 1 69 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って操作してください。
- 2 コンピュータ内でシステム基板が下になるように、コンピュータを横に倒します。
- 3 コンピュータカバーを取り外します（70 ページの「コンピュータカバーの取り外し」を参照）。
- 4 ドライブパネルを取り外します（91 ページの「ドライブパネルの取り外し」を参照）。
- 5 ドライブベイカバーを取り付けます（92 ページの「ドライブベイカバーの取り外し」を参照）。
- 6 メディアカードリーダーの包装を取り除きます。
- 7 ドライブベイカバーの内側から肩付きネジを取り外し、新しいドライブに取り付けます。

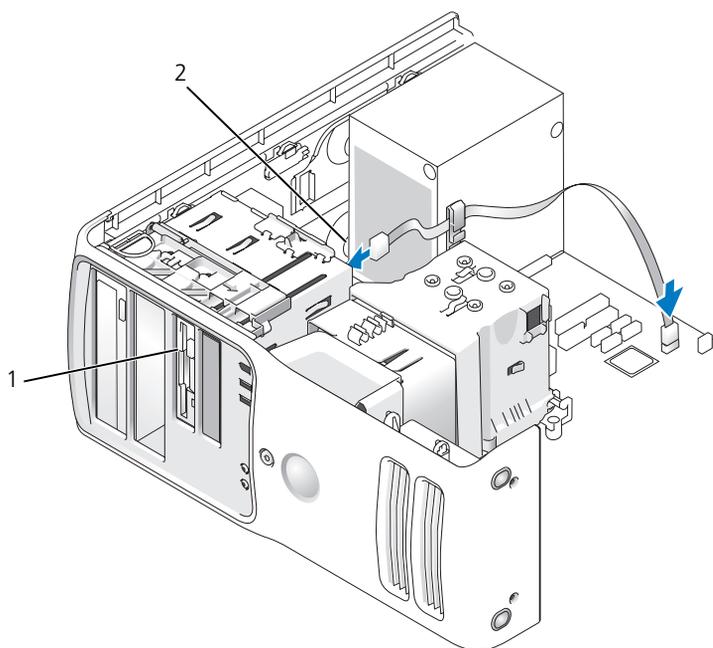


- 1 メディアカードリーダー 2 ネジ (4)

- 8 ドライブが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブを慎重にスライドさせます。

 **メモ**：USB ケーブルを接続する前に、メディアカードリーダーが取り付けられていることを確認します。

- 9 USB ケーブルを、メディアカードリーダーの背面と、システム基板の USB コネクタに接続します (73 ページの「システム基盤コンポーネント」を参照)。



1 メディアカードリーダー (オプション) 2 USB ケーブル

- 10 USB ケーブルをケーブル配線用クリップに通します。
- 11 コンピュータカバーを取り付けます (110 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照)。
- 12 システムの電源を投入し、セットアップユーティリティを起動します (115 ページの「セットアップユーティリティ」)。USB for FlexBay の値を **ON** に設定します。

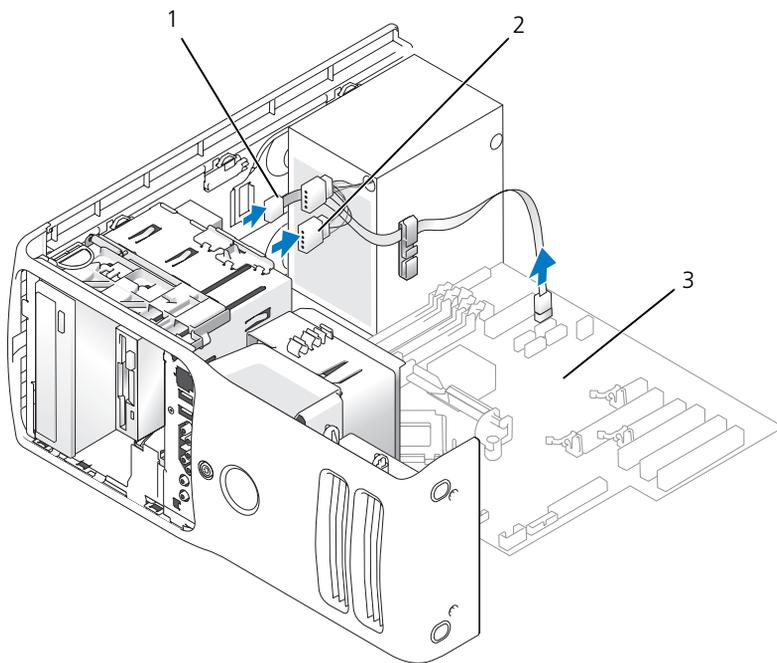
CD/DVD ドライブ

 警告：この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。

 警告：感電防止のため、カバーを開く前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

CD/DVD ドライブの取り外し

- 1 69 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って操作してください。
- 2 コンピュータカバーを取り外します（70 ページの「コンピュータカバーの取り外し」を参照）。
- 3 ドライブパネルを取り外します（91 ページの「ドライブパネルの取り外し」を参照）。
- 4 CD/DVD ドライブの背面から電源ケーブル、およびドライブの背面とシステム基板から CD/DVD ドライブケーブルを外します。

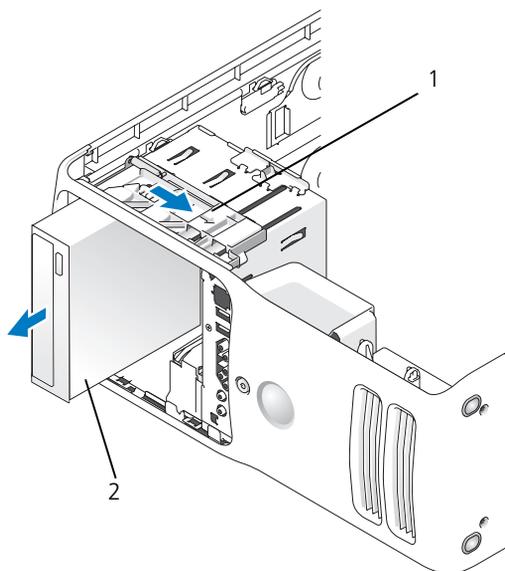


1 CD/DVD ドライブケーブル

2 電源ケーブル

3 システム基板

- 5 ドライブ取り出し機構を右方向にスライドして肩付きネジを外し、ドライブをスライドしてドライブベイから取り外します。

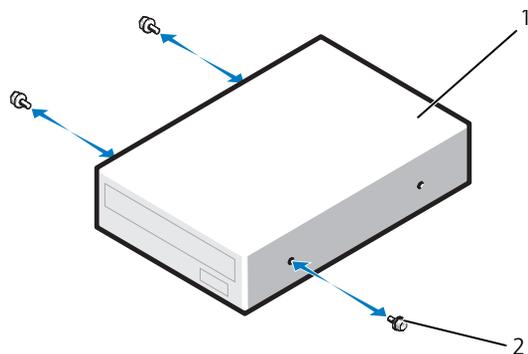


1 スライドプレート 2 CDドライブ

- 6 ドライブを交換しない場合は、ドライブベिकाバーを取り付けます（92 ページの「ドライブベिकाバーの取り付け」を参照）。
- 7 ドライブパネルを取り付けます（93 ページの「ドライブパネルの取り付け」を参照）。
- 8 コンピュータカバーを取り付けます（110 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照）。
- 9 このドライブを取り外して交換しない場合は、必ず BIOS でドライブを無効にしてください。コンピュータを再起動したら、セットアップユーティリティを起動します（115 ページの「セットアップユーティリティ」を参照）。次に、BIOS の Drives セクションに移動し、SATA 0 through 5 で SATA ポートを適切な構成に設定します。

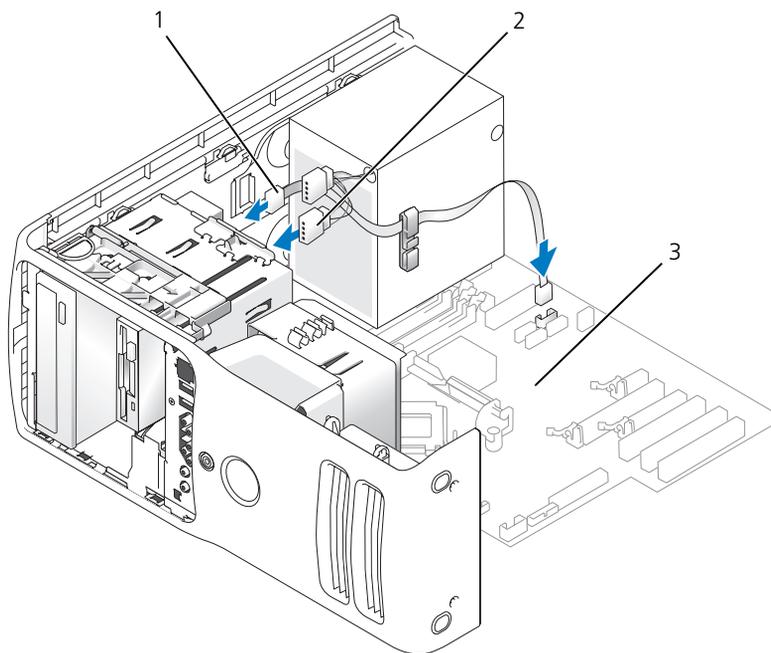
CD/DVD ドライブの取り付け

- 1 69 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って操作してください。
- 2 コンピュータカバーを取り外します（70 ページの「コンピュータカバーの取り外し」を参照）。
- 3 新しいドライブを取り付ける場合、ドライブを梱包から出し、取り付けの準備をします。
ドライブに付属のマニュアルを参照して、ドライブの設定がお使いのコンピュータに合っているか確認します。
- 4 新しいドライブを取り付ける場合は、ドライブベिकाバーを取り外します（92 ページの「ドライブベिकाバーの取り外し」を参照）。
- 5 ドライブベिकाバーの内側から肩付きネジを取り外し、新しいドライブに取り付けます。



- 1 CD/DVD ドライブ 2 肩付きネジ (3)

- 6 ドライブをドライブベイにスライドし、所定の位置にカチッと固定します。
7 電源ケーブルをドライブに接続し、CD/DVD ケーブルをドライブとシステム基板に接続します。



- 1 CD/DVD ケーブル 2 電源ケーブル 3 システム基板

- 8 すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないように、ケーブルをまとめておきます。
9 ドライブパネルを取り付けます (93 ページの「ドライブパネルの取り付け」を参照)。

- 10 コンピュータカバーを取り付けます（110 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照）。
-  **注意：**ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。
- 11 コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。
- 12 コンピュータを再起動したら、セットアップユーティリティを起動します（115 ページの「セットアップユーティリティ」を参照）。次に、BIOS の Drives セクションに移動し、SATA 0 through 5 でこのドライブの SATA ポートを有効にします。
ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。
- 13 Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します（62 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照）。

バッテリー

バッテリーの取り付け

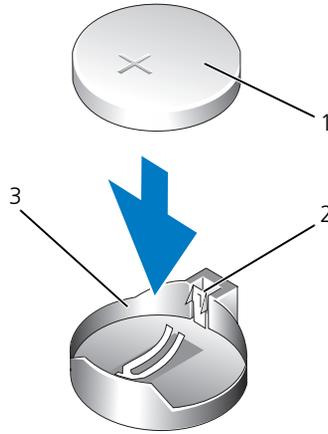
-  **警告：**この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。
-  **注意：**コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

コイン型電池は、コンピュータの設定、日付、時間の情報を保持します。バッテリーの寿命は数年間です。コンピュータを起動後に、何度も時刻と日付の情報をリセットしなければならないような場合は、バッテリーを交換します。

-  **警告：**新しいバッテリーを取り付ける場合、正しく取り付けてください。破裂する場合があります。交換するバッテリーは、デルが推奨する型、または同等の製品をご利用ください。使用済みのバッテリーは、製造元の指示に従って廃棄してください。

バッテリーを交換するには、次の手順を実行します。

- 1 新しいバッテリーの取り付け後に正しい設定に戻ることができるように、セットアップユーティリティを起動してすべての画面の値を記録します（115 ページの「セットアップユーティリティの起動」を参照）。
- 2 69 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って操作してください。
- 3 コンピュータカバーを取り外します（70 ページの「コンピュータカバーの取り外し」を参照）。
- 4 バッテリーソケットの位置を確認します（73 ページの「システム基盤コンポーネント」を参照）。
-  **注意：**道具（先端の鋭くないもの）を使用して、バッテリーをソケットから取り出す場合は、道具がシステム基盤に触れないよう注意してください。必ず、バッテリーとソケットの間に道具を確実に挿入してから、バッテリーを外します。これらの手順を怠ると、バッテリーソケットが外れたり、システム基盤の回路を切断するなど、システム基盤に損傷を与える恐れがあります。
- 5 プラスチック製のドライバなどのように先端部の鋭くない非導電性の道具、または指を使ってバッテリーをバッテリーソケットから取り外します。
- 6 バッテリーの「+」側を上に向けて新しいバッテリーをソケットに挿入し、バッテリーを所定の場所にカチッとはめ込みます。
- 7 コンピュータカバーを取り付けます。



1 バッテリー

2 タブ

3 バッテリーソケット

- ➡ **注意:** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークデバイスに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。
- 8 コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。
- 9 セットアップユーティリティを起動して、手順 1 で記録した設定に戻します（115 ページの「セットアップユーティリティの起動」を参照）。
- 10 古いバッテリーは適切に廃棄します。

コンピュータカバーの取り付け

警告: この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。

- 1 すべてのケーブルがしっかり接続され、ケーブルが邪魔にならない場所に束ねられているか確認します。電源ケーブルがドライブの下に挟まらないように、電源ケーブルを慎重に手前に引きます。
 - 2 コンピュータの内部に工具や余った部品が残っていないか確認します。
 - 3 次の手順に従って、カバーを正しい位置に取り付けます。
 - a カバーを回して下ろします。
 - b カバーの右側が閉まるまで押し下げます。
 - c カバーの左側が閉まるまで押し下げます。
 - 4 カバーの両側がロックされたことを確認します。ロックされなかった場合、手順 3 を繰り返します。
- ➡ **注意:** ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。
 - 5 コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

付録

仕様

プロセッサ	
プロセッサの種類	Intel® Pentium® 4 Intel® Pentium® D Intel® Core™ 2 Duo
L2 (レベル 2) キャッシュ	Intel Pentium D、Pentium 4、および Core プロセッサで 2 MB 以上

メモリ	
タイプ	デュアルチャネル 533 MHz、667 MHz、および 800 MHz DDR2
メモリのコネクタ	4
メモリ容量	512 MB または 1 GB
最小メモリ	512 MB
最大搭載メモリ	4 GB
BIOS アドレス	F0000h

コンピュータ情報	
チップセット	Intel P965 Express チップセット
DMA チャンネル	8
割り込みレベル	24
BIOS チップ (NVRAM)	4 MB
NIC	内蔵 Intel 82566DC ギガビットネットワーク接続
システムクロック	800 MHz または 1066 MHz データ率 (お使いのプロセッサによります)

ビデオ	
タイプ	PCI Express

オーディオ

タイプ	Sigmatel 9227 オーディオコーデック 内蔵 7.1 チャンネルまたは PCI オプションカード
-----	--

拡張バス

バスのタイプ	PCI 32 ビット (PCI 2.2 仕様) PCI Express x1、x4、および x16 (PCI Express 1.1a)
バス速度	PCI: 33 MHz PCI Express: 100 MHz
バスのスループット	PCI Express: x1 スロット双方向速度 - 500 MB/s x4 スロット双方向速度 - 2 GB/s x16 スロット双方向速度 - 8 GB/s

PCI

コネクタ	3 つ
コネクタサイズ	120 ピン
コネクタデータ幅 (最大)	32 ビット

PCI Express

コネクタ	x1、1 つ
コネクタサイズ	36 ピン
コネクタデータ幅 (最大)	1 PCI Express レーン

PCI Express

コネクタ	x4、1 つ (電氣的に x4 として接続される x8 コネクタ)
コネクタサイズ	98 ピン
コネクタデータ幅 (最大)	4 PCI Express レーン

PCI Express

コネクタ	x16、1 つ
コネクタサイズ	164 ピン
コネクタデータ幅 (最大)	16 PCI Express レーン

ドライブ

外部アクセス用：	3.5 インチドライブベイ × 2 (FlexBay) 5.25 インチドライブベイ × 2
利用可能なデバイス	シリアル ATA ハードドライブ、シリアル ATA DVD ドライブ、 シリアル ATA DVD/CD-RW コンボドライブ、フロッピードライブ、 メディアカードリーダー
内部アクセス用：	3.5 インチハードドライブベイ × 2

コネクタ

外付けコネクタ：	
ビデオ (外付けカード)	15 ピン VGA コネクタ 28 ピン DVI コネクタ
ネットワークアダプタ	RJ-45 コネクタ
USB	USB 2.0 互換コネクタ (前面パネル × 2、背面パネル × 6)
オーディオ	背面パネルコネクタ × 7 (ライン入力、ライン出力、マイク、サラ ウンド、サイドサラウンド、センター/サブウーハー低周波エフェク ト (LFE) チャンネル、および S/PDIF 用)、前面パネルコネクタ × 2 (ヘッドフォン/マイク用)
システム基板コネクタ：	
シリアル ATA	7 ピンコネクタ × 4
FlexBay ドライブ	USB 10 ピンヘッダ (オプションのフロッピードライブまたはオプ ションのメディアカードリーダー (3.5 インチベイデバイス) 用)
ファン	5 ピンコネクタ
PCI	120 ピンコネクタ × 3
PCI Express x1	36 ピンコネクタ
PCI Express x4 /x8	98 ピンコネクタ
PCI Express x16	164 ピンコネクタ
熱センサー 1x2	2 ピンコネクタ
PS/2 およびシリアルポートコネクタ 2x12	24 ピンコネクタ

コントロールおよびライト

電源ボタン	押しボタン
電源ライト	緑色のライト — 緑色の点滅はスリープ状態、緑色の点灯は電源がオンの状態を示します。 黄色のライト — 黄色の点滅は、コンピュータの内部電源に問題が発生していることを示します。システムが起動できず、黄色のライトが点灯している場合は、システム基板に問題が発生していることを示します（54 ページの「電源の問題」を参照）。
ハードドライブアクセスライト	緑色
リンク保全ライト（内蔵ネットワークアダプタ上）	緑色のライト — 10 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 オレンジ色のライト — 100 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 オフ（消灯） — コンピュータがネットワークへの物理的な接続を検出していません。
動作ライト（内蔵ネットワークアダプタ上）	黄色のライト — 点滅はネットワークの動作を示します。
診断ライト	前面パネルにある 4 つのライト（59 ページの「診断ライト」を参照）
スタンバイ電源ライト	システム基板の AUXPWR

電源

DC 電源装置：

ワット数	375 W
熱消費	1280 BTU/hr メモ： 熱消費は、電源ユニットのワット数定格に基づいて計算されます。

電圧（重要な電源設定情報については、『製品情報ガイド』の安全に関する手順を参照） 手動切り替え電源ユニット：
90 ~ 135 V および 180 ~ 265 V (50/60 Hz)

バックアップバッテリー 3 V CR2032 コイン型リチウムバッテリー

寸法

縦幅	46.05 cm
横幅	18.75 cm
長さ	45.42 cm
重量	12.7 kg

環境

温度：

動作時 10 ～ 35 °C

保管時 -40 ～ 65 °C

相対湿度 20 ～ 80 %（結露しないこと）

最大耐久震度：

動作時 0.25 G（3 ～ 200 Hz、0.5 オクターブ/分）

保管時 0.5 G（3 ～ 200 Hz、1 オクターブ/分）

最大耐久衝撃：

動作時 50.8 cm/秒の速度変化でボトムハーフサインパルス

保管時 508 cm/秒の速度変化で 27 G フェアードスクエアウェーブ

高度：

動作時 -15.2 ～ 3,048 m

保管時 -15.2 ～ 10,668 m

セットアップユーティリティ

概要

セットアップユーティリティは以下の場合に使用します。

- ハードウェアを追加、変更、取り外した後に、システム設定情報を変更する場合
- ユーザーパスワードなどユーザー選択可能オプションを設定または変更する場合
- 現在のメモリの容量を調べたり、取り付けられたハードドライブの種類を設定する場合
- アップデートによって BIOS をフラッシュする場合

セットアップユーティリティを使用する前に、セットアップユーティリティ画面情報を後で参照できるようにメモしておくことをお勧めします。



注意：コンピュータに関する知識が十分でない場合、このプログラムの設定を変更しないでください。設定を間違えるとコンピュータが正常に動作しなくなる可能性があります。

セットアップユーティリティの起動

- 1 コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。
- 2 青色の DELL™ ロゴの画面が表示されたら、F2 プロンプトが表示されるのを注意して待ちます。
- 3 F2 プロンプトが表示されたら、すぐに <F2> を押します。



メモ：F2 プロンプトは、キーボードが初期化されたことを示します。プロンプトの表示前に <F2> を押した場合、そのキーストロークは無視されます。

- 4 キーを押すタイミングが遅れて、オペレーティングシステムのロゴが表示されてしまったら、Microsoft® Windows® デスクトップが表示されるのを待ち、コンピュータをシャットダウンして（69 ページの「コンピュータの電源を切る」を参照）、操作をやりなおしてください。

セットアップユーティリティ画面

セットアップユーティリティ画面は、お使いのコンピュータの現在のまたは変更可能な設定情報を表示します。画面上の情報は、オプションリスト、アクティブなオプションのフィールド、キーの機能の 3 つの領域に分かれます。

<p>Options List — このフィールドは、セットアップユーティリティウィンドウの左側に表示されます。このフィールドは、取り付けられたハードウェア、省電力機能、およびセキュリティ機能を含む、コンピュータの構成を定義するオプションを表示する、スクロール可能なリストです。</p> <p>上下矢印キーを使用して、リストを上下にスクロールします。オプションをハイライト表示にすると、Option Field にそのオプションの詳細、現在の設定、および利用可能な設定が表示されます。<Enter>、または左矢印か右矢印を押すと、メインピック（折りたたんだ状態）とサブピック（展開した状態）を切り替えることができます。</p>	<p>Option Field — このフィールドには、各オプションについての情報が表示されます。このフィールドで、現在の設定を表示させたり設定を変更することができます。</p> <p>左右矢印キーを使って、オプションをハイライト表示します。<Enter> を押して、選択を有効にします。</p> <p>Key Functions — このフィールドは Option Field の下に表示され、アクティブなシステムセットアップフィールド内に、キーとその機能が一覧表示されます。</p>
---	--

セットアップオプション



メモ: お使いのコンピュータおよび取り付けられているデバイスによっては、この項に一覧表示された項目とは異なる場合があります。

System	
System Info	コンピュータ名、BIOS のバージョン番号および日付、システムタグ、その他のシステム固有情報などのシステム情報が一覧表示されます。 メモ: BIOS に表示されるシステム名は、コンピュータ上またはコンピュータのマニュアルに記載された名前と正確に一致しない場合があります。
CPU Info	プロセッサのタイプ、プロセッサのバス速度、プロセッサ ID、クロックスピード、L2 キャッシュ、およびお使いのプロセッサでサポートされているその他の機能が一覧表示されます。
Memory Info	取り付けられているメモリのタイプと容量、メモリ速度、およびチャンネルモード（デュアルまたはシングル）を示します。
Date/Time	現在の日付および時刻設定を表示します。
Boot Sequence	コンピュータはこのリストで指定したデバイスの順番で起動を試みます。 メモ: 起動デバイスを挿入して、コンピュータを再起動した場合、このオプションはセットアップユーティリティのメニューに表示されます。USB メモリデバイスから起動するには、USB デバイスを選択して、一覧の先頭に来るように (<U> を押して) 移動します。

Drives	
Diskette Drive	システム基板の FLOPPY コネクタに接続されたフロッピードライブを識別して定義します。オプションによって、ドライブの識別が USB only 、 Internal only 、または none (Off) に制限されます。 Read Only オプションは、フロッピーデバイスからの起動を禁止します。
SATA 0 ~ 5	システム基板の SATA コネクタに接続されているドライブを識別し、ハードドライブの容量を表示します。
SATA Operation	RAID の SATA コントローラ設定を識別および定義します。SATA コントローラは RAID Autodetect/ATA または RAID On に設定できます。
Onboard Devices	
Integrated NIC	NIC は On (デフォルト)、 Off 、 On w/ PXE に設定できます。 On w/PXE の設定がアクティブ な場合は (次回以降の起動プロセスでのみ有効)、<Ctrl><Alt> を押すように指示されます。このキーの組み合わせを押すと、ネットワークサーバーから起動方法を選択できるメニューが表示されます。起動ルーチンがネットワークサーバーから使用できないと、コンピュータは起動順序リスト内の次のデバイスからの起動を試みます。
Integrated Audio	オンボードオーディオコントローラを有効または無効にします。
USB Controller	On (デフォルト) に設定すると、USB デバイスが検出され、オペレーティングシステムでサポートされます。
USB for FlexBay	FlexBay 用の内蔵 USB を有効または無効にします。 <ul style="list-style-type: none"> • Off — FlexBay 用の内蔵 USB は無効です。 • On — FlexBay 用の内蔵 USB は有効です。 • No Boot — FlexBay 用の内蔵 USB は有効ですが、起動はできません。 工場出荷時のデフォルト設定は No Boot です。 メモ : この USB オプションは FlexBay デバイスが取り付けられている場合のみ表示されます。
Rear Quad USB	コンピュータ背面の 4 スタックの USB ポートを有効または無効にします。
Real Dual USB	コンピュータ背面の 2 スタックの USB ポートを有効または無効にします。
Front USB	コンピュータ前面の 2 スタックの USB ポートを有効または無効にします。
PS/2 マウスポート	このオプションは、お使いのコンピュータにオプションの PS/2 マウスポートがある場合に表示されます。
Video	
Primary Video	この設定は、コンピュータにビデオコントローラが 2 つある場合、どちらをプライマリにするかを指定します。

Performance

Multiple CPU Core	お使いのコンピュータのプロセッサが 2 つ以上のコアをサポートしている場合、このオプションが Options List に表示されます。
Virtualization	お使いのコンピュータのプロセッサが仮想化技術をサポートしている場合、このオプションが Options List に表示されます。
SpeedStep	お使いのコンピュータのプロセッサが Intel® SpeedStep® テクノロジをサポートしている場合は、このオプションが表示され、この機能のサポートを有効または無効に設定できます。
HyperThreading	お使いのコンピュータのプロセッサがハイパースレッディングをサポートしている場合、このオプションが Options List に表示されます。
HDD Acoustic Mode	<ul style="list-style-type: none">• Bypass (デフォルト) — お使いのコンピュータは、現在のアコースティックモードの設定をテストまたは変更しません。• Quiet — ハードドライブは最も静かな設定で動作します。• Suggested — ハードドライブは、ハードドライブ製造元が推奨する速度レベルで動作します。• Performance — ハードドライブは最大速度で動作します。 <p>メモ: Performance モードに切り替えると、ドライブのヘッドの移動が高速になり、ハードドライブのノイズが大きくなります。ただし、ドライブによってはデータ転送率の向上が見られない場合があります。</p> <p>メモ: アコースティック設定を変更しても、ハードドライブイメージは変わりません。</p>

Security

Admin Password	このオプションは、コンピュータのセットアップユーティリティへのアクセスを制限します。これは System Password オプションでシステムへのアクセスを制限できるのと同様です。
System Password	システムのパスワードセキュリティ機能の現在の状態が表示され、新しいシステムパスワードを設定したり確認することができます。
Password Status	このオプションは、セットアップパスワードを使ってシステムパスワードフィールドをロックします。フィールドがロックされている場合、コンピュータ起動時に <Ctrl><Enter> を押してパスワードセキュリティを無効にすることができなくなります。
Execute Disable	エグゼキュートディスエーブルビットのメモリプロテクションテクノロジーをオンにするかオフにするか指定します。

Power Management	
AC Recovery	コンピュータに AC 電源が回復した場合にどうするかを決定します。
Auto Power On	コンピュータが自動的にオンになるように設定します。選べるのは、 毎日 または 月曜日から金曜日までの毎日 です。 デフォルト設定は、 Off です。 この機能は、電源タップやサージプロテクタでコンピュータをシャットダウンした場合は動作しません。
Auto Power Time	コンピュータの電源を自動的にオンにする時間を設定します。 時刻は標準の 12 時間形式 (時:分) で表示されます。左右の矢印キーを押して数値を増減するか、日付と時刻のフィールドの両方に数値を入力して、起動する時刻を変更します。 この機能は、電源タップやサージプロテクタでコンピュータをシャットダウンした場合は動作しません。
Remote Wake Up	このオプションは、NIC または Remote Wakeup 機能を持つモデムがウェイクアップ信号を受け取った際に、システムが起動するように設定します。 On がデフォルト設定です。 On w/ Boot to NIC の場合、コンピュータは起動順序を試みる前にネットワークからの起動を試みます。 メモ : システムはサスペンドモードからのみリモートで起動できます。
Quick Resume	この機能により、Intel® Viiv™ クイックレジュームテクノロジーを有効または無効にできます。 デフォルト設定は、 Off です。
Maintenance	
Service Tag	システムのサービスタグを表示します。これは 7 桁の英数字で示される固有のシステム ID です。
SERR Message	一部のアドインカードをサポートするために、SERR メッセージのメカニズムを制御します。
Load Defaults	セットアップメニューのすべてのオプションをリセットし、工場出荷時のデフォルトに戻します。
Event Log	システムのイベントログを表示します。
POST Behavior	
Fastboot	On (デフォルト) に設定されている場合、特定の設定とテストが省略されるので、コンピュータがより早く起動します。
Numlock Key	このオプションは、キーボード上の右端列のキーに関連しています。 On (デフォルト) に設定されている場合、各キー上部に表示されている数字と演算機能がアクティブになります。 Off に設定されている場合、各キー下部に表示されているカーソルコントロール機能がアクティブになります。
POST Hotkeys	このオプションでは、コンピュータ起動時に画面に表示されるファンクションキーを指定できます。
Keyboard Errors	このオプションは、コンピュータ起動時のキーボードエラーレポートを無効または有効にします。

Boot Sequence

この機能を使用すると、BIOS がオペレーティングシステムを探す際にデバイスを検索する順序を設定できます。

 **注意:** 起動順序の設定を変更する場合は、変更内容が削除されないように、新しい設定を保存します。

オプション設定

 **メモ:** コンピュータが起動可能なすべてのデバイスからの起動を試みても、起動可能なデバイスが見つからない場合、No boot device available というエラーメッセージが生成されます。この場合は、<F1> キーを押して起動を再試行するか、<F2> キーを押してセットアップユーティリティを実行してください。

- **Onboard or USB Floppy Drive** — コンピュータはフロッピードライブからの起動を試みます。ドライブにフロッピーディスクが挿入されていない場合、またはフロッピードライブが取り付けられていない場合、コンピュータは起動順序に従って起動可能な次のデバイスからの起動を試みます。

 **メモ:** ドライブに挿入されているフロッピーが起動可能ではない場合、コンピュータはエラーメッセージを生成します。画面の指示に従って起動を再試行してください。

- **Onboard SATA Hard Drive** — コンピュータはプライマリハードドライブからの起動を試みます。ドライブ上にオペレーティングシステムが存在しない場合、コンピュータは起動可能な次のデバイスからの起動を試みます。
- **Onboard or USB CD-ROM Drive** — コンピュータは CD ドライブからの起動を試みます。ドライブに CD が挿入されていない場合、または CD にオペレーティングシステムが含まれていない場合、コンピュータは起動可能な次のデバイスからの起動を試みます。
- **USB Device** — USB ポートにメモリデバイスを挿入し、コンピュータを再起動します。画面の右上隅に F12 = Boot Menu と表示されたら、<F12> を押します。BIOS がデバイスを認識し、USB オプションを起動メニューに追加します。

 **メモ:** USB デバイスから起動するには、デバイスが起動可能である必要があります。デバイスのマニュアルを参照して、デバイスが起動可能であるか確認してください。

一回のみの起動順序の変更

この機能を使用すると、例えば、フロッピードライブ、メモリキー、または CD-RW ドライブなどの USB デバイスにお使いのコンピュータを再起動できます。

 **メモ:** USB フロッピードライブから起動する場合、セットアップユーティリティでフロッピードライブを OFF にする必要があります (116 ページの「セットアップオプション」を参照)。

- 1 USB デバイスから起動する場合、USB デバイスを USB コネクタに接続してください (13 ページの「コンピュータの正面図」を参照)。
- 2 コンピュータの電源を入れます (または再起動します)。
- 3 画面の右上隅に F2 = Setup, F12 = Boot Menu と表示されたら、<F12> を押します。

キーを押すタイミングが遅れて、オペレーティングシステムのロゴが表示されてしまったら、Microsoft Windows デスクトップが表示されるのを待ち、コンピュータをシャットダウンして (69 ページの「コンピュータの電源を切る」を参照)、操作をやりなおしてください。

使用可能な起動デバイスをすべて一覧表示した、**Boot Device Menu** が表示されます。各デバイスには、横に番号があります。

- メニューの一番下で、一回のみの起動に使用するデバイスの数字を入力します。
たとえば、USB メモリキーから起動する場合は、**USB Device** をハイライト表示して <Enter> を押します。

 **メモ:** USB デバイスから起動するには、デバイスが起動可能である必要があります。デバイスのマニュアルを参照して、デバイスが起動可能であるか確認してください。

次回からの起動順序の変更

- セットアップユーティリティを起動します（115 ページの「セットアップユーティリティの起動」を参照）。
- 矢印キーを使って **Boot Sequence** メニューオプションをハイライト表示し、<Enter> を押してメニューにアクセスします。

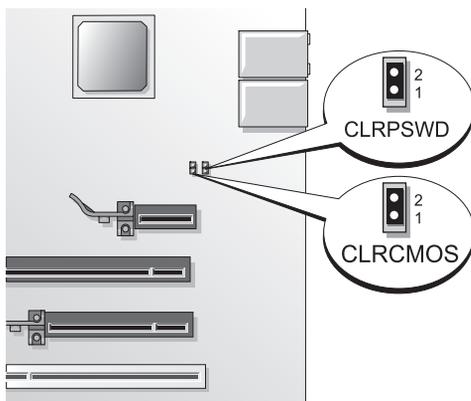
 **メモ:** 後で元に戻すこともできるよう、現在の起動順序を書きとめます。

- デバイスのリスト内を移動するには、上下矢印キーを押します。
- スペースバーを押して、デバイスを有効または無効にします。有効にしたデバイスには番号が割り当てられますが、無効にしたデバイスには番号は割り当てられません。
- 選択したデバイスをリストの上または下に移動するには、<U> または <D> を押します。

忘れたパスワードの消去

 **警告:** この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。

- 70 ページの「コンピュータ内部の作業を始める前に」の手順に従って操作してください。



- システム基板上にある 2 ピンパスワードジャンパ（CLRPSWD）の位置を確認し（73 ページの「システム基盤コンポーネント」を参照）、ジャンパを取り外してパスワードをクリアします。

 **メモ:** お使いのコンピュータは出荷時に、ピン 1 とピン 2 にジャンパプラグが取り付けられています。

- コンピュータカバーを取り付けます（110 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照）。
- コンピュータとモニターをコンセントに接続して、電源を入れます。
- コンピュータに Microsoft® Windows® のデスクトップが表示されたら、コンピュータをシャットダウンします（69 ページの「コンピュータの電源を切る」を参照）。

- 6 モニターの電源を切って、コンセントから外します。
 - 7 コンピュータの電源ケーブルをコンセントから外し、電源ボタンを押して、システム基板の静電気を除去します。
 - 8 コンピュータカバーを取り外します（70 ページの「コンピュータカバーの取り外し」を参照）。
 - 9 システム基板の 2 ピンパスワードジャンパ（CLRPSWD）の位置を確認し（73 ページの「システム基盤コンポーネント」を参照）、1 番ピンと 2 番ピンにジャンパプラグを取り付けて、パスワード機能を再び有効にします。
 - 10 コンピュータカバーを取り付けます（110 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照）。
-  **注意：**ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークデバイスに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。
- 11 コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

CMOS 設定のリセット

 **警告：**この項の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をお読みください。

- 1 69 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って操作してください。
- 2 現在の CMOS 設定をリセットするには、次の手順を実行します。
 - a システム基板の 2 ピン CMOS ジャンパ（CLRCMOS）の位置を確認します（73 ページの「システム基盤コンポーネント」を参照）。



メモ：お使いのコンピュータは出荷時に、CMOS ジャンパにジャンパプラグは取り付けられていません。

- b パスワードジャンパ（CLRPSWD）のピン 1 とピン 2 からジャンパプラグを取り外します。
 - c CMOS ジャンパ（CLRCMOS）のピン 1 とピン 2 にジャンパプラグを取り付けて、約 5 秒待ちます。
 - d ジャンパプラグを取り外し、パスワードジャンパ（CLRPSWD）のピン 1 とピン 2 に取り付けなおします。
- 3 コンピュータカバーを取り付けます（110 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照）。

 **注意：**ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

- 4 コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

デルテクニカルサポート規定（アメリカ合衆国のみ）

技術者によるテクニカルサポートは、トラブルシューティングの過程でカスタマーの協力と参加を必要とします。このサポートでは、オペレーティングシステム、ソフトウェアプログラム、およびハードウェアドライブをデルの出荷時のデフォルト設定に戻し、コンピュータの機能とデルが取り付けたすべてのハードウェアの機能が適切かどうかを検証します。この技術者によるテクニカルサポートに加えて、support.jp.dell.com でオンラインによるテクニカルサポートが利用できます。追加のテクニカルサポートのオプションについては、購入時にご利用いただける場合があります。

デルは、コンピュータと「デルがインストールまたは取り付けを行った」ソフトウェアや周辺機器¹ に対し、限定的なテクニカルサポートを提供します。サードパーティのソフトウェアや周辺機器については、製造元のメーカーがサポートを行います。これらのソフトウェアや周辺機器には、デルの Software and Peripherals、Readyware、および Custom Factory Integration² を通じて購入またはインストールされたものが含まれます。

¹ 修理サービスは、お客様の限定保証やコンピュータ購入時に申し込まれたオプションのサポートサービス契約の条件に

従って提供されます。

- 2 Custom Factory Integration (CFI) プロジェクトに含まれるすべてのデル標準コンポーネントは、お客様のコンピュータの標準的なデル限定保証により保証されます。ただし、デルも部品交換プログラムを延長し、コンピュータのサービス契約の期間中は、CFI を通じて組み込まれたすべての標準以外のサードパーティのハードウェアコンポーネントを保証します。

「デルがインストールまたは取り付けを行った」ソフトウェアと周辺機器の定義

デルがインストールしたソフトウェアには、オペレーティングシステムと製造過程でコンピュータにインストールされた複数のソフトウェアプログラムが含まれます (Microsoft® Office、Norton Antivirus など)。デルが取り付けした周辺機器には、すべての内部拡張カードや、Dell ブランドのモジュールベイまたは PC カードのアクセサリが含まれます。さらに、すべての Dell ブランドのモニター、キーボード、マウス、スピーカー、電話モデム用マイク、ドッキングステーション / ポートリプリケータ、ネットワーク製品、およびすべての関連ケーブルが含まれます。

「サードパーティ」のソフトウェアと周辺機器の定義

サードパーティのソフトウェアと周辺機器には、デルが販売した Dell ブランド以外のすべての周辺機器、アクセサリ、またはソフトウェアプログラムが含まれます (プリンタ、スキャナー、カメラ、ゲームなど)。サードパーティのソフトウェアや周辺機器のサポートについては、すべて製品の製造メーカーから提供されます。

FCC の通達 (アメリカ合衆国のみ)

FCC クラス B

この装置は、ラジオ周波数のエネルギーを発生、使用、放射する可能性があります。製造元のマニュアルに従わずに取り付けて使用した場合、ラジオやテレビに受信障害を生じさせる場合があります。本装置は、試験の結果、FCC 規則パート 15 に準拠するクラス B デジタル装置の規制に適合しています。

この装置は FCC (米国連邦通信委員会) 規定の第 15 項に適合しています。次の 2 つの条件にしたがって使用してください。

- 1 本装置が有害な障害を引き起こさないこと。
- 2 本装置は、受信障害を起こすと、望ましくない操作が必要になる場合もあります。



注意: FCC 規則では、デルによって明確に許可されていない変更修正を行った場合、その装置を使用する権限が無効になることがあると規定されています。

この規制は、個人の家に取り付けした場合に、有害な障害に対する適正な保護を提供するよう設計されています。ただし、特定の設定で電波障害が発生しないという保証はありません。本装置のスイッチをオンオフすることにより、本装置がラジオやテレビに受信障害を引き起こしていることが確認された場合は、次の方法をお試しになるようお勧めします。

- 受信アンテナの方向を変えてください。
- 受信機に対してシステムを再配置してください。
- 受信機からシステムを遠ざけてください。
- システムを別のコンセントにつないで、システムと受信機を別々の分岐回路上に置いてください。

詳細については、デルの担当者またはラジオ / テレビの技術者にご相談ください。

次の情報は、FCC 規則に準拠する本書で取り扱う装置に関するものです。

- 製品名: Dell™ Dimension™ 9200
- モデル番号: DCTA

- 会社名：
Dell Inc.
Worldwide Regulatory Compliance & Environmental Affairs
One Dell Way
Round Rock, TX 78682 USA
512-338-4400

 **メモ**：認可機関の詳細情報に関しては、『製品情報ガイド』を参照してください。

デルへのお問い合わせ

電子メールを使用してデルにお問い合わせいただく場合は、次のウェブサイトをご覧ください。

- www.dell.com/jp
- support.jp.dell.com（サポート）

デルへお問い合わせになるときは、デルの電話番号、E-メールアドレスをまとめた次の表を参照してください。どのコードを選択するかは、どこから電話をかけるか、また受信先によっても異なります。さらに、国によって国際電話のかけ方も変わってきます。国際電話のかけ方に関しては、国内または国際電話会社にお問い合わせください。

 **メモ**：記載されている問い合わせ先の情報は、このマニュアルの印刷時に確認されたものであり、変更されることがあります。

国（市） 国際電話アクセスコード 国番号 市外局番	部署名またはサービス地域、 ウェブサイトおよびE-メールアドレス	市内番号 フリーダイヤル
日本（川崎） 国際電話アクセスコード： 001 国番号： 81 市外局番： 44	ウェブサイト： support.jp.dell.com テクニカルサポート（Dimension、および Inspiron） 日本国外のテクニカルサポート（Dimension および Inspiron） Fax 情報サービス 24 時間納期情報案内サービス カスタマーケア ビジネスセールス本部（従業員数 400 人未満） 法人営業本部（従業員数 400 人以上） 官公庁 / 研究・教育機関 / 医療機関セールス デルグローバルジャパン 個人のお客様 代表	フリーダイヤル：0120-198-226 81-44-520-1435 044-556-3490 044-556-3801 044-556-4240 044-556-1465 044-556-3433 044-556-5963 044-556-3469 044-556-1760 044-556-4300

用語集

この用語集に収録されている用語は、情報の目的として提供されています。お使いのコンピュータに搭載されている機能についての記載がない場合もあります。

A

AC — alternating current (交流) — コンピュータの AC アダプタ電源ケーブルをコンセントに差し込むと流れる電気の様式です。

ACPI — advanced configuration and power interface — Microsoft® Windows® オペレーティングシステムがコンピュータをスタンバイモードや休止状態モードにして、コンピュータに接続されている各デバイスに供給される電力量を節約できる電源管理規格です。

AGP — accelerated graphics port — システムメモリをビデオ関連の処理に使用できるようにする専用のグラフィックスポートです。AGP を使うとビデオ回路とコンピュータメモリ間のインタフェースが高速化され、True-Color のスムーズなビデオイメージを伝送できます。

AHCI — Advanced Host Controller Interface — SATA ハードドライブ対応のホストコントローラです。AHCI を使用することにより、ストレージドライバでネイティブコマンドキューイング (NCQ) やホットプラグなどのテクノロジーが使用可能になります。

ALS — 環境照明センサー — ディスプレイの輝度を調整する機能です。

ASF — alert standards format — ハードウェアおよびソフトウェアの警告を管理コンソールに報告する方式を定義する標準です。ASF は、どのプラットフォームやオペレーティングシステムにも対応できるように設計されています。

B

BIOS — basic input/output system (基本入出力システム) — コンピュータのハードウェアとオペレーティングシステム間のインタフェース機能を持つプログラム (またはユーティリティ) です。設定がコンピュータにどのような影響を与えるのか理解できていない場合は、このプログラムの設定を変更しないでください。セットアップユーティリティとも呼ばれています。

Bluetooth® ワイヤレステクノロジー — 短距離内 (9 メートル) にある複数のネットワークデバイスが、お互いを自動的に認識できるようにするワイヤレステクノロジー標準です。

bps — ビット / 秒 — データの転送速度を計測する標準単位です。

BTU — British thermal unit (英国熱量単位) — 熱量の単位です。

C

C — セルシウス (摂氏) — 温度の単位で、水の氷点を 0 度、沸点を 100 度としています。

CD-R — CD recordable — 書き込み可能な CD です。CD-R にはデータを一度だけ記録できます。一度記録したデータは消去したり、上書きしたりすることはできません。

CD-RW — CD rewritable — 書き換え可能な CD です。データを CD-RW ディスクに書き込んだ後、削除したり上書きしたりできます (再書き込み)。

CD-RW drive — CD のデータを読み取ったり、CD-RW (書き換え可能な CD) ディスクや CD-R (書き込み可能な CD) ディスクにデータを書き込むことができるドライブです。CD-RW ディスクには、繰り返し書き込むことが可能ですが、CD-R ディスクには一度しか書き込むことができません。

CD-RW/DVD ドライブ — コンボドライブとも呼ばれます。CD および DVD のデータを読み取ったり、CD-RW（書き換え可能な CD）ディスクや CD-R（書き込み可能な CD）ディスクにデータを書き込んだりすることができるドライブです。CD-RW ディスクには、繰り返し書き込むことが可能ですが、CD-R ディスクには一度しか書き込むことができません。

COA — Certificate of Authenticity（実物証明書） — Windows の英数文字のコードで、コンピュータのラベルに印刷されています。**Product Key**（プロダクトキー）や **Product ID**（プロダクト ID）とも呼ばれます。

CRIMM — continuity rambus in-line memory module（連続式 RIMM） — メモリチップのない特別なモジュールで、使用されていない RIMM スロットに取り付けます。

D

DDR SDRAM — double-data-rate SDRAM（ダブルデータ速度 SDRAM） — データバーストサイクルを倍にして、システムの性能を向上させる SDRAM の一種です。

DDR2 SDRAM — double-data-rate 2 SDRAM（ダブルデータ速度 2 SDRAM） — 4 ビットのプリフェッチおよびその他のアーキテクチャの変更を使用して、メモリスピードを 400 MHz 以上に向上させる、DDR SDRAM の一種です。

DIMM — dual in-line memory module — システム基板上のメモリモジュールに接続する、メモリチップ搭載の回路基板です。

DIN コネクタ — 丸い、6 ピンのコネクタで、DIN（ドイツ工業規格）に準拠しています。通常は、PS/2 キーボードまたはマウスケーブルのコネクタを接続するために使用します。

DMA — direct memory access — DMA チャネルを使うと、ある種の RAM とデバイス間でのデータ転送がプロセッサを介さずに行えるようになります。

DMTF — Distributed Management Task Force — 分散型デスクトップ、ネットワーク、企業、およびインターネット環境における管理基準を開発するハードウェアおよびソフトウェア会社の団体です。

DRAM — dynamic random-access memory — コンデンサが搭載された集積回路に情報を保存するメモリです。

DSL — Digital Subscriber Line（デジタル加入者回線） — アナログ電話回線を介して高速インターネット接続を常時提供するテクノロジーです。

DVD-R — DVD recordable — 記録可能な DVD です。DVD-R にはデータを一度だけ記録できます。一度記録したデータは消去したり、上書きしたりすることはできません。

DVD+RW — DVD rewritable — 書き換え可能な DVD です。データを DVD+RW ディスクに書き込んだ後、削除したり上書きしたりできます（再書き込み）。（DVD+RW テクノロジーは DVD-RW テクノロジーとは異なります。）

DVD+RW ドライブ — DVD やほとんどの CD メディアを読み込んだり、DVD+RW（書き換え可能 DVD）に書き込んだりすることができるドライブです。

DVI — digital video interface（デジタルビデオインタフェース） — コンピュータとデジタルビデオディスプレイ間のデジタル送信の標準です。

E

ECC — error checking and correction（エラーチェックおよび訂正） — メモリにデータを書き込んだり、メモリからデータを読み取る際に、データの正確さを検査する特別な回路を搭載しているメモリです。

ECP — extended capabilities port — 改良された双方向のデータ転送を提供するパラレルコネクタの拡張仕様の 1 つです。EPP に似て、ECP はデータ転送にダイレクトメモリアクセスを使用して性能を向上させます。

EIDE — enhanced integrated device electronics — ハードドライブと CD ドライブ用の IDE インタフェースの改良バージョンです。

EMI — electromagnetic interference（電磁波障害） — 電磁放射線によって引き起こされる電気障害です。

ENERGY STAR[®] — Environmental Protection Agency (米国環境保護局)が規定する、全体的な電力の消費量を減らす要件です。

EPP — enhanced parallel port — 双方向のデータ転送を提供するパラレルコネクタの仕様の1つです。

ESD — electrostatic discharge (静電気放出) — 静電気の急速な放電のことです。ESDは、コンピュータや通信機器に使われている集積回路を損傷することがあります。

ExpressCard — PCMCIA規格に準拠している取り外し可能なI/Oカードです。ExpressCardの一般的なものに、モデムやネットワークアダプタがあります。ExpressCardは、PCI ExpressとUSB 2.0の両規格をサポートします。

F

FBD — fully-buffered DIMM — DDR2 DRAMチップ、およびDDR2 SDRAMチップとシステム間の通信を高速化するアドバンスドメモリバッファ(AMB)を搭載したDIMMです。

FCC — Federal Communications Commission (米国連邦通信委員会) — コンピュータやその他の電子機器が放出する放射線の量を規制する通信関連の条例を執行するアメリカの機関です。

FSB — front side bus — マイクロプロセッサとRAM間のデータ経路と物理的なインタフェースです。

FTP — file transfer protocol (ファイル転送プロトコル) — インターネットに接続されたコンピュータ間で、ファイルを交換するための標準インターネットプロトコルです。

G

G — グラビティ — 重力の計測単位です。

GB — ギガバイト — データの単位です。1 GBは1024 MB (1,073,741,824 バイト)です。ハードドライブの記憶領域容量を示す場合に、1,000,000,000 バイトに切り捨てられることもあります。

GHz — ギガヘルツ — 周波数の計測単位です。1 GHzは10億Hzまたは1,000 MHzです。通常、コンピュータのプロセッサ、バス、インタフェースの処理速度はGHz単位で計測されます。

GUI — graphical user interface — メニュー、ウィンドウ、およびアイコンでユーザーと相互にやり取りするソフトウェアです。Windowsオペレーティングシステムで動作するほとんどのプログラムはGUIです。

H

HTTP — hypertext transfer protocol — インターネットに接続されたコンピュータ間でファイルを交換するためのプロトコルです。

Hz — ヘルツ — 周波数の単位です。1秒間1サイクルで周波数1 Hzです。コンピュータや電子機器では、キロヘルツ(kHz)、メガヘルツ(MHz)、ギガヘルツ(GHz)、またはテラヘルツ(THz)単位で計測される場合もあります。

I

IC — integrated circuit (集積回路) — コンピュータ、オーディオ、およびビデオ装置用に製造された、何百万もの小電子コンポーネントが搭載されている半導体基板、またはチップです。

IDE — integrated device electronics — ハードドライブまたはCDドライブにコントローラが内蔵されている大容量ストレージデバイス用のインタフェースです。

IEEE 1394 — Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc. — コンピュータにデジタルカメラやDVDプレーヤーなどの、IEEE 1394互換デバイスを接続するのに使用される高性能シリアルバスです。

I/O — input/output (入出力) — コンピュータにデータを入力したり、コンピュータからデータを出力する動作、またはデバイスです。キーボードやプリンタはI/Oデバイスです。

I/O アドレス — 特定のデバイス（シリアルコネクタ、パラレルコネクタ、または拡張スロットなど）に関連する RAM のアドレスで、プロセッサがデバイスと通信できるようにします。

IrDA — Infrared Data Association — 赤外線通信の国際規格を標準化する団体です。

IRQ — interrupt request（割り込み要求） — デバイスがプロセッサと通信できるように、特定のデバイスに割り当てられた電子的経路です。すべてのデバイス接続に IRQ を割り当てる必要があります。2 つのデバイスに同じ IRQ を割り当てることはできません、両方のデバイスを同時に動作させることはできません。

ISP — Internet service provider（インターネットサービスプロバイダ） — ホストサーバーへのアクセスを可能にし、インターネットへの直接接続、E-メールの送受信、およびウェブサイトへのアクセスなどのサービスを提供する会社です。通常、ISP はソフトウェアのパッケージ、ユーザー名、およびアクセス用の電話番号を有料（月払い）で提供します。

K

Kb — キロビット — データの単位です。1 Kb は、1,024 ビットです。メモリ集積回路の容量の単位です。

KB — キロバイト — データの単位です。1 KB は 1,024 バイトです。または、1,000 バイトとすることもあります。

kHz — キロヘルツ — 1,000 Hz に相当する周波数の単位です。

L

LAN — local area network（ローカルエリアネットワーク） — 狭い範囲にわたるコンピュータネットワークです。LAN は通常、1 棟の建物内や隣接する 2、3 棟の建物内に限定されます。LAN は電話回線や電波を使って他の離れた LAN と接続し、WAN（ワイドエリアネットワーク）を構成できます。

LCD — liquid crystal display（液晶ディスプレイ） — ノートブックコンピュータのディスプレイやフラットパネルディスプレイに用いられる技術です。

LED — light-emitting diode（発光ダイオード） — コンピュータの状態を示す光を発する電子部品です。

LPT — line print terminal — プリンタや他のパラレルデバイスへのパラレル接続のためのポートです。

M

Mb — メガビット — メモリチップ容量の単位です。1 Mb は 1,024 Kb です。

Mbps — メガビット / 秒 — 1,000,000 ビット / 秒です。通常、ネットワークやモデムなどのデータ転送速度の計測単位に使用します。

MB — メガバイト — 1,048,576 バイトに相当するデータストレージの単位です。または、1,024 KB を表します。ハードドライブの記憶領域容量を示す場合に、1,000,000 バイトに切り捨てられて表示されることもあります。

MB/sec — メガバイト / 秒 — 1,000,000 バイト / 秒です。通常、データの転送速度の計測単位に使用します。

MHz — メガヘルツ — 周波数の単位です。1 秒間に 1,000,000 サイクルで 1 MHz です。通常、コンピュータのマイクロプロセッサ、バス、インタフェースの処理速度は MHz 単位で計測されます。

MP — メガピクセル — デジタルカメラで使用される画像の解像度の単位です。

ms — ミリ秒 — 1,000 分の 1 秒に相当する時間の単位です。ストレージデバイスなどのアクセス速度の計測に使用します。

N

NIC — ネットワークアダプタを参照してください。

ns — ナノ秒 — 10 億分の 1 秒に相当する時間の単位です。

NVRAM — nonvolatile random access memory (不揮発性ランダムアクセスメモリ) — コンピュータの電源が切られたり、外部電源が停止した場合にデータを保存するメモリの種類です。NVRAM は、日付、時刻、およびお客様が設定できるその他のセットアップオプションなどのコンピュータ設定情報を維持するのに利用されます。

P

PC カード — PCMCIA 規格に準拠している取り外し可能な I/O カードです。PC カードの一般的なものに、モデムやネットワークアダプタがあります。

PCI — peripheral component interconnect — PCI は、32 ビットおよび 64 ビットのデータ経路をサポートするローカルバスで、プロセッサとビデオ、各種ドライブ、ネットワークなどのデバイス間に高速データ経路を提供します。

PCI Express — プロセッサとそれに取り付けられたデバイスとのデータ転送速度を向上させる、PCI インタフェースの修正版です。PCI Express は、250 MB/秒 ~ 4 GB/秒の速度でデータを転送できます。PCI Express チップセットおよびデバイスが異なる速度で使用できる場合は、動作速度が遅くなります。

PCMCIA — Personal Computer Memory Card International Association — PC カードの規格を協議する国際的組織です。

PIO — programmed input/output — データバスの一部としてプロセッサを経由した、2 つのデバイス間のデータ転送方法です。

POST — power-on self-test (電源投入時の自己診断) — BIOS が自動的にロードする診断プログラムです。メモリ、ハードドライブ、およびビデオなどのコンピュータの主要コンポーネントに基本的なテストを実行します。POST で問題が検出されなかった場合、コンピュータは起動を続行します。

PS/2 — personal system/2 — PS/2 互換のキーボード、マウス、またはキーパッドを接続するコネクタの一種です。

PXE — pre-boot execution environment — WfM (Wired for Management) 標準で、オペレーティングシステムのないネットワークコンピュータを設定して、リモートで起動できるようにします。

R

RAID — redundant array of independent disks — データの冗長性を提供する方法です。一般的に実装される RAID には RAID 0、RAID 1、RAID 5、RAID 10、および RAID 50 があります。

RAM — random-access memory (ランダムアクセスメモリ) — プログラムの命令やデータを保存するコンピュータの主要な一時記憶領域です。RAM に保存されている情報は、コンピュータをシャットダウンすると失われます。

readme ファイル — ソフトウェアのパッケージまたはハードウェア製品に添付されているテキストファイルです。通常、readme ファイルには、インストール手順、新しく付け加えられた機能の説明、マニュアルに記載されていない修正などが記載されています。

RFI — radio frequency interference (無線電波障害) — 10 kHz から 100,000 MHz までの範囲の通常の無線周波数で発生する障害です。無線周波は電磁周波数帯域の低域に属し、赤外線や光などの高周波よりも障害を起こしやすい傾向があります。

ROM — read-only memory (読み取り専用メモリ) — コンピュータが削除したり書き込みできないデータやプログラムを保存するメモリです。RAM と異なり、ROM はコンピュータの電源が切れても内容を保持します。コンピュータの動作に不可欠のプログラムで ROM に常駐しているものがいくつかあります。

RPM — revolutions per minute — 1 分間に発生する回転数です。ハードドライブ速度の計測に使用します。

RTC — real time clock (リアルタイムクロック) — システム基板上にあるバッテリーで動く時計で、コンピュータの電源を切った後も、日付と時刻を保持します。

RTCST — real-time clock reset (リアルタイムクロックリセット) — いくつかのコンピュータに搭載されているシステム基板上のジャンパで、問題が発生した場合のトラブルシューティングに利用できます。

S

SAS — serial attached SCSI — 原型の SCSI パラレルアーキテクチャとは対照的に、より高速のシリアルバージョンの SCSI インタフェースです。

SATA — serial ATA (シリアル ATA) — より高速のシリアルバージョンの ATA (IDE) インタフェースです。

SCSI — small computer system interface — ハードドライブ、CD ドライブ、プリンタ、スキャナーなどのデバイスをコンピュータに接続するための高速インタフェースです。SCSI では、単一のコントローラを使って多数のデバイスを接続できます。SCSI コントローラバスでは、個々の識別番号を使って各デバイスにアクセスします。

SDRAM — synchronous dynamic random-access memory (同期ダイナミックランダムアクセスメモリ) — DRAM のタイプで、プロセッサの最適クロック速度と同期化されています。

SIM — サブスクリバ識別モジュール — SIM カードには、音声通信およびデータ通信を暗号化するマイクロチップが内蔵されています。SIM カードは、電話およびノートブックコンピュータで使用できます。

S/PDIF — Sony/Philips Digital Interface — ファイルの質が低下する可能性があるアナログ形式に変換せずに、1 つのファイルから別のファイルにオーディオを転送できるオーディオ転送用ファイルフォーマットです。

Strike Zone™ — (コンピュータの電源がオンまたはオフに関わらず) コンピュータが共振ショックを受けた場合、または落下した場合に制動装置として機能し、ハードディスクドライブを保護するプラットフォームベースの強化領域です。

SVGA — super-video graphics array — ビデオカードとコントローラ用のビデオ標準です。SVGA の通常の解像度は 800 × 600 および 1024 × 768 です。

プログラムが表示する色数と解像度は、コンピュータに取り付けられているモニター、ビデオコントローラとドライバ、およびビデオメモリの容量によって異なります。

S ビデオ TV 出力 — テレビまたはデジタルオーディオデバイスをコンピュータに接続するために使われるコネクタです。

SXGA — super-extended graphics array — 1280 × 1024 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

SXGA+ — super-extended graphics array plus — 1400 × 1050 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

T

TAPI — telephony application programming interface — 音声、データ、ファックス、ビデオなどの各種テレフォニーデバイスが Windows のプログラムで使用できるようになります。

TPM — trusted platform module — ハードウェアベースのセキュリティ機能です。セキュリティソフトウェアと併用して、ファイル保護や E-メール保護などの機能を有効にすることにより、ネットワークおよびコンピュータのセキュリティを強化します。

U

UMA — unified memory allocation (統合メモリ振り分け) — ビデオに動的に振り分けられるシステムメモリです。

UPS — uninterruptible power supply (無停電電源装置) — 電氣的な障害が起きた場合や、電圧レベルが低下した場合に使用されるバックアップ電源です。**UPS** を設置すると、電源が切れた場合でも限られた時間コンピュータは動作することができます。通常、**UPS** システムは、過電流を抑え電圧を調整します。小型の **UPS** システムで数分間電力を供給するので、コンピュータをシャットダウンすることが可能です。

USB — universal serial bus (ユニバーサルシリアルバス) — **USB** 互換キーボード、マウス、ジョイスティック、スキャナー、スピーカー、プリンタ、ブロードバンドデバイス (DSL およびケーブルモデム)、撮像装置、またはストレージデバイスなどの低速デバイス用ハードウェアインタフェースです。コンピュータの 4 ピンソケットがコンピュータに接続されたマルチポートハブに直接デバイスを接続します。**USB** デバイスは、コンピュータの電源が入っていても接続したり取り外したりすることができます。また、デジチェーン型に接続することもできます。

UTP — unshielded twisted pair (シールドなしツイストペア) — ほとんどの電話回線利用のネットワークやその他の一部のネットワークで利用されているケーブルの種類です。電磁波障害から保護するためにワイヤのペアに金属製の被覆をほどこす代わりに、シールドなしのワイヤのペアがねじられています。

UXGA — ultra extended graphics array — 1600 × 1200 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

V

V — ボルト — 電位または起電力の計測単位です。1 ボルトは、1 アンペアの電流を通ずる抵抗 1 オームの導線の両端の電位の差です。

W

W — ワット — 電力の計測単位です。1 ワットは 1 ボルトで流れる 1 アンペアの電流を指します。

WHr — ワット時 — バッテリーのおおよその充電容量を表すのに通常使われる単位です。たとえば、66 **WHr** のバッテリーは 66 **W** の電力を 1 時間、33 **W** を 2 時間供給できます。

WLAN — Wireless Local Area Network (ワイヤレスローカルエリアネットワーク) の略です。相互接続され、電波を介して互いに通信する一連のコンピュータです。アクセスポイントまたはワイヤレスルーターを使用してインターネットにアクセスできます。

WWAN — Wireless Wide Area Network (ワイヤレスワイドエリアネットワーク) の略です。セルラータクノロジーを使用した、ワイヤレスの高速データネットワークで、**WLAN** よりもはるかに広い地域に対応します。

WXGA — wide-aspect extended graphics array — 1280 × 800 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

X

XGA — extended graphics array — 1024 × 768 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

Z

ZIF — zero insertion force — コンピュータチップまたはソケットのどちらにもまったく力を加えないで、チップを取り付けまたは取り外しできるソケットやコネクタの一種です。

Zip — 一般的なデータの圧縮フォーマットです。**Zip** フォーマットで圧縮されているファイルを **Zip** ファイルといい、通常、ファイル名の拡張子が **.zip** となります。特別な **Zip** ファイルに自己解凍型ファイルがあり、ファイル名の拡張子は **.exe** となります。自己解凍型ファイルは、ファイルをダブルクリックするだけで自動的に解凍できます。

Zip ドライブ — lomega Corporation によって開発された大容量のフロッピードライブで、Zip ディスクと呼ばれる 3.5 インチのリムーバブルディスクを使用します。Zip ディスクは標準のフロッピーディスクよりもやや大きく約二倍の厚みがあり、100 MB のデータを保持できます。

あ

アンチウイルスソフトウェア — お使いのコンピュータからウイルスを見つけ出して隔離し、検疫して、除去するように設計されたプログラムです。

ウイルス — 嫌がらせ、またはコンピュータのデータを破壊する目的で作られたプログラムです。ウイルスプログラムは、ウイルス感染したディスク、インターネットからダウンロードしたソフトウェア、または E-メールの添付ファイルを経由してコンピュータから別のコンピュータへ感染します。ウイルス感染したプログラムを起動すると、プログラムに潜伏したウイルスも起動します。

一般的なウイルスに、フロッピーディスクのブートセクターに潜伏するブートウイルスがあります。フロッピーディスクを挿入したままコンピュータをシャットダウンすると、次の起動時に、コンピュータはオペレーティングシステムを探すためフロッピーディスクのブートセクターにアクセスします。このアクセスでコンピュータがウイルスに感染します。一度コンピュータがウイルスに感染すると、ブートウイルスは除去されるまで、読み書きされるすべてのフロッピーディスクにウイルスをコピーします。

エクスプレスサービスコード — Dell™ コンピュータのラベルに付いている数字のコードです。デルにお問い合わせの際は、エクスプレスサービスコードをお伝えください。エクスプレスサービスコードが利用できない国もあります。

オプティカルドライブ — CD、DVD、または DVD+RW から、光学技術を使用してデータを読み書きするドライブです。オプティカルドライブには、CD ドライブ、DVD ドライブ、CD-RW ドライブ、および CD-RW/DVD コンボドライブが含まれます。

オンボード — 通常、コンピュータのシステム基板上に物理的に搭載されているコンポーネントを指します。ビルトインとも呼ばれます。

か

カーソル — キーボード、タッチパッド、またはマウスが次にどこで動作するかを示すディスプレイや画面上の目印です。通常は点滅する棒線かアンダーライン、または小さな矢印で表示されます。

解像度 — プリンタで印刷される画像や、またはモニターに表示される画像がどのくらい鮮明かという具合です。解像度を高い数値に設定しているほど鮮明です。

書き込み保護 — ファイルやメディアのデータ内容を変更不可に設定することです。書き込み保護を設定しデータを変更または破壊されることのないように保護します。3.5 インチのフロッピーディスクに書き込み保護を設定する場合、書き込み保護設定タブをスライドさせて書き込み不可の位置にします。

拡張カード — コンピュータのシステム基板上の拡張スロットに装着する電子回路基板で、コンピュータの性能を向上させます。ビデオカード、モデムカード、サウンドカードなどがあります。

拡張型 PC カード — 拡張型 PC カードは、取り付けられた際に PC カードスロットからカードの端が突き出しています。

拡張スロット — 拡張カードを挿入してシステムバスに接続する、システム基板上のコネクタです（コンピュータによって異なる場合もあります）。

拡張ディスプレイモード — お使いのディスプレイの拡張として、2 台目のモニターを使えるようにするディスプレイの設定です。デュアルディスプレイモードとも呼ばれます。

壁紙 — Windows デスクトップの背景となる模様や絵柄です。壁紙を変更するには Windows コントロールパネルから変更します。また、気に入った絵柄を読み込んで壁紙を作成することができます。

キーの組み合わせ — 複数のキーを同時に押して実行するコマンドです。

起動順序 — コンピュータが起動を試みるデバイスの順序を指定します。

起動ディスク — コンピュータを起動するために使用するディスクです。ハードドライブが損傷した場合や、コンピュータがウイルスに感染した場合など、起動 CD または起動ディスクが必要になりますので、常備しておきます。

起動 CD — コンピュータを起動するために使用する CD です。ハードドライブが損傷した場合や、コンピュータがウイルスに感染した場合など、起動 CD または起動ディスクが必要になりますので、常備しておきます。お使いの『Drivers and Utilities CD』(または『Resource CD』)が起動 CD です。

キャッシュ — 特殊な高速ストレージ機構で、メインメモリの予約領域、または独立した高速ストレージデバイスです。キャッシュは、プロセッサのオペレーションスピードを向上させます。

L1 キャッシュ — プロセッサの内部に設置されているプライマリキャッシュ。

L2 キャッシュ — プロセッサに外付けされた、またはプロセッサアーキテクチャに組み込まれたセカンダリキャッシュ。

休止状態モード — メモリ内のすべてをハードドライブ上の予約領域に保存してからコンピュータの電源を切る、省電力モードです。コンピュータを再起動すると、ハードドライブに保存されているメモリ情報が自動的に復元されます。

クロックスピード — システムバスに接続されているコンピュータコンポーネントがどのくらいの速さで動作するかを示す、MHz で示される速度です。

グラフィックスモード — x 水平ピクセル数 \times y 垂直ピクセル数 \times z 色数で表されるビデオモードです。グラフィックスモードは、どんな形やフォントも表現できます。

コントローラ — プロセッサとメモリ間、またはプロセッサとデバイス間のデータ転送を制御するチップです。

コントロールパネル — 画面設定などのオペレーティングシステムやハードウェアの設定を変更するためのユーティリティです。

さ

サージプロテクタ — コンセントを介してコンピュータに影響を与える電圧変動(雷などの原因で)から、コンピュータを保護します。サージプロテクタは、落雷や通常の AC ライン電圧レベルが 20 % 以上低下する電圧変動による停電からはコンピュータを保護することはできません。

ネットワーク接続はサージプロテクタでは保護できません。雷雨時は、必ずネットワークケーブルをネットワークコネクタから外してください。

サービスタグ — コンピュータに貼ってあるバーコードラベルのことで、デルサポートの support.jp.dell.com にアクセスしたり、デルのカスタマーサービスやテクニカルサポートに電話で問い合わせたりする場合に必要な識別番号が書いてあります。

システム基板 — コンピュータのメイン回路基板です。マザーボードとも呼ばれます。

指紋リーダー — 固有の指紋を使ってユーザーの身元証明を行う読み取りセンサーで、コンピュータのセキュリティ保護をサポートします。

ショートカット — 頻繁に使用するプログラム、ファイル、フォルダ、およびドライブにすばやくアクセスできるようにするアイコンです。ショートカットを Windows デスクトップ上に作成し、ショートカットアイコンをダブルクリックすると、それに対応するフォルダやファイルを検索せずに開くことができます。ショートカットアイコンは、ファイルが置かれている場所を変更するわけではありません。ショートカットアイコンを削除しても、元のファイルには何の影響もありません。また、ショートカットのアイコン名を変更することもできます。

シリアルコネクタ — I/O ポートは、コンピュータにハンドヘルドデジタルデバイスやデジタルカメラなどのデバイスを接続するためによく使用されます。

スキャンディスク — Microsoft のユーティリティで、ファイル、フォルダ、ハードディスクの表面のエラーをチェックします。コンピュータの反応が止まって、コンピュータを再起動した際にスキャンディスクが実行されることがあります。

スタンバイモード — コンピュータの不必要な動作をシャットダウンして節電する、省電力モードです。

スマートカード — プロセッサとメモリチップに内蔵されているカードです。スマートカードは、スマートカード搭載のコンピュータでのユーザー認証に利用できます。

赤外線センサー — ケーブルを利用しなくても、コンピュータと赤外線互換デバイス間のデータ転送ができるポートです。

セットアッププログラム — ハードウェアやソフトウェアをインストールしたり設定するために使うプログラムです。**setup.exe** または **install.exe** というプログラムが Windows 用ソフトウェアに付属しています。セットアッププログラムはセットアップユーティリティとは異なります。

セットアップユーティリティ — コンピュータのハードウェアとオペレーティングシステム間のインタフェース機能を持つユーティリティです。セットアップユーティリティは BIOS で日時やシステムパスワードなどのようなユーザーが選択可能なオプションの設定ができます。設定がコンピュータにどのような影響を与えるのか理解できていない場合は、このプログラムの設定を変更しないでください。

た

通行許可証 — 物品を外国へ一時的に持ち込む場合、一時輸入通関ができる通関手帳です。商品パスポートとも呼ばれます。

通知領域 — コンピュータの時計、音量調節、およびプリンタの状況など、プログラムやコンピュータの機能に素早くアクセスできるアイコンが表示されている Windows タスクバーの領域です。システムトレイとも呼ばれます。

テキストエディター — たとえば、Windows のメモ帳など、テキストファイルを作成および編集するためのアプリケーションプログラムです。テキストエディタには通常、ワードラップやフォーマット（アンダーラインのオプションやフォントの変換など）の機能はありません。

ディスクストライピング — 複数のディスクドライブにまたがってデータを分散させる技術です。ディスクのストライピングは、ディスクストレージからデータを取り出す動作を高速化します。通常、ディスクのストライピングを利用しているコンピュータではユー

ザーがデータユニットサイズまたはストライプ幅を選ぶことができます。

デバイス — コンピュータ内部に取り付けられているか、またはコンピュータに接続されているディスクドライブ、プリンタ、キーボードなどのハードウェアです。

デバイスドライバ — ドライバを参照してください。

デュアルコア — 1 つのプロセッサパッケージに 2 つの物理計算ユニットを集積し、それによって計算効率とマルチタスク機能を向上させた Intel® テクノロジです。

デュアルディスプレイモード — お使いのディスプレイの拡張として、2 台目のモニターを使えるようにするディスプレイの設定です。デュアルモニタとも呼ばれます。

トラベルモジュール — ノートブックコンピュータの重量を減らすために、モジュールベイの中に設置できるよう設計されているプラスチック製のデバイスです。

ドッキングデバイス — APR を参照してください。

ドメイン — ネットワーク上のコンピュータ、プログラム、およびデバイスのグループで、特定のユーザーグループによって使用される共通のルールと手順のある単位として管理されます。ユーザーは、ドメインにログオンしてリソースへのアクセスを取得します。

ドライバ — プリンタなどのデバイスが、オペレーティングシステムに制御されるようにするためのソフトウェアです。多くのデバイスは、コンピュータに正しいドライバがインストールされていない場合、正常に動作しません。

な

ネットワークアダプタ — ネットワーク機能を提供するチップです。コンピュータのシステム基板上にネットワークアダプタが内蔵されていたり、アダプタが内蔵されている PC カードもあります。ネットワークアダプタは、NIC（ネットワークインタフェースコントローラ）とも呼ばれます。

は

ハードドライブ — ハードディスクのデータを読み書きするドライブです。ハードドライブとハードディスクは同じ意味としてどちらかが使われています。

ハイパースレッディング — 1つの物理プロセッサを2つの論理プロセッサとして機能させ、特定のタスクを同時に実行できるようにすることで、コンピュータのパフォーマンス全般を強化する Intel テクノロジーです。

バイト — コンピュータで使われる基本的なデータ単位です。1バイトは8ビットです。

バス — コンピュータのコンポーネント間で情報を通信する経路です。

バス速度 — バスがどのくらいの速さで情報を転送できるかを示す、MHz で示される速度です。

バッテリー駆動時間 — ノートブックコンピュータのバッテリーでコンピュータを駆動できる持続時間（分または時間）です。

バッテリーの寿命 — ノートブックコンピュータのバッテリーが、消耗と再充電を繰り返すことのできる期間（年数）です。

パーティション — ハードドライブ上の物理ストレージ領域です。1つ以上の論理ストレージ領域（論理ドライブ）に割り当てられます。それぞれのパーティションは複数の論理ドライブを持つことができます。

パラレルコネクタ — I/O ポートは、コンピュータにパラレルプリンタを接続する場合などに使用されます。LPT ポートとも呼ばれます。

ヒートシンク — 放熱を助けるプロセッサに付属する金属板です。

ビット — コンピュータが認識するデータの最小単位です。

ビデオ解像度 — [解像度](#)を参照してください。

ビデオコントローラ — お使いのコンピュータに（モニターの組み合わせにおいて）ビデオ機能を提供する、ビデオカードまたは（オンボードビデオコントローラ搭載のコンピュータの）システム基板の回路です。

ビデオメモリ — ビデオ機能専用のメモリチップで構成されるメモリです。通常、ビデオメモリはシステム

メモリよりも高速です。取り付けられているビデオメモリの量は、主にプログラムが表示できる色数に影響を与えます。

ビデオモード — テキストやグラフィックスをモニターに表示する際のモードです。グラフィックスをベースにしたソフトウェア（Windows オペレーティングシステムなど）は、 x 水平ピクセル数 \times y 垂直ピクセル数 \times z 色数で表されるビデオモードで表示されます。文字をベースにしたソフトウェア（テキストエディタなど）は、 x 列 \times y 行の文字数で表されるビデオモードで表示されます。

ピクセル — ディスプレイ画面の構成単位である点です。ピクセルが縦と横に並び、イメージを作ります。ビデオの解像度（800 \times 600 など）は、上下左右に並びピクセルの数で表します。

ファーレンハイト（華氏） — 温度の単位で、水の氷点を 32 度、沸点を 212 度としています。

フォーマット — ファイルを保存するためにドライブやディスクを準備することです。ドライブまたはディスクをフォーマットするとデータはすべて消失します。

フォルダ — ディスクやドライブ上のファイルを整理したりグループ化したりする入れ物です。フォルダ中のファイルは、名前や日付やサイズなどの順番で表示できます。

プラグアンドプレイ — デバイスを自動的に設定するコンピュータの機能です。BIOS、オペレーティングシステム、およびすべてのデバイスがプラグアンドプレイ対応の場合、プラグアンドプレイは、自動インストール、設定、既存のハードウェアとの互換性を提供します。

プロセッサ — コンピュータ内部で中心的に演算を行うコンピュータチップです。プロセッサは、CPU（中央演算処理装置）とも呼ばれます。

ま

ミニカード — 通信用 NIC など内蔵周辺機器用に設計された小型のカードです。ミニカードの機能は、標準の PCI 拡張カードと同等です。

ミニ PCI — モデムや NIC など通信機能を主とする内蔵周辺機器の規格です。ミニ PCI カードは、標準の PCI 拡張カードと同等の機能を持つ小型の外付けカードです。

メモリ — コンピュータ内部にある、一時的にデータを保存する領域です。メモリにあるデータは一時的に格納されているだけなので、作業中は時々ファイルを保存するようお勧めします。また、コンピュータをシャットダウンするときもファイルを保存してください。コンピュータのメモリには、RAM、ROM、およびビデオメモリなど何種類かあります。通常、メモリというと RAM メモリを指します。

メモリアドレス — データを一時的に RAM に保存する特定の場所です。

メモリマッピング — スタートアップ時に、コンピュータが物理的な場所にメモリアドレスを割り当てる処理です。デバイスとソフトウェアが、プロセッサによりアクセスできる情報を識別できるようになります。

メモリモジュール — システム基板に接続されている、メモリチップを搭載した小型回路基板です。

モジュールベイ — オプティカルドライブ、セカンドバッテリー、または Dell TravelLite™ モジュールなどのようなデバイスをサポートするベイです。

モデム — アナログ電話回線を介して他のコンピュータと通信するためのデバイスです。モデムには、外付けモデム、PC カード、および内蔵モデムの 3 種類があります。通常、モデムはインターネットへの接続や E-メールの交換に使用されます。

や

読み取り専用 — 表示することはできますが、編集したり削除したりすることができないデータやファイルです。次のような場合にファイルを読み取り専用に設定できます。

- フロッピーディスク、CD、または DVD を書き込み防止に設定している場合
- ファイルがネットワーク上のディレクトリにあり、システム管理者がアクセス権限に特定の個人だけを許可している場合

ら

リフレッシュレート — 画面上のビデオイメージが再描画される周波数です。単位は Hz で、このリフレッシュレートの周波数で画面の水平走査線（垂直周波数とも呼ばれます）が再描画されます。リフレッシュレートが高いほど、ビデオのちらつきが少なく見えます。

ローカルバス — デバイスにプロセッサへの高速スループットを提供するデータバスです。

索引

B

BIOS, 115

C

CD, 28

オペレーティングシステム, 11
再生, 26

CD のコピー

全般的な情報, 28
手順, 28
便利なヒント, 29

CD の再生, 26

CD/DVD ドライブ

問題, 46

CD-RW ドライブ

問題, 47

CMOS 設定

リセット, 122

D

Dell, 62

Dell Diagnostics (診断)

プログラム, 62

Dell PC リストア, 67

Dell サポートサイト, 10

Drivers and Utilities CD, 9

DVD, 28

再生, 26

DVD ドライブ

問題, 46

DVD のコピー

全般的な情報, 28
手順, 28
便利なヒント, 29

DVD の再生, 26

E

E-メール

問題, 47

P

PCI Express カード

取り付け, 83
取り外し, 88

PCI カード

取り外し, 82

R

RAID

構成, 35

T

TV

コンピュータに接続, 18
コンピュータへの接続, 17

U

USB

デバイスに起動, 120

W

Windows XP

再インストール, 65

システムの復元, 65

スキャナー, 56

デバイスドライバのロール

バック, 64

ネットワークセットアップ

ウィザード, 23

ハードウェアに関するトラブル

シューティング, 65

ハイパースレッディング, 35

ファイルと設定の転送

ウィザード, 23, 26, 35

プログラム互換性ウィザード,
51

ヘルプとサポートセンター, 10

再インストール, 11

あ

新しいコンピュータへの情報の

転送, 23, 26, 35

安全にお使いいただくための

注意, 9

い

インターネット

接続, オプション, 21

接続, セットアップ, 21

接続, 説明, 21

問題, 47

う

- ウィザード
 - ネットワークセットアップ
ウィザード, 23
 - ファイルと設定の転送
ウィザード, 23, 26, 35
 - プログラム互換性ウィザード,
51

え

- エラーメッセージ
 - トラブルシュート, 48
 - 診断ライト, 59
- エンドユーザーライセンス
同意書, 9

お

- オーディオ ※サウンドを参照
- オペレーティングシステム
CD, 11
 - Windows XP の再
インストール, 65
 - 再インストール, 11

か

- カード
 - PCI Express, 82
 - PCI Express の取り付け, 83
 - PCI Express の取り外し, 88
 - PCI の取り外し, 82
- カバー
 - 取り付け, 110

き

- キーボード
 - 問題, 50
- 起動
 - USB デバイス, 120
- 起動順序
 - オプション設定, 120
 - 説明, 120
 - 変更, 120-121
- 休止状態モード, 32-33

こ

- コンピュータ
 - 応答しない, 50
 - クラッシュ, 50-51
 - 内部のコンポーネント, 72
 - 内面図, 72
 - 元の状態に戻す, 65
 - 元の状態へ復元, 65

さ

- サービスタグ, 10
- 再インストール
 - Windows XP, 65
- サウンド
 - ボリューム, 57
 - 問題, 57
- 作業姿勢に関する情報, 9
- サポート
 - デルへのお問い合わせ, 124
- サポートウェブサイト, 10

し

- システムの復元, 65
- システム基盤, 73

仕様

- オーディオ, 112
 - 拡張バス, 112
 - コネクタ, 113
 - コントロールおよびライト,
114
 - コンピュータ情報, 111
 - 寸法, 114
 - 電源, 114
 - ドライブ, 113
 - ビデオ, 111
 - プロセッサ, 111
 - メモリ, 111
 - 環境, 115
 - 技術, 111
- 診断, 62
- 診断ライト, 59

す

- スキャナー
 - 問題, 56
- スタンバイモード, 31
- スピーカー
 - ボリューム, 57
 - 問題, 57

せ

- 製品情報ガイド, 9
- 設定
 - セットアップユーティリティ,
115
- セットアップユーティリティ
オプション, 116
- 説明, 115
- 画面, 116
- 起動, 115

そ

ソフトウェア
ハイパースレッディング, 35
問題, 51-52

て

ディスクのチェック, 47

デル

お問い合わせ, 124

デルへのお問い合わせ, 124

電源

オプション, 32

オプション、設定, 32

管理, 31

スタンバイモード, 31

休止状態モード, 32-33

節約, 31

問題, 54

電源オプションのプロパティ,
32

電源ライト

状態, 54

電話番号, 124

と

ドライバ

識別, 63

説明, 63

ドライブ

RAID, 35

問題, 46

ドライブパネル, 91

取り付け, 93

取り外し, 91

ドライブベイカバー

取り付け, 92

取り外し, 92

トラブルシューティング, 62

ハードウェアに関するトラブル
シューティング, 65

ヒント, 45

ヘルプとサポートセンター, 10

元の状態に戻す, 65

元の状態へ復元, 65

トラブルの解決

診断ライト, 59

に

認可機関の情報, 9

ね

ネットワーク

セットアップ, 22

ネットワークセットアップ

ウィザード, 23

問題, 54

ネットワークセットアップ

ウィザード, 23

は

ハードウェア

Dell Diagnostics (診断)

プログラム, 62

ドライブ, RAID 構成, 35

ハードウェアに関するトラブル

シューティング, 65

ハードドライブ

問題, 47

ハイパースレッディング, 35

パスワード

ジャンパ, 121

消去, 121

バッテリー

交換, 109

問題, 45

ふ

ファイルと設定の転送

ウィザード, 23, 26, 35

部品の取り付け

コンピュータの電源を切る, 69

作業を開始する前に, 69

奨励するツール, 69

プリンタ

USB, 20

ケーブル, 20

接続, 20

セットアップ, 20

問題, 55

プログラム互換性ウィザード,

51

へ

ヘルプとサポートセンター, 10

ヘルプファイル

Windows ヘルプとサポート

センター, 10

ほ

ポリウム

調整, 57

ま

- マウス
 - 問題, 53
- マザーボード, 73
- マニュアル
 - 安全性, 9
 - エンドユーザーライセンス
同意書, 9
 - オンライン, 10
 - 作業姿勢, 9
 - 認可機関, 9
 - 製品情報ガイド, 9

め

- メッセージ
 - エラー, 48
- メディアカードリーダー
 - 取り付け, 102, 104
 - 取り外し, 102
 - 使い方, 30
 - 問題, 49
- メモリ
 - 問題, 52

も

- モデム
 - 問題, 47
- モニター
 - 2台の接続, 17-18
 - DVIの接続, 17-18
 - TVの接続, 17-18
 - VGAの接続, 17-18
 - 拡張デスクトップモード, 19
 - クローンモード, 19
 - 何も表示されない, 58
 - 画面設定, 19
 - 見づらい, 58

問題

- CDドライブ, 46
- CD-RWドライブ, 47
- Dell Diagnostics (診断)
プログラム, 62
- DVDドライブ, 46
- E-メール, 47
- インターネット, 47
- エラーメッセージ, 48
- キーボード, 50
- コンピュータが応答しない, 50
- コンピュータクラッシュ, 50
- コンピュータのクラッシュ, 51
- サウンドおよびスピーカー, 57
- 診断ライト, 59
- スキャナー, 56
- ソフトウェア, 51-52
- 電源, 54
- 電源ライトの状態, 54
- ドライブ, 46
- トラブルシューティングの
ヒント, 45
- ネットワーク, 54
- ハードドライブ, 47
- バッテリー, 45
- プリンタ, 55
- ブルースクリーン, 51
- プログラムが応答しない, 51
- プログラムと Windows の
互換性, 51
- プログラムのクラッシュ, 51
- ボリューム調整, 57
- マウス, 53
- メディアカードリーダー, 49
- メモリ, 52
- モデム, 47
- モニターが見づらい, 58
- モニターに何も表示されない,
58
- 一般, 50
- 画面が見づらい, 58
- 画面に何も表示されない, 58
- 元の状態に戻す, 65
- 元の状態への復元, 65
- 診断ライト
 - 診断ライト, 59

ら

- ライト
 - コンピュータの前面, 59
 - 診断, 59
- ラベル
 - Microsoft Windows, 10
 - サービスタグ, 10